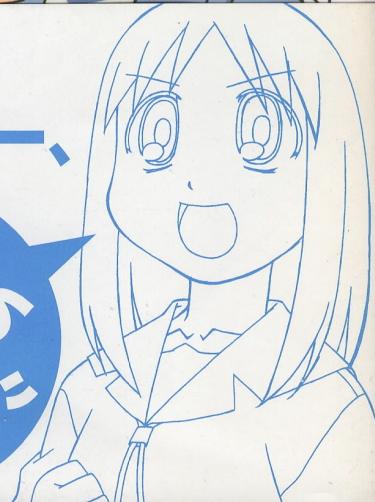
14話から26話までのフィルムストーリーほか、
声優＆スタッフインタビュー、イラストギャラリー、
追加設定資料集など、イラストも

見どころも満載！

これ
読まんと
あかんの
やった

あずまんが大王 THE ANIMATION VISUAL BOOK②

アニメムック第２弾!!ついに登場！

10th ANNIVERSARY DENGEKI

発行／メディアワークス　定価：本体1,500円　※消費税が別に加算されます

VISUAL BOOK
あずまんが大王
THE ANIMATION
2

CHIYO CHICHI
front view

DENGEKI ANI-MAGA
アニマガ
vol.2
絶賛
発売中！

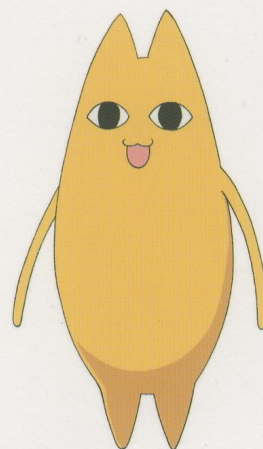
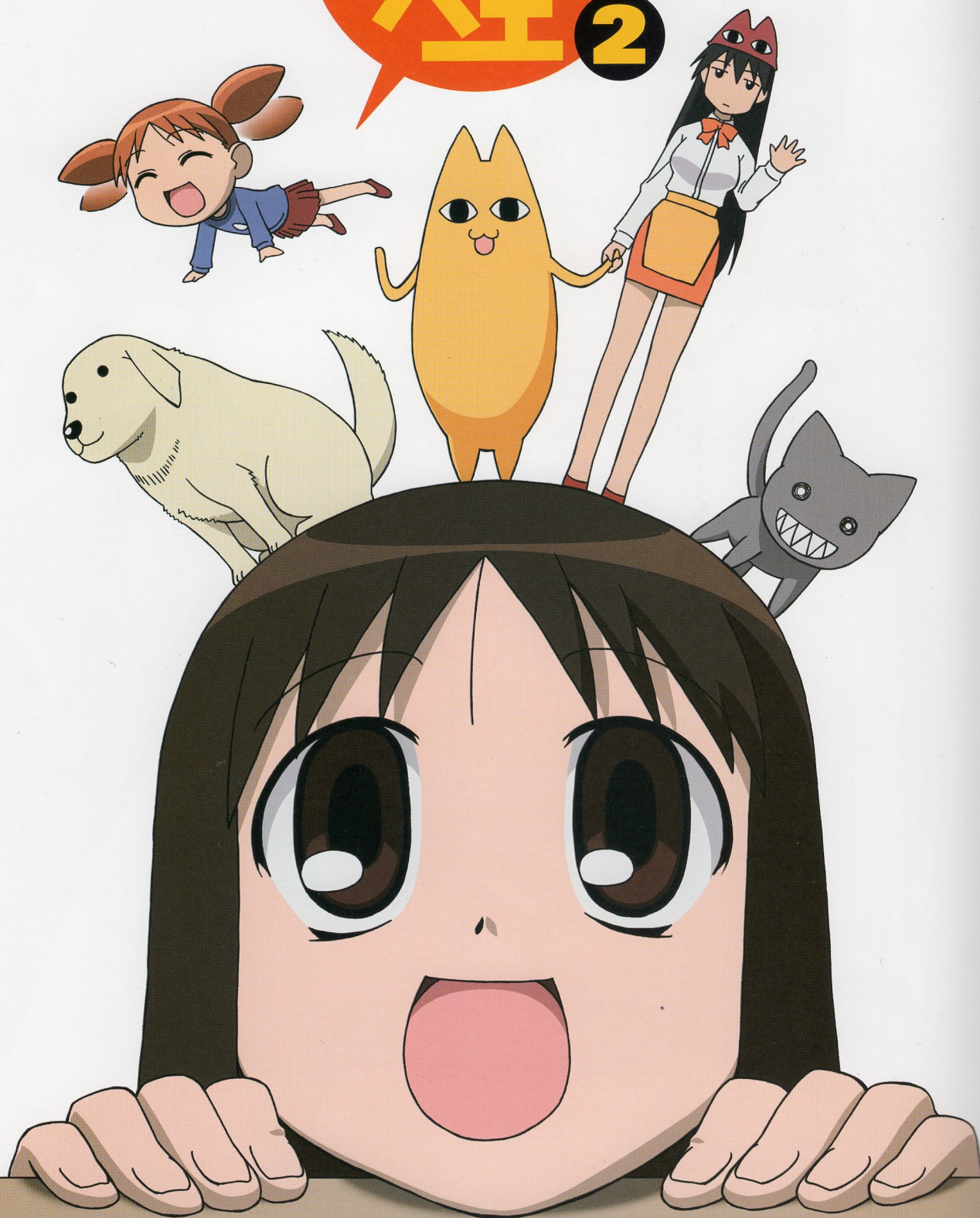
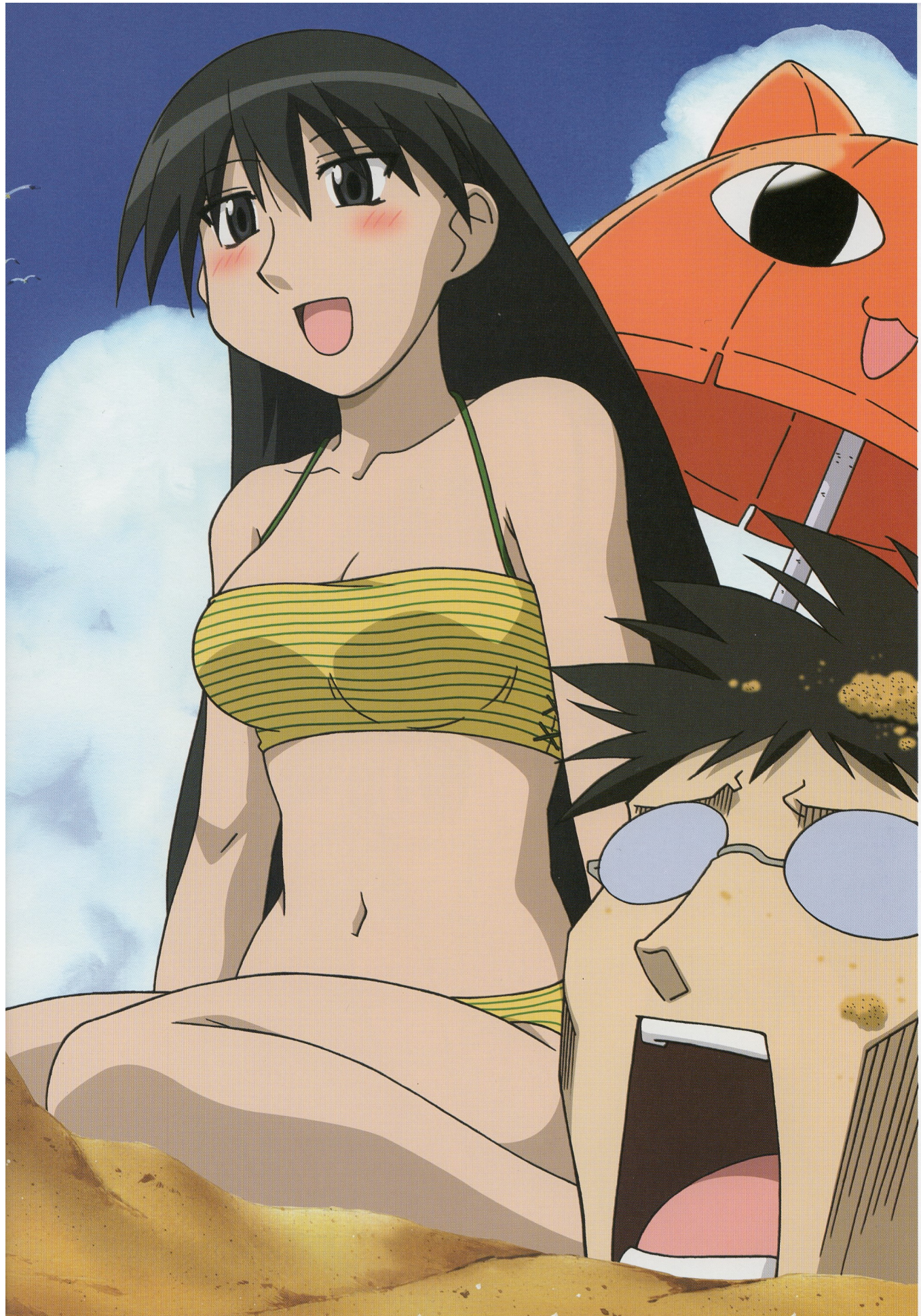
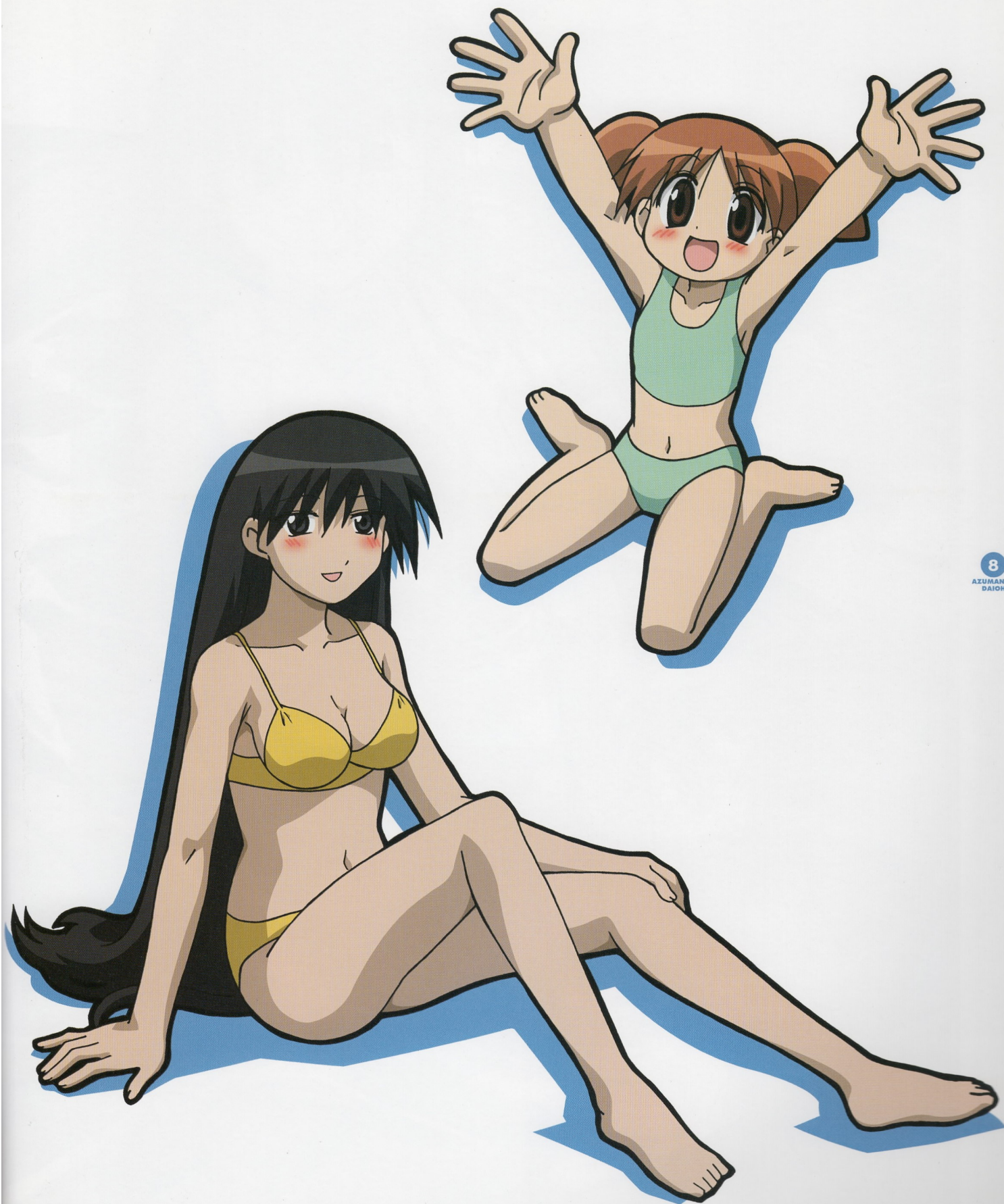
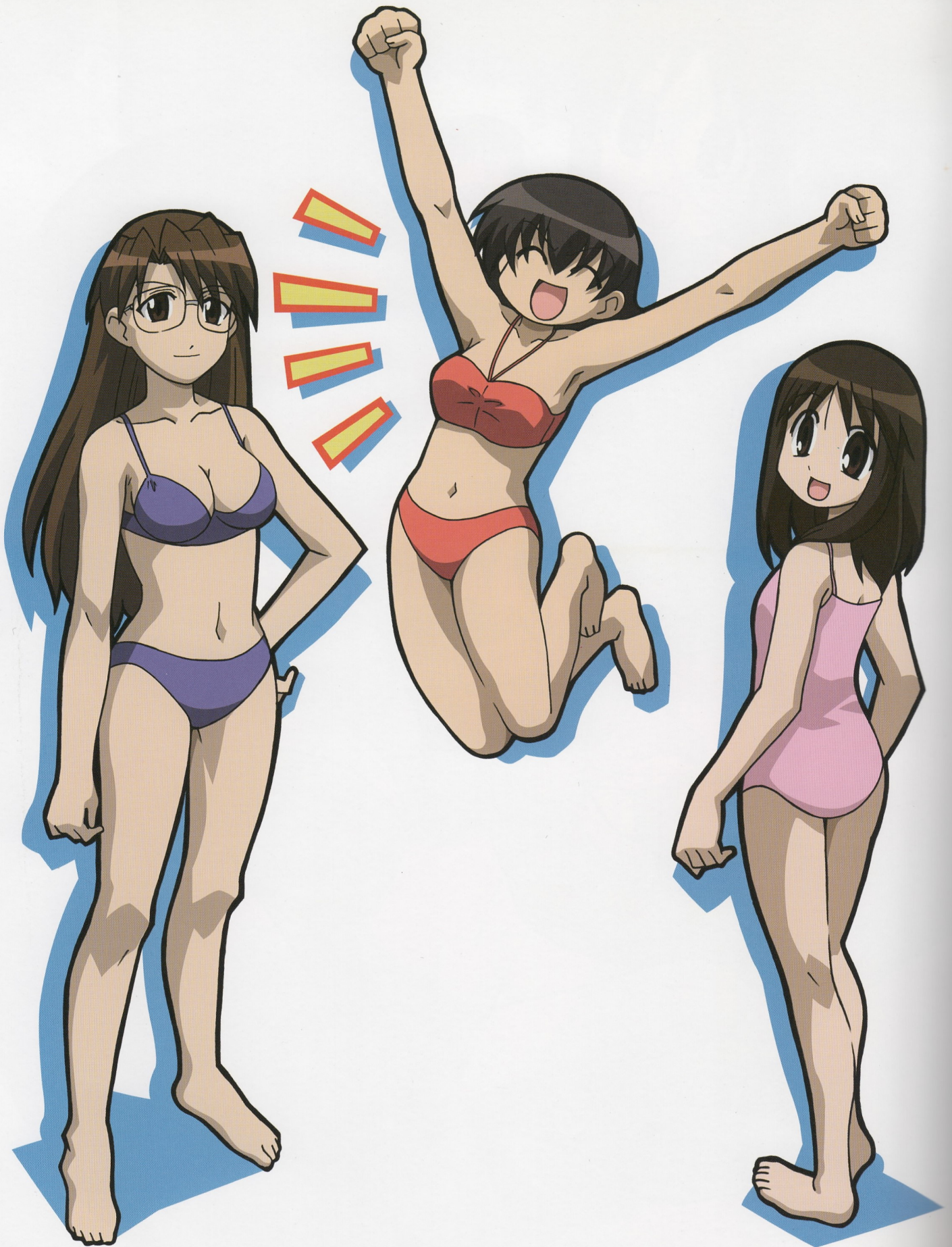
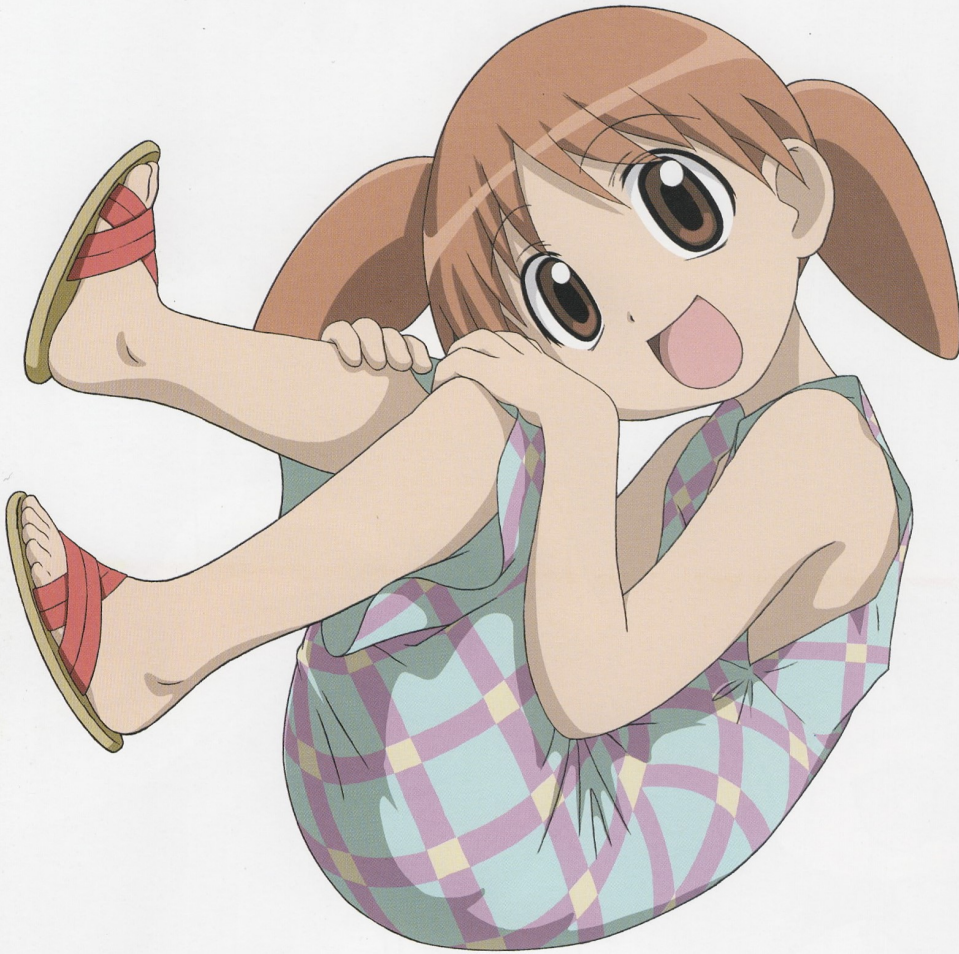
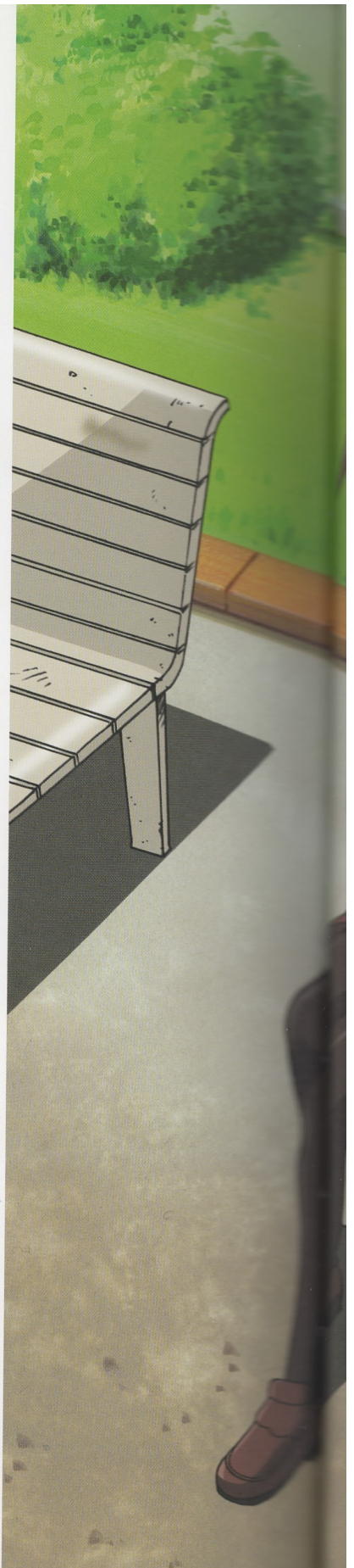
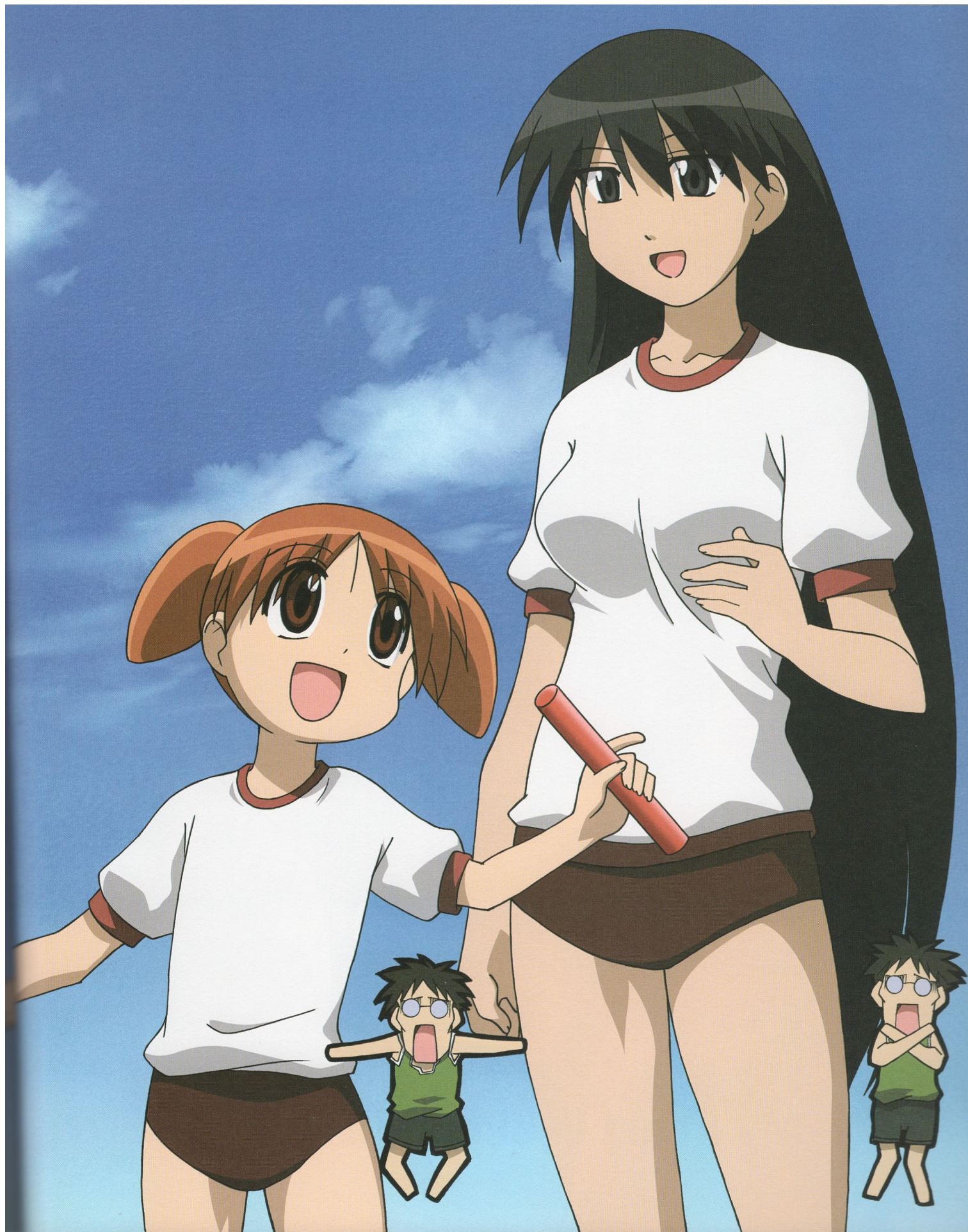
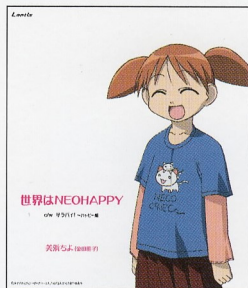
CONTENTS

5
AZUMANGA
DAIOH

6
AZUMANGA
DAIOH

7
AZUMANGA
DAIOH

8
AZUMANGA
DAIOH

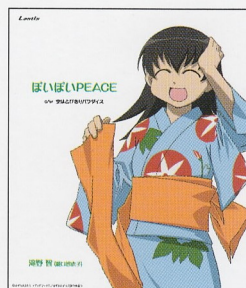
11
AZUMANGA
DAIOH

My heart is singing!!

■TVアニメ「あずまんが大王」キャラクターCDシリーズ

美浜ちよ
“世界はNEOHAPPY”

LACM－4055／1,200円(税込)
●第１弾は、ちよちゃん役の金田朋子が歌う「世界はNEOHAPPY」「サラバイ～ハッピー編」の２曲とカラオケを収録。

榊さん
“心は少女でパラシュート”

LACM－4056／1,200円(税込)
●第２弾は、榊さん役の浅川悠が歌う「心は少女でパラシュート」「魔法猫に会える日は」の２曲とカラオケを収録。

春日 歩(大阪)
“しっかり！ TRY La Lai”

LACM－4060／1,200円(税込)
●第３弾は、大阪役の松岡由貴が歌う「しっかり! TRY La Lai」「Time Pavemant」の２曲とカラオケを収録。

滝野 智
“ぽいぽいPEACE”

LACM－4064／1,200円(税込)
●第４弾は、智役の樋口智恵子が歌う「ぽいぽいPEAC」「空はとびきりパラダイス」の２曲とカラオケを収録。

神楽
“明日は負けないGO！FRIEND！”

LACM－4065／1,200円(税込)
●第５弾は、神楽役の桑島法子が歌う「明日は負けないGO！FRIEND！」「Lazy Crazy ボンクラーズ」の２曲とカラオケを収録。

水原 暦
“それぞれのOne way”

LACM－4069／1,200円(税込)
●第６弾は、暦役の田中理恵が歌う「それぞれのOne way」「おいしいキミたち」の２曲とカラオケを収録。

谷崎ゆかり＆黒沢みなも
“おとなを休んで出かけよう”

LACM－4070／1,200円(税込)
●第７弾は、ゆかり役の平松晶子とにゃも役の久川綾が歌う「おとなを休んで出かけよう」「天職イコール快感の法則」の２曲とカラオケを収録。

かおりん
“風のMon-Ami”

●第８弾は、かおりん役の野川さくらが歌う「風のMon-Ami」「TeaRose で眠りましょう」の２曲とカラオケを収録。

■アレンジアルバム

Tribute to あずまんが大王

LACA－5123／2400円(税込)
●栗コーダーポップスオーケストラとOranges & Lemonsによる新アレンジアルバム。

■オリジナルサウンドトラック

オリジナルサウンドトラック vol.1

LACM－5011／3,000円(税込)
●栗原正己率いる栗コーダーポップスオーケストラによるBGMと、Oranges & Lemonsが歌うOP＆EDテーマのTVサイズを追加収録。

オリジナルサウンドトラック vol.2

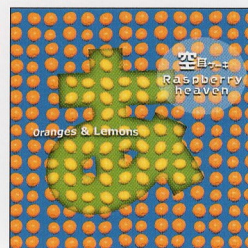
LACM－5028／3,000円(税込)
●シリーズ後半に使用されたBGMと、ファン待望のちよちゃんが歌う「お料理曲」を収録。

■オープニングテーマとエンディングテーマを収録したマキシシングル

空耳ケーキ
Raspberry heaven

LACM－4053
1,200円(税込)
●上野洋子と伊藤真澄からなるユニットOranges & Lemonsによる番組のオープニングテーマ曲を収録。c/wは、エンディングテーマの「Raspberry heaven」。

GOODS

※ 2002年12月10日現在。

■あずまんが大王　DVD

あずまんが大王第１巻＠１年生

KIBA-9795, 9796／14,800円(税抜)
●２枚組・９話収録。全巻収納BOXつき。

あずまんが大王第２巻＠２年生

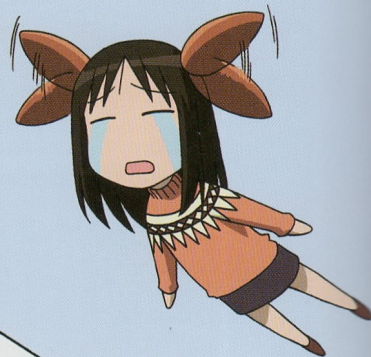
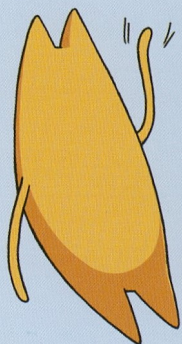
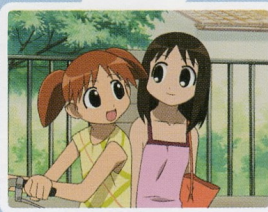
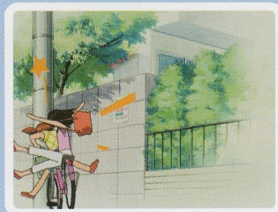
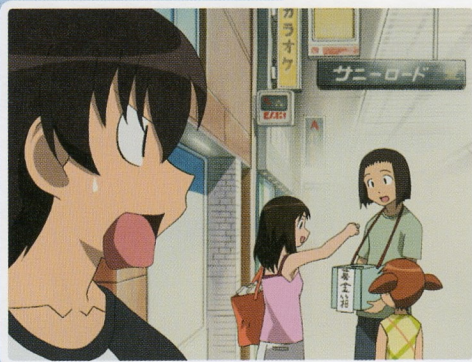
KIBA-9797, 9798／14,800円(税抜)
●２枚組・10話収録。初回封入特典は、あずまきよひこが「あずまんが大王」のために描いたカラーイラストを完全収録した複製画集。

Now Printing

あずまんが大王第３巻＠３年生

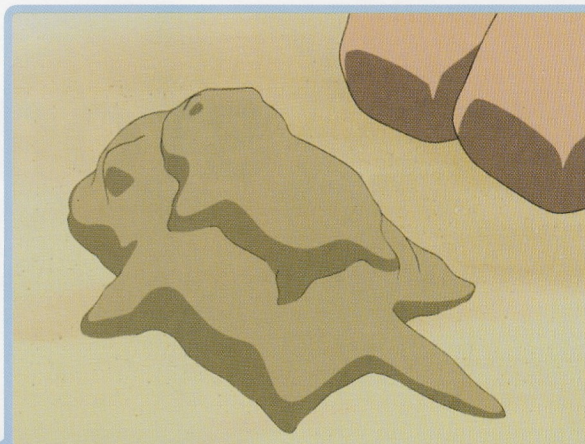
2003年１月22日発売
KIBA-9799, 9800
11,000円(税抜)
●２枚組・７話収録。初回封入特典は、「ちよ父」オリジナルカラーキーホルダー。

STORY#14~#26

「おかいもの」

14-1

今度はあげてるのかよ！

STORY
●ストーリー

今年も、ちよちゃんの別荘に行くことになりました。メンバーはいつもの5人。もちろん、どこからか聞きつけたゆかり先生とにゃも先生も一緒です。旅行にそなえて、大阪と買い物に行くことにしたちよちゃんですが……。

14

第14回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

色指定●伊藤由紀子

みんなで楽しい夏休み〜。色指定が大変だったけどおもしろかった。あと、ちよちゃんのトラウマ、ゆかり車の大暴走、無くてよかったなと。でも、ちよ父いなくてさみしい……。

次回予告
NEXT PREVIEW

ゆかり「体育祭もいよいよ2年目。今年も勝つ！　絶対勝つ!!」
智「ゆかりちゃんは2組に勝てればいんじゃないの？」
ゆかり「夢ははてしなく大きく。目標はあくまで優勝。優勝よ。」
神楽「おっ、今年はずいぶんまじめだな」
智「何かおいしいものでも食べられるのか？」
ゆかり「ハハハハハ。それは勝ってからのお楽しみ。来週も見てね！」
神楽「やっぱり……」

14-2 「集合」

じゃ、運転は私が！ みんな乗り込めー！

STORY ストーリー

別荘に出発する日になりました。空はきれいに晴れ渡り、絶好の旅行日和です。待ち合わせのちよちゃんの家に、誰よりも早くやって来たのは榊さん。どうやら、ちよちゃんの飼い犬、忠吉さんがお目当てだったようです。

14-3 「うみー！」

やっちゃったじゃねー!!

STORY ストーリー

ちよちゃんが全員一緒に乗れる車を用意し、今年はゆかり先生の恐怖の運転を味わわなくてすみました。車酔いすることもなく、別荘に到着したみんなは元気いっぱい。でも、元気すぎて智が別荘の鍵を投げ捨てる暴挙に。

「捕獲作戦」

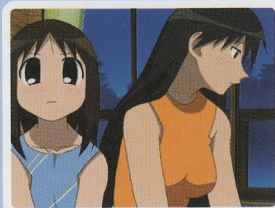
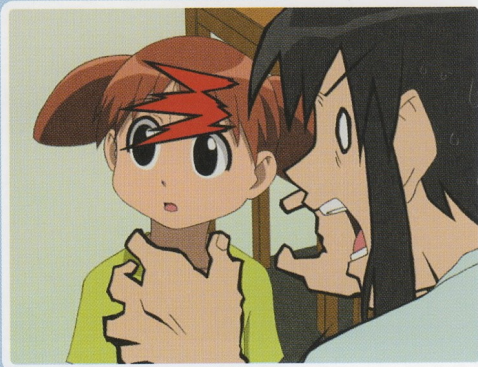
14-4

はあ……浴衣着るのなんか、ものすげー久しぶり

STORY ストーリー

夜です。夜ともなれば、宴会です。違いました、その前にお祭りです。お祭りといえば、浴衣です。しかし、着付けができるのはちよちゃんと榊さんだけでした。一応大人のゆかり先生とにゃも先生、立場がありません……。

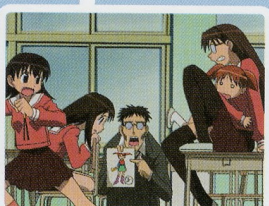
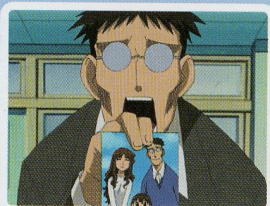
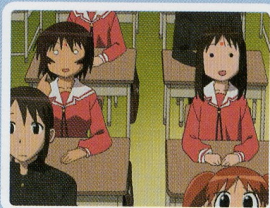
「大人の世界」

14-5

ちよちゃん！　そんなことどこで覚えたの？

STORY ストーリー

お祭りで楽しく遊んで、すっかり夜も更けました。そろそろ消灯時間、ちよちゃんもおねむのようです。でも、そんなことを智が許すはずがないのです。旅行の醍醐味は夜更かしと言い張って、彼女を無理矢理起こします。

「木村家の人々」

15-1

マイワイフ

STORY
●ストーリー

体育祭の応援合戦の話をしているとき、どこからともなく木村先生が現れて魔女っ子ふうの衣装を提案します。すぐさま暦が却下しますが、そのとき彼の懐からきれいな女の人の写真がひらり。この人と木村先生の関係は？

第15回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

色指定●土井和

体育祭で汗をかいているのですが、色が意外に目立たなくて盲点でした。はちまきなどはべたーに紅白でいってしまいました。智ちゃんはいつも元気ですね（ちよちゃんのおでこが痛々しい……）。

NEXT PREVIEW

智「2年生もイベントづくし。来週は文化祭！」
かおりん「今回はコスプレ満載大サービス！
特別コスチューム連発！　かわいさ120点！」
大阪「ぬりかべとか、からかさおばけとかいっぱいでるでー」
智「そ、それはコスプレというにはちょっと……」
大阪「それやったらたこ焼きとかお好み焼きいうのはどうや？」
智「よけい遠くなった気がするが……」
大阪「そんならホームラン」
智「なに……それ……」

15-2 「みたみた？」

でも、私はぜんぜん太ってへんで

STORY ストーリー

体育祭といえば、スポーツの得意な神楽と榊さんの出番です。特に神楽はすっかり張り切っています。逆に足を引っ張ってしまいそうでドキドキなのがちよちゃん。玉入れでは、今年こそひとつは入れると決意するのでした。

15-3 「未確認奥さん」

この人、人を見る目がねえ！

STORY ストーリー

ちよちゃんは騎馬戦競技にも出場。しかも馬です。ほかの馬役は暦、大阪。騎乗するのは智です。考えられる限り最悪の組み合わせだと、暦は頭を抱えます。案の定、智が暴走し、大阪がボケて、チームは自滅することに。

15-4 「ガチガチ」

し、死にますから!!

STORY ストーリー

ちよちゃんは、借り物競走にも出場です。彼女が借りることになったのは「バカ」。どうすればいいんだろうと、しばし固まってしまうちよちゃん。でも、迷っているヒマはありません。そして、ちよちゃんが選んだ人は？

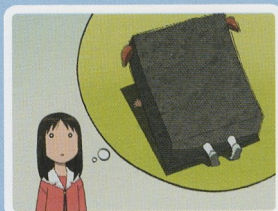
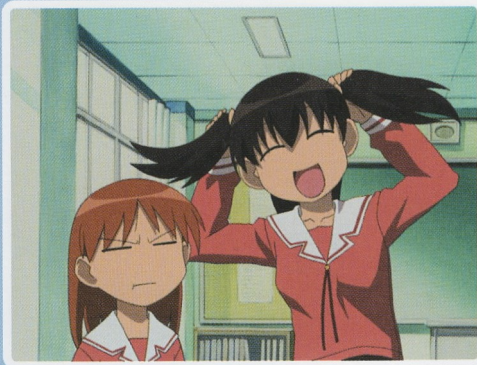
15-5 「結果発表」

……なぜ？

STORY ストーリー

最後の競技は全員参加の10キロマラソン。智はこれで優勝を決めると、やる気満々。スタートするなりラストスパートをかけてしまいます。でもそれは、最初の１キロだけでも１位になりたいという野望のためだったのです。

「くみあわせ」

16-1

そんなんじゃありませんのだ!

STORY
●ストーリー

体育祭が終われば、今度は文化祭です。でも、クラスも催し物を決めようとしても、なかなかいい意見が出ません。ゆかり先生は体育祭で燃え尽きたのか、すっかりやる気なしモード。仕方なく、今年も目安箱の出番に……。

16

第16回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

脚本●大久保智康

16話のみどころと言えば、何といっても「ちよペンギン」なわけですが、この「ちよペンギン」のかわいさと言ったらもう天と地がひっくり返るくらいというか西から昇ったお日さまが東へ沈むくらいというかテレビ版『ペーパー・ムーン』のジョディ・フォスターも座ってしょんべんして呆然となるくらいというかとにかくもうそのくらいかわいらしいのであって、無論原作からしてあれだけかわいかったのだから当然といえば当然なのだけどそれにしてもアニメ版で動きを伴ったときあのちっちゃなずんぐりがどうしてあそこまでかわいく見えてしまうのかは永遠の謎というかモナリザの微笑のような謎というか汲めども汲めども尽きせぬ井戸のような謎というか(以下略)。

NEXT PREVIEW

大阪「もーすぐクリスマス。そろそろサンタの来る季節やなぁー」
智「サンタなんてほんとにいるの?
大体サンタってさ、何してくれるわけ?
知らない人がプレゼントくれるなんてなんかあやしくない?」
大阪「ミステリーやな。トナカイとグルやし、大きい袋持ってるし」
智「袋の中には一体何が!?」
大阪・智「おおーっ」
暦「プレゼントだろ!」

「降臨」

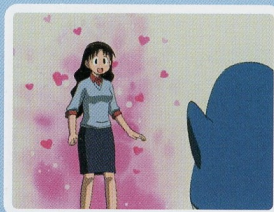
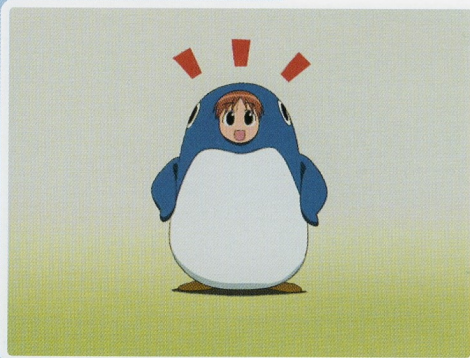
16-2

誰か時計の針を戻して～！

STORY
●ストーリー

いろいろと紛糾しましたが、去年の経験を活かして(?)、催し物はぬいぐるみ喫茶に決定。でも、明日はもう文化祭だというのに、全然準備が進みません。もしかしたら間に合わないかもー!? 　と、ちよちゃんは真っ青です。

「かわいい」

16-3

体操なんかいいですね。ハイハイ、ハイハイ

STORY
●ストーリー

結局、人数分のぬいぐるみ帽子が作れずに、ねここねこで代用したりしましたが、どうにかこうにか形は整い、いよいよ「ぬいぐるみ喫茶」の開店です。喫茶店の目玉は、なんといってもちよちゃんの特別コスチューム！

「注文」

16-4

さあ～、かわいいぞ～

STORY ●ストーリー

ちよちゃんの特別コスチューム、それはペンギンの着ぐるみでした。小さなちよちゃんがペンギンとなってちょこちょこ動き回る姿に、お客さんたちはもうメロメロです。にゃも先生もすっかり感心してしまいました、とさ。

「宣伝効果」

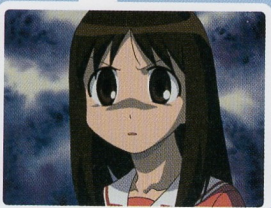
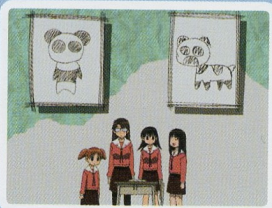
16-5

たい焼き1個ずつください

STORY ●ストーリー

夕方になって空いてきたので、ちよちゃんと大阪は休憩を取ることになりました。一緒に校内を見て回ることにした2人ですが、なぜかちよちゃんは着ぐるみを着たまま。おかげで、はからずも喫茶店の宣伝をすることに。

「大阪の怪談」

17-1

パンダ？

STORY
●ストーリー

昨日、大阪が怖い体験をしたそうです。朝、「起きたら標準語になってたとか？」とツッコむ智に、それも怖いと大阪は素で返します。じつは、一人で部屋にいたとき、自分のじゃないオナラのにおいがしてきたそうなんです。

17

第17回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

色指定●広瀬いづみ

17話までは比較的平和だった。このあとから地獄がはじまった……。TVシリーズって大変ですね！

撮影・SFX●佐久間未希

17話で思い出深いのはやっぱりカニと松坂牛とふぐ刺しの3カットですね。あれは動画を描く時点で動検さんが合成したほうがよいのかと相談に来られました。動画がすごくきれいに細かい部分まで描かれてきたので自分なりに凝ってみました。たとえば、ふぐ刺しが重なっている部分は一列ずつ透けたお皿の色を変えてあるんです。テレビで見たらその違いはほとんど分かりませんでしたけど（笑）。でも、食べ物の"リアルを超えたおいしそうな色、らしき色"の勉強にすごくなった気がします。

次回予告
NEXT PREVIEW

智「北海道っていいよねー、食べ物もおいしくて、スキーもできて」
暦「行って来た……」
智「熊なんかいてさ、温泉もあって、
もう街じゅう大自然って感じでさ」
暦「行って来た。北海道……」
智「なにー！　あたしに内緒でいつの間に!?」
暦「あと、カニを食べた……」
智&ゆかり「カニー!?」
ゆかり「来週はカニか!?　カニが食えるのか!?」
暦「カニは食べられないけど、絶対見てね」

17-2 「気分転換」

よーし！ サッカーやろう、サッカー

STORY ストーリー

12月です。師走です。でも、ゆかり先生が走ってるのは、それとは関係なくいつものこと。でも、クラスに現れたゆかり先生の様子はいつもとちょっと違いました。なんと英語じゃなくて、別の教科を教えるというのです。

17-3 「師走」

サンタさんは お父さんなんですよー

STORY ストーリー

12月です。師走です。しつこいですか？ 12月と言えばクリスマス！　智はみんなとの心ときめくクリスマス計画にもう夢中です。ところでちよちゃんは、今もサンタを信じているのでしょうか？　そう思った智たちは？

17-4 「すごいサンタ」

ねー、うし、とら、うー、たつ、みー

STORY
ストーリー

もうすぐ年賀状の季節です。来年の干支がわからない大阪は智に質問します。2人とも途中までは言えるのですが、その先がわかりません。結局、わからなくても困らなかったのですが、「みー」の次の干支は「うま」です。

17-5 「クリスマス会」

ホワイトクリスマス……だな

STORY
ストーリー

終業式が終わったら、通知票がみんなを待っています。ちよちゃんは、今回も学年トップを爆走中。大阪、智、神楽のボンクラーズは今回もトホホな成績。でもいいんです。この後はクリスマスパーティーなんですから！

「うきよみ」

18-1

ちよちゃん、あっちでお話ししようか……

STORY ●ストーリー

新学期になりました。お正月、北海道に行って来た暦は浮かれています。でも、本当はひとつだけ、気になっていることがあるのです。体重です。カニ食べ放題にジンギスカンまで食べたんだから自業自得かも知れませんが。

18

第18回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

絵コンテ●山川吉樹

12話に続き18話のシナリオを戴いたので、「あら、うれしい」と小躍りした気分で打ち合わせの席に臨むと、錦織監督がさわやかに言い放ちました。「今回は狙いました」。おお、なんてことを言ってくださるのでしょう。気に入ってくださったプレッシャー。すごい人たちが参加している作品に加わるプレッシャー。その精神的重圧の中、重く湿った雲が空を覆う梅雨空の時期に雪合戦の話を紡ぐのは実に愉快な作業でした。

NEXT PREVIEW

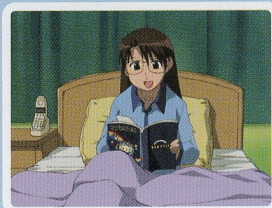
ちよ「大阪さんは大人になったらどうするんですか？」
大阪「あんまり考えたことあらへんなー。
それにしてもやぁー、青春の春ってどんな春なん？
赤い春とか黄色い春とかってないんかなぁー」
ちよ「さあ、どうでしょう……」
大阪「緑色の春、紫色の春、オレンジの春……」
ちよ「来週も見てください」

18-2 「裏切り」

もーっ、もーっ、もーっ! キィーっ

STORY ストーリー

自動販売機。日常で、いつも何気なく使っているものだけど、だからこそ、思いがけない大惨事が起こったりもするのです。いったい誰が想像したでしょう。紙コップが出てこずに、飲み物だけが落ちてきてしまうなんて!

18-3 「ワクワクワクワク」

……にひっ

STORY ストーリー

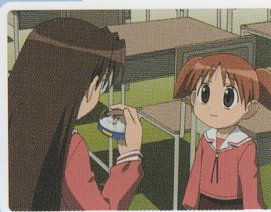
昼休み、情報誌を眺める大阪。暦の北海道旅行の話を聞いて、大阪のレジャー熱も高まったとか。そこでみんなで、マジカルランドに行くことになりました! 智はもちろん、いつもクールな暦も内心楽しみなようです。

18-4 「仲間はずれ」

ちよちゃん、その辺子供だねぇ

STORY ●ストーリー

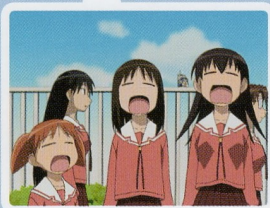
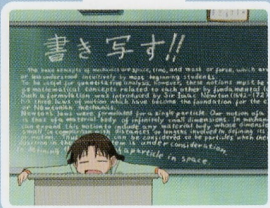
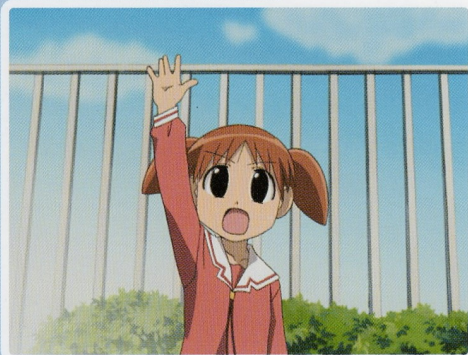
密かにガイドブックまで買っていた暦だったのに、なんと、当日、熱が出てマジカルランドに行けなくなってしまいました。一人さびしく眠る暦に、智からのお見舞いの電話が！──と、思いきや、内容はただの自慢でした。

18-5 「ゴー」

雪合戦！

STORY ●ストーリー

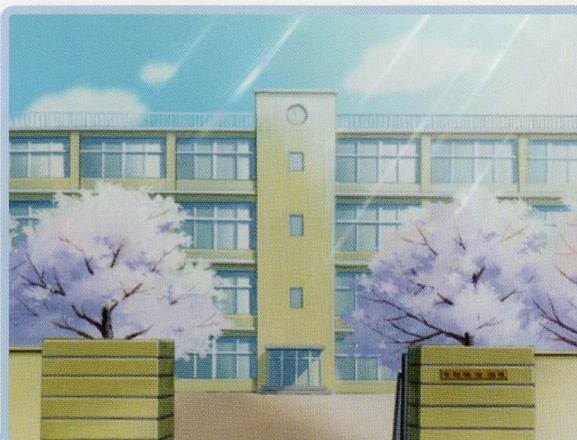
平気な振りをしていても、暦がさびしくないはずはありません。ましてや翌日、友達から楽しかった思い出話を聞かされたらなおさらです。でも、ちよちゃんがくれたおみやげで、暦の心も少しは癒されたようです……。

「あくび名人」

19-1

私も混ぜてくださいっ!!

STORY
●ストーリー

なんと、にゃも先生にお見合いの話が舞いこみました！　いつまでも若くないんだから、という母親のことばが彼女の胸に刺さります。そんな先生の複雑な気持ちも知らず、智や大阪はのんきに大あくびなんかしています。

19

第19回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

色指定●松島英子

原作には無く少し大人っぽいお話で、雰囲気を出すのに少々戸惑いました。ゆかりとみなもが、夜桜の下でいつになく大人トークをしているシーンがGOODです。色指定として駆け出しの私にとって、忘れられない作品になりました。

制作●辻充仁

19話。みなもメインなお話で、いつもとはちょっと違う大人な（？）『あずまんが大王』が見れたんじゃないかなと思います。制作的には……いろいろありましたね。関わった制作話数の中では、いちばんコンテがぼろぼろです。

NEXT PREVIEW

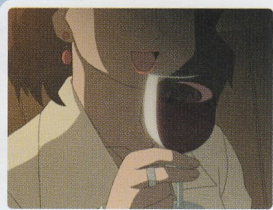
ゆかり「あの連中もなんだかんだで、もう3年生か」
みなも「早いわねー。ちよちゃんも結構大きくなった気もするし」
ゆかり「ハッ。誰にでも時の流れは平等ってことで、
そりゃよーござんしたねー」
みなも「そういえばうちの生徒、あたしの誕生日にプレゼントくれてね」
ゆかり「黒沢ー！　いま何言った!?」
みなも「プ、プレゼント……」
ゆかり「ウキョー！　プレゼント？　誕生日がどうした！
そんなに歳とりたいか!?　クキョー!!　○×△□◇ー!!」
みなも「なんだかよくわからないけど、続きはまた来週」

19-2 「なんだか青春」

……いいよなぁ、お前たちは、何だか余裕があって……

STORY ストーリー

昼休み、屋上であくびの練習をしていて、そのまま眠ってしまったという大阪、智、ちよちゃん。のんきな3人の姿に、にゃも先生はイライラ。でも、のんきといえば身近にもう一人いました。そう、ゆかり先生なのです。

19-3 「大人の花見」

転職なんて考えたことなかったなぁ……

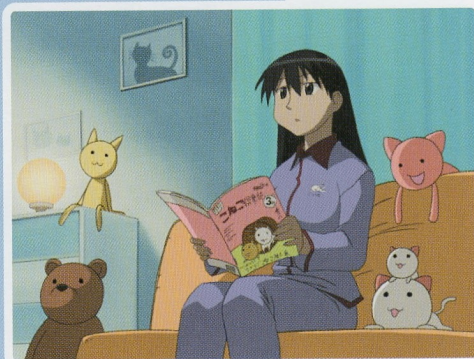
STORY ストーリー

昔の同級生とゆかり先生とにゃも先生、3人でお花見をすることになりました。レストランバーで、しっとり大人の会話を楽しみます。その席で、同級生から転職を勧められてしまったにゃも先生。思わず動揺します。

19-4 「子供の花見」

STORY
ストーリー

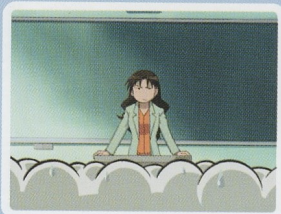
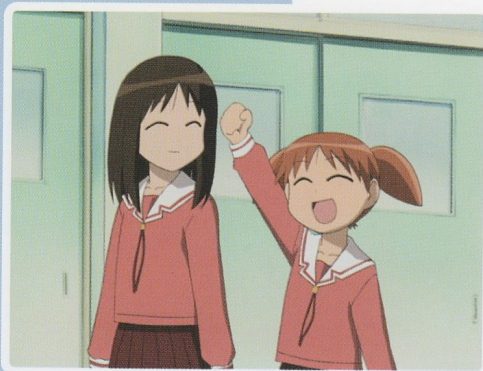
そのころ、ちよちゃんと神楽も、缶ジュースを飲みながら、公園の桜を一緒に見ていました。消しゴムのなくなったちよちゃんが夜のコンビニに買い物に出て、それを見かけた神楽が、一緒について行ってあげたのです。

19-5 「桜」

余裕か……どういう意味だ？

STORY
ストーリー

ちよちゃんの前でトレーニングする神楽。寝付かれなかった彼女は、少し走りに夜の町に出たのでした。インターハイ前で神経が高ぶっているのかも知れません。そんな神楽の胸に、ちよちゃんの素直な励ましが染みます。

「別離」

20-1

いよいよ、きょうから3年生なんですね。がんばりましょう!

STORY
●ストーリー

いよいよ3年生になりました。でも、みんなはあまり変わりません。変わったことと言えば智が髪の毛を切ったことぐらい。でも、本当はあったんです、大きな変化が。かおりんが木村先生のクラスになってしまったのです。

20 第20回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

演出●戸張節五郎
いや、実際のところ、これほどとは思いませんでした。

動画検査●萩野信子
3年生になっても、相変わらずの日常の中それぞれの個性が爆発していて笑えるエピソードの多いところが好きです。榊さんの妄想シーンではちよ父がシリーズ中唯一、勇敢な父親ぶりを発揮して光っています。

NEXT PREVIEW

智「来週は修学旅行in沖縄!」
大阪「しーさー、さーたーあんだぎー」
ちよ「私、はじめてだから楽しみです!」
大阪「ちゃんぷるー」
智「それではみんなで」
一同「はいさい!!」

20-2 「ゆかりの誕生日」

ハッピーバースデー、ディア、ゆかりちゃーん！

ゆかり先生の友達にしてライバル・にゃも先生は、今年も誕生日プレゼントをもらいました。それを知ったゆかり先生はすっかりやさぐれてしまいます。でも、仕方ないのです。たって、ゆかり先生の誕生日は春休みだから。

20-3 「はばたけちよ」

だって、家お金持ちやし、ちっこいし、捕まえやすいし……

STORY
ストーリー

3年生ともなれば、進路を考えなくてはいけません。ちよちゃんはあれこれといろいろ考えているようです。対照的に何も考えてないのが智です。でも、夢はあるのです。それはICPOに入ること！　……本当に夢ですが。

20-4 「こども大統領」

参りましょうー。しょー

STORY ストーリー

ちよちゃんはアメリカに留学しようと思っています。両親にもすでにOKを取ってあるのです。いっそそのまま大統領になってしまえとはやす智。ちよちゃんが作る国ってどんなだろう？　大阪の空想が始まりました。

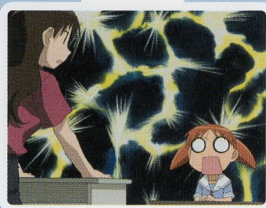
20-5 「強く生きて下さい」

どうして、どうして私だけ別のクラスなの……

STORY ストーリー

さて、一人だけ木村先生が担任の４組になってしまったかおりんですが、先生に妙に気に入られてしまい、辛い日々を送っていました。「かおりん」などと呼んで、すっかり親しげな木村先生と、これから１年間一緒です……。

「期待」

21 - 1

とも～……
そろそろ起きなわ

STORY
ストーリー

3年生の春には、修学旅行があります。いままで一度も行ったことがないので、ちよちゃんはとても楽しみにしているのです。行く先は沖縄。旅行では、6人でひとつの班を作って、一緒に行動することになりました。

21

製作エピソード
EPISODE from STAFF

絵コンテ●佐藤竜雄

僕ははじめて演出助手をやったのが沖縄戦を題材にした親子映画だったので、ひたすら平和に修学旅行を楽しむ今回の担当話には感慨深いものがあります。さらには『ちびまる子ちゃん』（錦織監督がかつて演出助手で参加していた）では、南の島へ行く話を演出していたりしたので「ヤマネコも出てるからいいじゃない」とニヤリ（ちなみに佐藤は『リカちゃんとヤマネコ星の旅』という作品もやっている）。なにはともあれ沖縄に行きたい熱が再発中。

演出●高田耕一

6人の娘たちプラス担任教師のはしゃぎっぷり、うかれっぷりがきちんと表現できればいいな……自分も彼女らに負けないよう楽しい気分で仕事をしようと思いました。内容的には、6人のメインキャラ全員が納まっているカットがとても好きです。バラバラの個性をもつ女の子たちがひとつの画面の中で調和している。これがこの作品の魅力なんだなと改めて実感できました。特に全員で歩いているカットは動きでも個性を表現できたので、アニメならではのいいカットになっていると思います。智と神楽のコンビもいい味出てますよね。作画さんたちエライ！

NEXT PREVIEW

ゆかり「来るよー、来るよー、ひたひた来るよー。
ほーらもうすぐそこまでー」
大阪「えーなにー？　なんか来るのー？」
ゆかり「決まってるでしょ、受験よ、大学受験よ！」
大阪「どこなん？　どこに来てるん？」
智「今年の夏もちよちゃんの別荘へGo！　今度は受験勉強合宿！
泳ぐぞ！　遊ぶぞ！　スイカ割るぞ！」
ゆかり「いいから勉強しろよ！」

21-2

「いてもたっても」

シーサーやいびーみ？

STORY ストーリー

沖縄に到着！　真っ白な空。豊かなヤシの並木。智のテンションは最高潮。でも、ほかのみんなだって落ち着いてなんかいられません。ちよちゃんに沖縄方言を習ったり、守礼門と二千円札を見比べて感心したりと大はしゃぎ。

21-3

「海の藻屑」

ゴボォッ

STORY ストーリー

今日はダイビングです。経験のないみんなは大はしゃぎです。でも、ちよちゃんだけは経験がありました。そのことが、同じく未経験者のゆかり先生の勘に触れて、危うくちよちゃんは海の藻くずにされるところでした。

21-4 「夢の島」

ヤマピカリャー!!

STORY ストーリー

沖縄の基本コースを満喫するみんな。今日は西表島ツアーです。イリオモテヤマネコが見られるかも!? とワクワクする智。榊さんはそこまで期待してはいけないと言うのですが。榊さんの前になにやら生き物が出現して……。

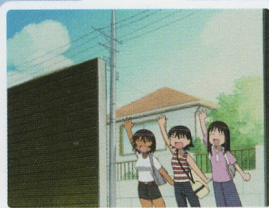
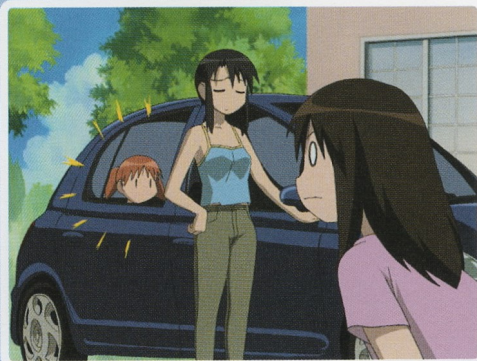
21-5 「山にすむネコ」

ヤママヤー……

STORY ストーリー

榊さんの前に、イリオモテヤマネコが出現！まだコネコのようです。なぜかネコに嫌われてしまう榊さんですが、そのコネコだけはとても懐いてくれました。感動にうち震える榊さん。でも、別れのときはすぐそこに……。

「ナイスですよ」

22-1

ああ!! ちよちゃんがもう、にゃも先生の車にぃ!!

STORY ●ストーリー

あっという間に季節は夏。今年も夏休みは、みんなでちよちゃんの別荘にお邪魔することになりました。でも、今回はいつもとちょっと違います。受験勉強合宿なのです! ……はたして、本当に勉強するのでしょうか?

22

第22回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

作画監督●晶貴孝二

自分的には、大畑さん、和田さんの仕事っぷりが見れて有意義なものでしたが、周りの方々の足を引っ張ってばかりでした。フォローしてくださったみなさま、ありがとうございました。

NEXT PREVIEW

神楽「とうとう3年目、高校最後の体育祭。よーし、今年もやるぜ!」
大阪「3年目って何するん? なんかきわだった特徴が?」
神楽「特徴っていっても、やることは同じだからな」
大阪「今年の目玉はなんや?」
神楽「うーん、パン食い競争かな?」
大阪「ほんなら、どれが耳? どれが口で、どれが鼻なん?」
神楽「よくわからんが、とにかく盛り上がるぜ!」

22-2 「だまされた」

勉強しないで遊んでて本当にいいのかなぁ～……

STORY ストーリー

合宿にはかおりんも初参加できることになりました。念願の榊さんと一緒の旅行に、かおりんはもう大喜び。榊さん激写に命をかけたり、オイルを塗ったりと、智にも負けないほどのハイテンションっぷりを見せるのでした。

22-3 「黒沢先生」

じぇんじぇんわかんにゃい……

STORY ストーリー

今回の旅行の名目は勉強合宿。ちゃんと勉強の時間も設けます。意外にも、智も神楽もまじめに励んでいます。何しろ２人とも、ゆかり先生に「もう受験に間に合わない」と宣告されてしまったので、必死なんです……。

22-4 「未遂」

フライパンで起こすの、やってみたかったんや……

STORY ストーリー

毎朝ラジオ体操をする、よい子のちよちゃん。それを見たにゃも先生、かわいいうさぎさんのハンコを使って、ラジオ体操のスタンプ帳を作ってあげました。次の日から、ちよちゃんと一緒にラジオ体操する榊さんの姿が。

22-5 「まだ終わってない」

やるきぃーでろぉー、やるきぃーでろぉー

STORY ストーリー

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいます。8月が終わり、9月1日になりました。でも、智はまだまだ夏休み気分。しかも、ゆかり先生もやる気なしモードです。心配する大阪たちでしたが、暦はクールな対応で!?

「かんだ」

23-1

そ、そんな危険な競技やったんか!?

STORY
ストーリー

体育祭のシーズンになりました。今年は競技が一新されるとか。パン食い競争があると聞いて、がぜん張り切る大阪。ところでパンってどうやってつるすんでしょうか。釣り針？……怖い考えになってしまいました……。

23

第23回

製作エピソード
EPISODE from STAFF

作画監督●佐野英敏

榊さんっ!!（あいさつ）。ど～も、『あずまんが』23話の作監をやらせてもらいました佐野です。ん～、特にこれといっておもしろいことも書けないのですが、楽しかったです。なんとなく「アニメの『あずまんが大王』やりたいな～」とか思っていたら、運よく参加させてもらえてラッキーでした。個人的にはちよすけの鼻水はかなりイイと思うのですが、どうでしょう？　それではまた～☆

NEXT PREVIEW

ちよ「にゃにゃにゃにゃにゃー♪　榊さん、ネコ好きですよね？」
榊「うん」
ちよ「でも家でネコは飼えないんですよね」
榊「一人暮らしをすればもしかして……」
大阪「お、榊さんネコ飼うんか？　ピカニャーみたいなやつか？」
ちよ「ヤマピカリャーですよ。西表島で会った」
榊「マ、マヤー！」
大阪「続きはまた来週や」

23-2 「もりあげ役」

私はどうしてこうガサツなのかなー

STORY ストーリー

さて体育祭当日です。でも、今年はゆかり先生のおごりがありません。「仮に勝ってもちょー消しだから」と謎のことばを吐くゆかり先生。なんでも、勝っても取り戻せないぐらいにゃも先生に借りがあるらしいです……。

23-3 「考えてなかった」

私は、それが、大好きです。アイ、ライク、ユー

STORY ストーリー

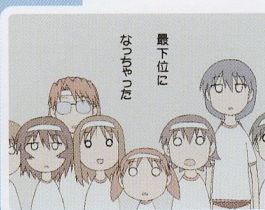
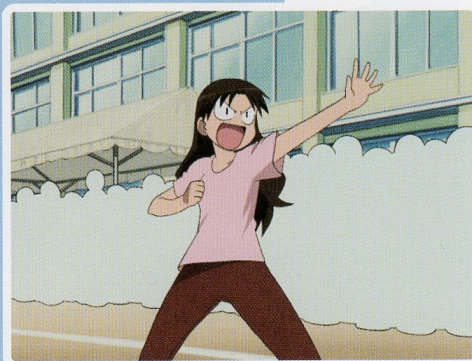
大阪待望のパン食い競争の時間になりました。でも、スタート前のアナウンスを聞いて大ショック！　なんと、パンの種類がいろいろあって、どれを食べてもいいというのです。何を食べるか迷った大阪はおかげで最下位に。

23-4 「みんなで走ります」

抜かれへんでぇ～

STORY
●ストーリー

木村先生のクラスになってしまったかおりんは、智からスパイ呼ばわりされます。ただちよちゃんや暦と話していただけなのに。でもそこで、智から榊が学ラン姿でいることを教えてもらい、一人浮かれるかおりんでした。

23-5 「一丸」

あとは私に任せろー!!

STORY
●ストーリー

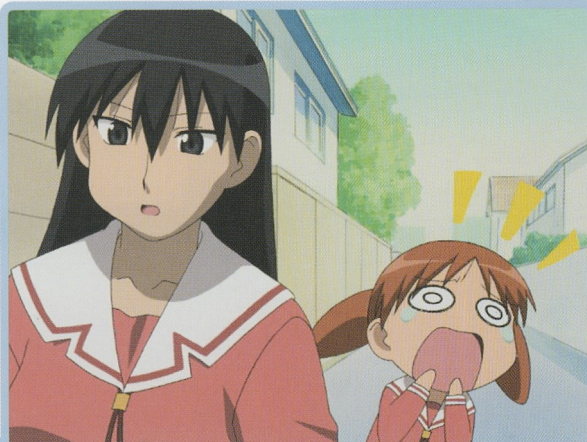
今年は体育祭は接戦です。優勝の判定は最終競技のリレーにもつれ込みました。ゆかり先生のクラスで、ずっと優勝してきたちよちゃんたち。どうせなら最後も優勝したいと、気合いを入れ直しましたが、結果はいかに？

「進路」

24-1

大丈夫かな、あのこ……

STORY
●ストーリー

3年生は完全に受験体制に入り、授業も自習が多くなりました。図書室のPCで「イリオモテヤマネコ」を検索をしていた榊さんは、交通事故死の記事を見つけました。亡くなったネコは、あのコネコの母親に似てました。

24
第24回

●製作エピソード●
EPISODE from STAFF

脚本●吉永亜矢
原作を読んだとき、遥か昔、女子高生だったことを思い出してしまいました。みんな自分の周りにいたような気がする。今回、少しだけしか参加できずに残念。でも、ありがとうございました。

絵コンテ●桜井弘明
僕のために残してあると聞いて、よろこんで引き受けました。演出までやりたかったのですが、「あとはよろしく」状態でした。この話は、人気もあるだろうし、しっかり榊の気持ちが伝わったうえに『あずまんが』らしく描かないとイカンなぁとプレッシャーも感じつつの作業だったかも……。

作画監督●橋本英樹
「ヤママヤー！」「ギャウー！」ってところがやりたかったですー！　そこが少し残念。原作も好きなので、もう少しキチット仕事すれば……ムムッ。

作画監督●井嶋けい子
「ネコに始まりネコに終わる」ネコズクシな日々。ピカニャーも描けて幸せ。

NEXT PREVIEW

一同「神様お願い！　私たちに愛の手を！」
神楽「とうとう受験が目の前だ。うわ、やっべー！」
智「だいじょぶ、だいじょぶ！　初詣でお賽銭ふんぱつしたもんね」
大阪「はー、智ちゃんいくら入れたんや？」
智「5円！」
一同「神様お願い！　私たちに愛の手を！」
大阪「そういえばあたしたちって卒業できるんやろか？」
神楽「か、考えてなかった……」

「はやく行こう」

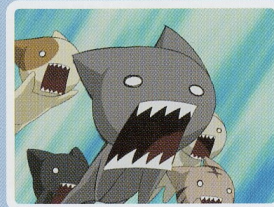
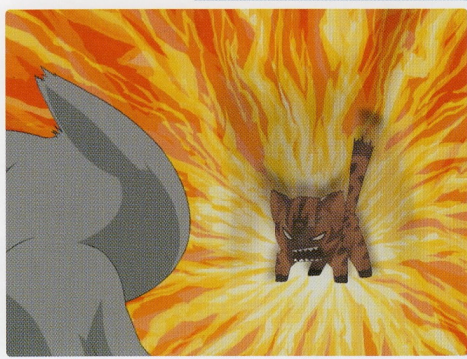
24-3

ざっしゅ……ざっしゅ……
あのこはざっしゅ……

STORY
ストーリー

かみねこに襲われた榊さんとちよちゃんを助けたのは、修学旅行で出会ったイリオモテヤマネコでした。衰弱していたコネコを獣医に連れて行った榊さんは、命がけで自分を捜してくれたネコに応える決意をするのでした。

「対決」

24-2

ギャアウウウウ!

STORY
ストーリー

動物の好きな榊さんの夢は、動物のお医者さんになること。そしてもうひとつの夢は、大学生になって一人暮らしを始めたら、ネコを飼うことです。お母さんがアレルギーで、榊さんはずっとペットを飼えなかったのです。

24-4 「人望」

お前は調子にノリ過ぎだ!

STORY ストーリー

コネコはマヤーと名づけられ、榊さんが一人暮らしを始めるまでは、ちよちゃんが家で預かることになりました。とても大人しく、かわいいマヤー。でも、元は野生、あんまり変な扱いをすると、鋭い爪で傷つけられることも。

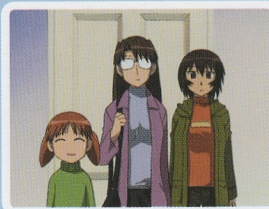
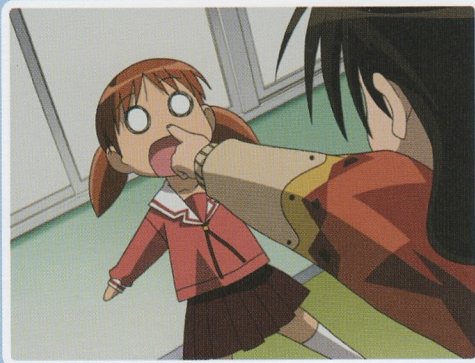
24-5 「マヤーと一緒」

……あの……コーヒー……

STORY ストーリー

マヤーのことがかわいくてかわいくて仕方のない榊さん、思わず抱きしめて床にゴロゴロ。偶然、その現場を目撃してしまったちよちゃんは唖然呆然。でも、そんな榊さんを、ちよちゃんはかわいいと言ってくれるのでした。

「進路相談」

25-1

あんた私をバカだと思ってるでしょ!

STORY ●ストーリー

どんどん受験が近づいてきて、クラスのみんなは必死です。休み時間でも勉強している人が目立ちます。そんな中で、一人、智だけは呑気なままです。珍しく、ちよちゃんに問題を出したかと思えば、中身はクイズで……。

25

第25回

●製作エピソード●

EPISODE from STAFF

脚本●玉井☆豪

25話です。ラス前です。アンカーにバトンを渡す役です。ってことは、オレ榊さん?(うっとり)……それはともかく。この回はやることがいっぱいでエピソードの選択に苦労しました。でも、ちよ父は入れました。大好きなシュークリーム分ネタも泣く泣くカットしました。でもちよ父は入れました。シナリオが長くて演出さんの手を煩わせてしまいました。でもちよ父は入れました。締め切りも遅れてJ.C.STAFFさんに迷惑かけました。でもちよ父は入れました。人に迷惑かけまくりなオレ、むしろ智??

NEXT PREVIEW

ゆかり「はーい、来週であんたらも卒業だ」
智「え? 卒業ってことはもしかして……」
大阪「『あずまんが大王』終わってまうん?」
ゆかり「ま、ともかく次で最終回。お楽しみにねー」

「合格祈願」

25-2

あの神社の息子、大学落ちたんだよ。効かねー

STORY
ストーリー

お正月、みんなで初詣に行くことになりました。振り袖姿のちよちゃんに智はうずうず。帯をほどき、くるくる回したくて仕方ないのです。怯えるちよちゃん。でも、暦が「やるなよ、人として」とクギをさしてくれました。

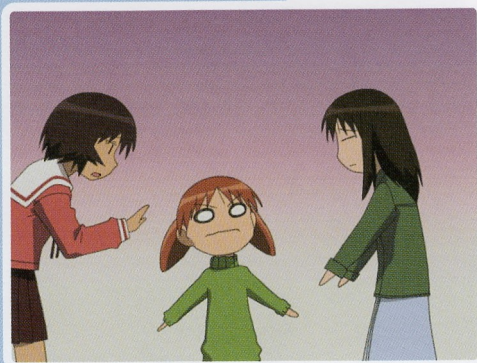
「ファイト」

25-3

幸運を!

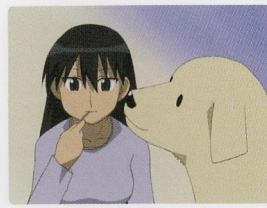
STORY
ストーリー

夜、シーンと静まりかえった家の中、ちよちゃんの部屋だけが灯りが点いています。彼女は留学するので受験しないはずですが……？じつは、試験を受けるほかのみんなのために、合格祈願のお守りを作っていたのでした。

25-5 「智と大阪運命の日」

ちよちゃん、死を急ぐな……

STORY ストーリー

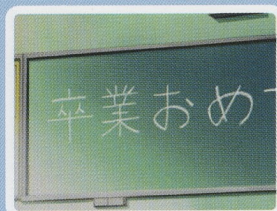
受験シーズンも終盤、そろそろ合否が発表されるころになりました。神楽は志望校に奇跡の一発合格。榊さんももちろん余裕の合格。大阪と智は、滑り止めに落ちたりもしたけれど、別の学校に何とか合格。さて、暦は……？

25-4 「勉強会」

あんたの顔、なんかに似とるなぁ……森……前首相

STORY ストーリー

今日もちよちゃんの家で勉強会。でも、大阪はのんびりとコタツで居眠り。見るのは、ちよ父の夢です。なぜだか英語を使うちよ父。話を聞くと、どうやらちよちゃんがアメリカに留学するので、ついていく気らしいです。

「初めての卒業」

26-1

ファ……ファ……へーちょ

STORY ●ストーリー

とうとう卒業式になってしまいました。習慣で時間割を見てしまったちよちゃんですが、もう必要ないのです。でも、卒業だというのに、暦はいまだに大学に合格していません。傷心の暦を、遠慮なく智はからかいます。

26

第26回

●製作エピソード●

EPISODE from STAFF

シリーズ構成・脚本●大河内一楼

原作に忠実な最終回です。『大河内まんが大王』にする必要も要請もなかったし、僕自身、仕事として関わる前から原作が好きだったので、きちんと『あずまんが大王』として終わらせました。26話のアフレコで一緒に「仰げば尊し」を歌わせてもらった（男の役者さんが少なかったので）ときは、本当の卒業式みたいにさびしい気分になりました。とてもいい原作と、いいスタッフに恵まれたことに感謝しています。

ありがとうございました。

美術監督●柴田千佳子

なんとか最終回にこぎつけることができてほっとしています。設定もボードもそこそこでスタッフのみなさなには本当にご迷惑おかけしましたが、全編を通して『あずまんが大王』らしく明るくさやわかなイメージで統一できたと思います。それぞれのキャラクターがたっていたので、一応基本となるイメージカラーを決めました。ちよちゃんはピンク、榊さんはブルー、智はオレンジ、神楽は赤、暦はミントグリーン、大阪は……黄色だったりピンク系だったりしますが、とにかく背景にベタは無く、大胆に白くとばしました。学校とちよ家が主な舞台でしたが、結構いろいろな場所が出てきて大変でした。最終回ではちよちゃんのうるうる涙に思わず涙、ほんと、泣ける作品でしたよ、監督さん。

編集●西山茂

私のような中年男からすると、今回の見どころは卒業式のシーンですね。ちょうど、乳首の辺りを虫ピンで刺されたような感覚というか、懐かしさもあって胸がキューンとなりました。ずいぶんと長い間忘れていた感覚でした。……感動でした。こんな体験を一度してしまうと、これからの「人生」が心配になります。もう、『あずまんが』わ〜るどからの卒業なんて考えられなくなりました。みなさんも、感動の最終回を見て、人生を考えましょう。タメになりますよ。

「万感」

26-2

ブラボーッ!!

STORY
●ストーリー

卒業式、ちよちゃんの名前が呼ばれても自分が立とうとするなど、智は相変わらずです。「仰げば尊し」を歌っている最中に泣き出してしまったのは、意外にもゆかり先生。つられて、ちよちゃんも号泣してしまいます。

「悲しみ」

26-3

せんせー、ホントにもう高校終わっちゃうんですねェ……

STORY
●ストーリー

悲しみにくれるゆかり先生ですが、じつは財布を落としてしまっただけでした。先生に募金しようとする智ですが、あげたのはたった1円。オマケにハンバーガーの半額チケットを入れられ、ゆかり先生はキレてしまいます。

「母校」

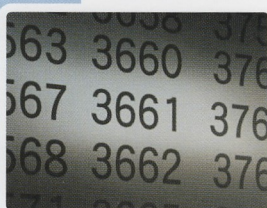
26-4

あ……ありがとう、先生

STORY
ストーリー

智が写真を撮っているのを見たかおりんは、自分も榊さんと撮ってもらうことにしました。最後の記念なので、かおりんも必死です。ふざけて、カメラを下に向けてしまった智に、ものスゴイ勢いで訂正を迫るのでした。

「みんな」

26-5

そっか、卒業しても、みんな一緒だ

STORY
ストーリー

卒業旅行は、みんなでマジカルランドに行くことに決定しました。その日は、暦の合格発表日。発表前よりも、結果がわかった後の方が気を遣わなくていいだろうという、智の提案なのです。はたして暦の結果はいかに!?

Cast & Staff interview

美浜ちよ役

金田朋子

共通点がいっぱいあったので演じやすかったです

はじめての主役級キャラ。それだけじゃない『あずまんが』は、自分にとって忘れられない作品。それは、彼女にとって最高の出会い。

PROFILE

青二プロダクション所属／5月29日生まれ／代表作品は『デジモンテイマーズ』(クルモン)、『ココロ図書館』(朱葉)、『花右京メイド隊』(シンシア＆グレース役)、『ボンバーマンジェッターズ』(シロボン)など。

ちよちゃんの役との不思議な巡りあわせ

—ちよちゃん役に決まった経緯を教えてください。

金田(以下、金)◆別の作品の収録が終わったときに、「上でオーディションやってるから行ってくれる?」って言われて演じた役でした。その場で原稿を渡されて、第一印象で演じたので、特に作ることなくポンと入れました。ちよちゃんとは「早口ことばがにがてです」という言うところとか、プールで足が届かなくて「はやく大きくなりたいです……」ってところが一緒だー!　って思ったり、共通点がいっぱいあったので演じやすかったです。

—ちよちゃんを演じるうえで、苦労などはあまりなかったんですか?

金◆共通点は多いんですけど、ちよちゃんは天才少女なので……(笑)。ITっていうのはこうですよって教えてあげるシーンなどでは、ちよちゃんはそのことを知ってるわけですから、セリフを噛んでもいけないし、たどたどしくなってもいけない。それも嫌味がないように教えてあげなくちゃいけない。そういうところで苦労しました。あとは、ちよちゃんはかわいいだけじゃダメってところですね。みんなの中で、ちよちゃんがいちばんまともかなって思う部分があるじゃないですか。それがみんなに揉まれていくうちに壊れていく。そんなちよちゃんも魅力的だなって思うんですけど、壊れすぎてしまうとちよちゃんじゃなくなってしまう……その境界線がむずかしかったですね。かわいいだけでもダメだし、その線を超えてもダメ。そこが演じるうえでの課題でした。

—アフレコはどうでしたか?

金◆私がテンパっちゃってNGを出すことが多かったんです。「アフレコ中のハプニングは?」って聞かれると、みなさん「ちよすけのNG」って口をそろえて言われるぐらい(笑)。例えば、沖縄のお話で「あのなんとなくトラっぽい顔!　短めの足と太いしっぽ!　体のまだらもよう!!　そして先の丸い耳!!　ヤマピカリャー!!」って言うシーン。これが絵となかなか合わなくて。合ったと思ったら、私。「トロピカリャー!!」って言っちゃったんです。一瞬何が起こったのかわからなくて、そのあと一同大爆笑(笑)。でも、みなさんが「大丈夫だよ、落ち着いて」とか「ちよすけがんばれ」って言ってくださったので、すぐ立ち直ることができました。ちよちゃんがアカペラで歌をうたうシーンで音程がはずれちゃったときも、みなさんが歌って助けてくださいました。みなさんが見守ってくださるから、すごくのびのびできた現場でした。スタッフさんも役者さんも温かくて、みなさんの力がなければ最終回までやってこれなかったなって、感謝の気持ちでいっぱいなんです。『サンキューなんです』っていうちよちゃんの歌があるんですけど、それをみなさんにお送りしたいぐらいです。

—歌といえば、イベントなどでも歌われましたよね。

金◆すべて『あずまんが』の世界に合ってるじゃないですか。オープニング、エンディング、ほかのキャラクターソングも。本当に役にピッタリ合った音楽で。こんなにキャラクターを活かした歌がどうしてできるんだろうって感心するぐらい。ちよちゃんの歌も2曲あるんですが、1曲は忠吉さんと外を散歩しながら、みんなのことを思い浮かべて歌ってる感じの歌で、もうひとつは、ちよちゃんがおさげといっしょに飛んでいってしまうような弾けた感じの歌なんです。ちよちゃんの歌としてこの歌を歌わせていただけたのがすごくうれしくて、たまに口ずさんだりしています。みんな仲がいいので、イベントもワイワイガヤガヤやって、待ち時間が長くても気にならないぐらい楽しかったです。

—気になるキャラクターは？

金◆お父さんは最高！（笑）　はじめて登場する回は「ちよ父」ってこんな感じかなぁ？　と思っていたのですが、予想を上回るテンションでした。あの「ちーよー」みたいなテンション（笑）。絡まなくちゃいけないのに、笑いをこらえるのが大変で。声はもう若本さん以外は考えられないくらい、インパクトがありますよね。若本さんって、テストではすごくアドリブを入れる方なんです。そのアドリブも毎回違って、番外編かなにかでお見せしたいぐらいおもしろかったです（笑）。

木村先生も最高でしたね（笑）。普段の石井さんからは想像できないような演技で、とてもインパクトのあるキャラクターでした。しかもときどき、久川さんや平松さんが木村先生のまねをするのがおもしろくて（笑）。笑いすぎてお腹が痛くなるくらいでした。

—作品を振り返ってどうですか？

金◆私にとっては、一生忘れられない、心に残る大切な作品です。はじめての主役ということもあって、宝物のような作品ですね。期間は半年間なのに、なんでこんなにって思うくらい、いろんなことがありました。声の調子が悪くなったときもあれば、こんなにNG出したのもはじめてで（笑）。最終回に「ホントに高校終わっちゃうんですね……。もう毎日みんなと会えなくなるんですね……」って言うセリフがあって、アフレコのときにすごく共感できました。

—最終回のアフレコのときも泣かれてましたよね。

金◆いまでも思い出すとウルウルしちゃうんですよ。ちよちゃんも卒業だけど、自分もこの最終回でちよちゃんを卒業っていう気持ちがシンクロしてしまって。温かい方ばかりの現場で、みなさんにはいろんなことを教えていただきました。たくさんあるアニメの中で、ちょっとでも歯車がずれていたら演じられなかったかもしれない役なのに。この役に巡り会えたことに、いまでもすごく感謝しています。

—ありがとうございました。

金田朋子のお気に入りシーン！

いちばんは感動の卒業式……

いままでのことが走馬灯みたいに巡って、胸がいっぱいになりました。ウルウルしてたら両側からティッシュがきたりして。みなさん温かい方ばかりです。

みんなのよくわかんない受け答え

夢の中で空飛んでて、大阪さんに「なんで飛んでんねん？」「10歳ですけどー」って答えたりする、ワケのわからなさがおもしろくて。いつも笑っちゃいます。

ちよちゃん、ゆかり車に乗る

ちよちゃんがゆかり車にはじめて乗ったあと、「逃げてー！」っていうすごい顔が（笑）真剣に怖かったんだろうなというのが伝わってきて、印象的でした。

春日歩役

松岡由貴

大阪の生きてるリズムって、時空を超えてますよね

天然だから、余計に芝居が難しい大阪トーン。笑っちゃって大変だったというオーディションからアフレコの話まで話を聞きました！

ぷろだくしょんバオバブ所属／9月13日生まれ／代表作品は『も〜っとおジャ魔女どれみ』(妹尾あいこ)、『ジャングルはいつもハレのちグゥ』(マリィ)、『ぷちぷり＊ユーシィー』(グレンダ)など。

おかしい空気がこみあげる女の子

—アフレコが終わって時間が経ちましたが、いかがですか?

松岡（以下、松）◆私とちよ（※金田さん）と榊さん（※浅川さん）は、イベントや文化放送の新番組も3人いっしょで、よく会っているんです。だから終わった気がしないし、人気があった作品なので、また何かできないかな、ゲームとか。もったいないよねって気が（笑）。最終回のアフレコはジーンとしましたね。小粋なはからいがあって、『仰げば尊し』が収録のいちばん最後にあったんですよ。いつ聞いてもジーンとするような曲なので、泣かないようにするのに必死でした。

—3年間を半年で演じた感想は?

松◆学園祭終わったらまたすぐ学園祭って感じで、すごい勢いの3年間でした（笑）。『あずまんが』って、のほほん、ノンビリとした作品ってイメージだから、ほんとは1年かけてやってほしかったですね。

—大阪という役については、どう思ってらっしゃいましたか?

松◆私はオーディションを受けにいったんじゃなく、事務所でテープを録ったんですが、そこではじめて原作を見たんです。もう笑っちゃって読めなくて……口の中に、"おかしい空気"がたまっていくんです（笑）。もうダメだと思って、太ももをつねりつつテープを録りました。関西弁の関西人の役だし、やっぱりこの役でよかったなと思います。どの作品に出ても、自分の役がいちばん子供のようにかわいく思えるんですけど、大阪は、特にその気持ちが強いキャラクターですね。大阪を演じさせていただいたことは、とてもラッキーでした。

—大阪の笑ってしまうツボって、どんなところでしょう?

松◆例えば、原作での話ですが、大阪が「松茸食べたことある?」って言って、「私はまだ食べたことないねん」っていうようなシーンがありましたけど……松茸は椎茸の延長線だと考えてたっていうシーン。よくこんなことを思いつくな、この子は、って思いますね。私は関西人だし、ネタとかオチを考えながら話していたりするので、ああいう素朴な疑問が広がらないんですよ。大阪は自分にはない部分が多い子で、それが天然のおもしろさっていうのがすごいですよね。

—関西人というと、失礼ながらボケとツッコミというイメージがありますが、大阪の場合はトロいというか……。

松◆みんながみんなそうだというわけではないですが、関西の血っていうのがありますよね。話上手だったり、テンポが速かったり。そこをあえて、のんびりキャラで関西人を出してくれたあずま先生は、すごい素敵だなって思います。関西以外の地域の人が関西人を描くとき（※あずま先生は関西出身）って、こてこてとか、値切るのうまいとか、あんまりいいイメージがないん

ですよね。だから、こういうポヤポヤした関西人っていうのはすごくうれしかったです。大阪は、学校を卒業しても、マイペースで同じリズムで生きていくんだろうなあ。お母さんになっても同じで、子供が逆にしっかりするのかも(笑)。

割り箸は大阪の最重要アイテム!?

――作品の中で印象に残っているお話はありますか?

松◆好きなシーンはいっぱいありすぎるくらい。ひとつは初夢話、ある意味、1等賞。「たかー、なすびー、めざめよー」ってところが好き。原作だとバックが富士山なんですけど、アニメだと書き割りをしょってるんですよね。鷹もハトサブレみたいないい加減な鷹で、びっくりしました(笑)。あと好きなシーンは「カタツムリって虫?」ってところとか、ゆかり先生を起こしにいくとき、包丁を持ってるところとか。最終回のくしゃみは苦労しました。今までゲームでやってたのと、違う演出だったので。あとはちよちゃんの髪をつけて飛んでいく大阪も好き、あれは忘れてはいけない有名シーン。珍しく大阪がキレた、割り箸のまじないの一連も、おかしいですね。割り箸は大阪の中でもすごいウェイトを占めてるアイテムなんだなと思いました。大阪の生きてるリズムって時空を超えてますよね。原作に載っていない話で、アニメではかおりんの初夢の話があったんです。榊さんやちよちゃんが学ランを着てるやつ。そこに登場した大阪はいちばんふざけた格好で、ト書きに「ひとり勘違いした大阪」って書いてあるくらい。それがおかしくて、画面見ると笑っちゃうから見ないで演じたんですよ(笑)。そういうシーン、多いですよ。「ナマコチーム」とか、「痔ってやー」っていうのもなかなか言えなかったし。

――振り返ってみて『あずまんが』はどういう作品でしたか?

松◆日常のいらだちとか、せかせかしたものを、みんな取り除いてくれる、リフレッシュさせてくれる作品。自分で放映を見て、「今日の大阪は70点」とか「今日はよかった」とか、反省するときもありました。苦労したところは「無心になること」で、彼女の場合は芝居をしてはいけないんですよ、そこが役者としては難しかったです。喜怒哀楽の出し方を同じレベルに保っていて、悲しくてもわんわん泣かないし、おもしろくてもギャハハとは笑わない。そういう大阪トーンをキープするのは難しかったです。私は色の黒い電気系の子の役が多いので、こういう大阪みたいな役は新しい分野でした。いろんな役を演じていきたいと思っていたので、この役はうれしかったです。

――**読者に、ひと言お願いします。**

松◆(大阪調で)癒された?

――**ありがとうございました。**

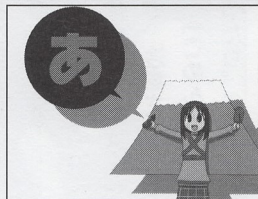
松岡由貴のお気に入りシーン!

珍しく大阪がキレたおまじない話

大阪まじないの一連も好きです。大阪が珍しくキレた(笑)。おかしいですね。また、うまく割り箸が割れなくて、「これはな、ちゃうねん」っていうのも。

楽しそうに叫ぶ大阪がおかしい

お気に入りシーンはいろいろありますが、「ちゃんぷるー!」とか、「さーたーあんたぎー」とか、ホント、楽しそうに叫んでますね、大阪って(笑)。

原作を読んだときから楽しみで

ある意味、一等賞的!原作を読んで楽しみにしていたシーンなんです。アニメでは「書き割りしょってるよ!」って。見たときおもしろさが増しましたね。

榊役

浅川悠

損な役回りになるところとか、私と榊さんは似てますね

アニメ後の榊さんの将来を心配してしまうという浅川さん。そんなことまでいろいろ連想させるから、『あずまんが』はおもしろいのだ。

PROFILE

アーツビジョン所属／3月20日生まれ／A型／代表作品は『ラブひな』（青山素子）、『バブルガムクライシス2040』（プリス・アサギリ）、『ロードス島戦記』（シーリス）、『超重神グラヴィオン』（ミヅキ・立花）など。

共感できる榊さん 将来が心配な榊さん

——榊さんという役を、どうとらえていらっしゃいましたか？

浅川（以下、浅）◆オーディションは最初から榊だけ受けました。原作を私のマネージャーが知っていて妙に盛り上がっていたので、「これは受かってあげないと！」と思って、受かってよかったなと。最終回より、そっちの方が泣きそうでしたね（笑）。いままで、しゃべらない怖い人の役というのはよく演じていたんですが……榊は怖くないですよね。でも、ヤママヤーのときの壊れぶりは、まさかあんなふうになるとは思っていませんでした。榊も私もかわいいもの好きだったりするんで、共感する部分があります。また、あれだけスタイルがよかったら堂々としていればいいのに、じつははずかしがり屋で。でも、見た目で怖がられたりする。そういう損な役回りになるところも、ちょっと似ているような気がします。私もネコ好きですし。道ばたにネコがいるとさわろうとするんですけど逃げられて、大阪ちゃん（※松岡さん）に「榊さんだー」とか言われたりして。実際にネコを飼っていたこともあるんですけど、大きくなったら「もう大丈夫だから、ありがとう！」って感じで、大脱走されて（笑）。なにそれ!? って思ったんですけど。これって、『あずまんが』にあってもおかしくない話ですよね。

——ほかに何か、おもしろいエピソードはありますか？

浅◆売るほどあります（笑）。最終回の収録のときに思ったんですけど、みんなそのまんまだなーって。アニメの中でもちよ（※金田さん）は大泣きして、大阪ちゃんはいつもと同じ。榊は普通だし。役者が、みんなキャラクターのまんまだったなぁ。ちよは、早口ことばがダメだったりするし。大阪ちゃんは収録のとき、必ずメモを台本に取るんですけど読めない。「なんて書いてあるのこれ？」って聞いたら、「なんやろ、これ？」って（笑）。

——現場では役の名前で呼び合うことが多かったんですか？

浅◆ちよと大阪、この2人は私のことを役の名で呼びますね。ほかの現場では「悠ちゃん」って名前で呼ばれることが多いですけど。スタジオに入っているときは役に没頭してるので、失礼な話ですけど、とっさにその人の名前が出てこないときがあるんですよ。それで役の名で呼ぶことが多いですね。

——気になるキャラクターは？

浅◆神楽ちゃん。いつもいい子だなーと思ってました。体育祭でふざけてテントを倒しちゃって、注意されるシーンがありましたが、「ごめんな」って言って泣きだしちゃったり。ことばがわかんないのに外人さんの荷物を持とうとしたり。後先考えてないけど、困った人がいたら助けに行ったりするところが、いい子だなと。一生懸命だし。桑島さんの演じる神楽ちゃんかわいい

し、大好きです。

――かおりんがほれてしまうぐらいの榊の魅力はどこにあると思いますか？

浅◆単純に外見のよさはあると思います。背が高くて髪が長くてスタイルもよくて、スポーツができる。でもきっと、かおりんは外見しか見てないから。あの話ベタなところがクールと勘違いされたり。内面を見てほれてくれてるのは、ちよちゃん。榊さんはちよちゃんがいちばん好きですよ（笑）。榊さんは心配ですね。アニメが終わって自分の手を離れて、彼女は大学生になっていくんですけど、新しい学校でまた友達作れるかなあ。あの子の一人暮らしも心配です。キャッチセールスとかきたら、「あ」とか言っているうちに買わされそうだし、変な男にだまされなきゃいいなと思って。

――母親のようですね（笑）。

浅◆この番組は私の母性本能をしぼりだそうとするんですよ。ちよと出会ってからは、ちいさい子を見ても金田朋子の方がかわいいもんって思えたりして（笑）。その辺の子供じゃ満足できない体になってしまいました。その話をマネージャーにしたら、「そんなに好きだったら養子にもらえ」ってメールが返ってきて（笑）。でも、まじめな話、この話はドタバタだけじゃなくて、縄跳びのシーンとか、神楽と桜の下で将来について話すシーンとか、ちゃんとそういうまじめなところも入っている。キャラクターの弱気になった部分もかいま見ることができるので、すごく愛着が持てるというか、情が出ます。3年間時の流れを演じるというのもあまりないですしね。

作品の中で送った楽しい学生生活

――この作品はどんな作品でしたか？

浅◆特に大事件があったわけでもなく、事件といっても日常の中の事件だったり……ちよちゃんはゆかり車で大変な目にあってましたけど（笑）。本当に日常の高校生活ですね。私はどちらかというと先輩と仲が悪かった記憶の方が強烈で、大乱闘（笑）の学生時代だったんです。だけど、ちゃんとした学生生活を、この仕事で送らせていただきました（笑）。あとは、あずま先生の描くネコがかわいい。ヤママヤーは最高です！

――最後にメッセージをお願いします。

浅◆気がつけばあっという間に終わってしまって。それはたぶん、これが日常のストーリーだからじゃないかと思います。イベントでお客さんがたくさんいらしてくださったりするしうれしいし、はやりすたりのない内容だと思うので、いろんな人に見てもらいたいと思います。みんな続編がやりたいっていってるんですよ。進路編にして、久しぶりに会ったときの話で……なんて、盛り上がってます。お客さんの応援しだいですよ、きっと（笑）。また『あずまんが』でおもしろいことができたらいいなと思っています。

――ありがとうございました。

浅川悠のお気に入りシーン！

大阪の突拍子のないセリフ……

大阪ちゃんと「痔の話してたんや」「違う」っていうのがおかしかったです。きれいなシーンでたそがれてるのに、「海の豚って書くやんかー」っていう。

ちよちゃんといっしょに縄跳び

ちよちゃんをいい意味で子供扱いするというか。いつもはちよちゃんが榊を助けてくれるんですけど、今回はちよちゃんの望みを榊が叶えてあげるシーン。

ヤママヤーのお話は大感動もの

原作を読んだときに、大感動してしまいました。絵もかわいいし。榊がヤママヤーの抱くときって、前足を抱えるようにするんです。それがまたかわいくて。

滝野智役
樋口智恵子

『あずまんが大王』は不滅です

PROFILE

ラブライブ所属／1月30日生まれ／B型／代表作品は『To Heart』(長岡志保)、『ケロケロチャイム』(ミモリ)、『MARCO・母をたずねて三千里』(マルコ)、『ホイッスル』(椎名翼)など。

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
そんなに暴走していいんですか……？
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか？
シュールな笑いで、口の端っこで笑っちゃうような『あずまんが』ワールドに一発でハマリました!
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか？
元気で暴走するところはとことん暴走し、でもイヤミな感じにならないように気をつけました。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか？
「ハジケられるところまでハジケてみてください」と(笑)。
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか？　また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
女の子ばかりで女子校みたいな現場でしたね。みんな常にお菓子を食べていました。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
ちよちゃんの髪の毛。とれるから。
●自分の演じたキャラクター以外で、演じてみたいキャラクターはいましたか？
う～ん……智以外考えられないですねぇ……。
●卒業までの3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか？
髪が少しずつ伸びていき、そして、突然短くなった!!!　……あれ？　そういうことじゃないって？
●自分の高校生活と比べてみて、物語に感情移入できたところなど、ありましたか？
テレビの方はハイスピードでしたが行事は必ずあったので、すべてが懐かしかったです。井の頭公園もアニメにたびたび登場していましたが、実際の私の中高時代の通学路だったんですよー。
●最終話までのアフレコを終えた、いまの心境は？
あっという間に終わってしまったので、とてもさみしいです。
●ズバリ!　この作品の魅力とは？
シュールな笑いっ!
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
智が不二子ちゃんになるシーン。私も不二子ちゃんが好きなので、モノマネできてうれしかったです。
●読者へのメッセージをお願いします。
アニメは終わってしまいましたが『あずまんが大王』は不滅です。これからも応援してくださいね!

水原暦役
田中理恵

ツッコミは、やりがいがありました

PROFILE

ドラマチック・デパートメント所属／1月3日生まれ／B型／代表作品は『ちょびっツ』(ちぃ)、『鋼鉄天使くるみ』(サキ)、『デュアル!ぱられルンルン物語』(真田三月)、『花右京メイド隊』(マリエル)など。

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
とても頭のよさそうなキャラクターだな～と思いました!　結構プロポーションが自分好みだな～と。
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか？
とてもおもしろかったです。読むたびにおもしろさ倍増でいい感じでした～!
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか？
智ちゃんとの微妙な友情関係ですかね。ボケとツッコミをはじめて経験したので。しかも、ツッコミの方だったので大変でしたね。やりがいがありました。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか？
おばさん??!　と少年みたいなミックス感が出せるといいみたいなことでしたが……。
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか？　また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
お花畑でした(笑)。女の子キャストばかりでしたので、毎週幸せでした。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
榊さんです。あの動物好きなところが大好きです!　私もネコとか動物大好きですので。
●自分の演じたキャラクター以外で、演じてみたいキャラクターはいましたか？
ヤママヤ～～～!!!
●卒業までの3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか？
特に感じませんでしたが、季節の移り変わりが早かったですね～～。
●自分の高校生活と比べてみて、物語に感情移入できたところなど、ありましたか？
学校風景などのガヤをやるときなど、学生に戻った気分で演じていました。
●最終話までのアフレコを終えた、いまの心境は？
さびしかったです……。もっと……やりたかった……。
●ズバリ!　この作品の魅力とは？
スクールライフを送っている方にも、そして懐かしいな～と思っている方にも両方おススメです!ぜひ見てまったりしてください!
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
早弁のシーン……。じつは私も……。あは、あはははは……。
●読者へのメッセージをお願いします。
楽しかった学生生活を思い出したり、いま学生生活を送っている方にも本当におススメですね。キャラの個性もとってもおもしろいので『あずまんが』ワールドに一度どっぷりハマってみてください!

神楽役
桑島法子
キャラ、たちすぎ! 笑いのツボ、多すぎ!

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
好きなタイプだなあ。
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか?
学生時代を思い出しました。日常の切り取り方が非常に上手くて、笑えました。
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか?
気をつけたことは、体育会のノリです。苦労したことは、テンションが上がると、叫び系のセリフが多くて大変でしたね。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか?
最初にゲームの録音があって、そのときには、女の子がたくさん出てくるので、周りとかぶらないような個性付けを……と言われたような気がします……。
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか? また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
女子校みたいでした(笑)。金田朋子ちゃんは見ていて飽きませんでした(笑)。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
みんな気になるけど……忠吉さんかなぁ。←欲しい(笑)。
●卒業までの3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか?
部活、がんばったよねーって。まっさきに大学に受かるとは思いませんでした!
●最終話までのアフレコを終えた、いまの心境は?
途中参加でアッという間だったので、もっと演じていたかったです。
●ズバリ! この作品の魅力とは?
キャラ、たちすぎ! 笑いのツボ、多すぎ!!
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
「子供の花見」が印象に残っています。演劇部で青春してた自分を思い出し、ちょっと切ない気分になりましたね。桜の花って不思議。
●読者へのメッセージをお願いします。
神楽を忘れないでやってください! また会えるといいですネ!

PROFILE
青二プロダクション所属/12月12日生まれ/A型/代表作品は『機動戦艦ナデシコ』(ミスマル・ユリカ)、『神風怪盗ジャンヌ』(日下部まろん)、『機動戦士ガンダムSEED』(フレイ&ナタル)など。

谷崎ゆかり役
平松晶子

さびしい さびしい さびしいよー(汗)

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
普通の先生。
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか?
もともと大ファンです♡ 何度読んでもおもしろすぎっ♪
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか?
パワー負けしないように気合いを入れてました。あとは、本能のままに(笑)。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか?
かなり好き放題でした!? 「毒吐くときは、思いっきりモウ毒で」とか、あったかなー?
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか? また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
ワイワイしてて本当に学校っぽかった。楽しかったです。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
大阪。ちょっと、普段の自分とかぶる所が……。"ちょっと"ですよ。
●自分の演じたキャラクター以外で、演じてみたいキャラクターはいましたか?
ごめんなさい。「ゆかり」がいちばんかわいいです♡
●卒業までの3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか?
ゆかり先生は"まんま"でしょう。ちよちゃんは背が伸びた。大阪はしっかりしてきた?!
●自分の高校生活と比べてみて、物語に感情移入できたところなど、ありましたか?
本当の卒業式より、『あずまんが』の現場で『仰げば尊し』を歌ったときのほうが感動しました(汗)。
●最終話までのアフレコを終えた、いまの心境は?
さびしい さびしい さびしいよー(汗)
●ズバリ) この作品の魅力とは?
「自分の個性」を大切にしている楽しい登場人物たち♪
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
○にゃもをからかって歌う「ラブレターの歌」。
○にゃもとうばいあって壊した「木彫りの熊」。
○ゆかり車運転のとりつかれ状態。
○『十戒』のように割れた海でキチンと英語をしゃべったゆかり。
○ゆかりを起こしにくる、包丁をもった大阪。
○智の「ルッパ~ン♡」。
○ちよ父すべて。
○マヤーが榊を助けるシーン
あ"~、いっぱいあってもう書ききれません。
●読者へのメッセージをお願いします。
全部おもしろいから見てください☆

PROFILE
賢プロダクション所属/8月31日生まれ/O型/代表作品は『逮捕しちゃうぞ』(小早川美幸)、『セイバーマリオネットシリーズ』(ブラッドベリー)、『烈火の炎』(風子)、『パルムの樹』(パルム)など。

黒沢みなも役
久川綾
もっと、みなもを演じた〜い（汗）

PROFILE

青二プロダクション所属／11月12日生まれ／代表作品は『美少女戦士セーラームーンシリーズ』（水野亜美）、『カードキャプターさくら』（ケルベロス）、『ああっ女神さまっ』（スクルド）など。

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
キレイでさわやかで、スタイルよくて……体育の先生としても理想的だなあと思いました。
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか？
なんともいえない独特なマンガだな〜と思いました。
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか？
苦労したことはありませんね〜。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか？
特にありませんでした。でもときどき「少しおばさんになりすぎ」と注意されたことがありましたね（笑）。
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか？　また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
平松さんのアドリブがあまりにもおかしくて本番中に笑ってしまいそうでした。でも自分のセリフを言わなければいけなかったので、平松さんのセリフのときは目をつぶって画面を見ないようにしてました。そーゆーのが2〜3回以上ありました。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
忠吉さん、めちゃめちゃかわいいです。大好きなので。それと若本さん演じるちよ父。すごく魅力的なキャラですね。
●自分の演じたキャラクター以外で、演じてみたいキャラクターはいましたか？
役者のみなさん、そのキャラにピッタリ♪　なのであえて演じたいとは思いませんね（笑）。
●卒業までの3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか？
みなもはありません。
●自分の高校生活と比べてみて、物語に感情移入できたところなど、ありましたか？
女子校でしたので男っ気が全然ありませんでした。卓球部と放送部にすべて投球していましたので、ちょっと神楽ちゃんに似てるかも。
●最終話までのアフレコを終えた、いまの心境は？
すご〜く物足りない気持ちでいっぱいです。もっとみなもを演じた〜い（汗）。
●ズバリ！　この作品の魅力とは？
"間"かな？
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
3話でいきなりお当番だったのには驚きました。あと転職やお見合いのお当番。高3の夏休み、ちよちゃんちの別荘に行くお話は、自分で演じたシーンのON AIRを見て大笑いしました。
●読者へのメッセージをお願いします。
続編を祈ってください。私と共に（笑）!!

かおりん役
野川さくら
ハートマークが見えるように努力しました

PROFILE

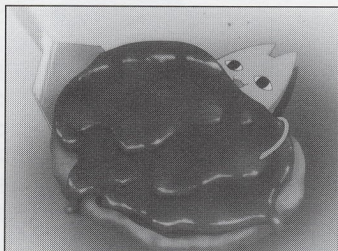
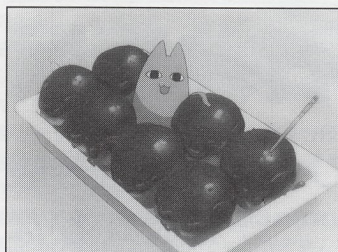
ラムズ所属／3月1日生まれ／O型／代表作品は『アーケードゲーマーふぶき』（桜ヶ咲ふぶき）、『ぴたテン』（御手洗薫）、『こすぷれCOMPLEX』（長谷川チャコ）、『よばれてとびでてアクビちゃん』（眠田ころん）など。

●ご自身が演じたキャラクターをはじめて見たときの感想をお聞かせください。
とっても女の子らしい普通の子といった印象を受けました。でも、なぜか女の子なのに榊さんのことが大好きで。「え?」ってびっくりしました。
●原作を読んだときの感想はいかがでしたか？
最初は「普通の4コマまんがなのかな」と思っていたんですが、読んでみるといままで読んだことのない4コマまんがでびっくり。個性的なキャラクター、物語の進み方など目が離せませんでした。私はこの作品の"間"がとってもお気に入りです。
●キャラクターを演じるうえで気をつけたこと、苦労したことはありましたか？
榊さんの前にでると、もう大変。叫んでばかりで、キンキン声で演じました。でも、かおりんの榊さんへの思いがちゃんと伝わるように努力しました。
●演じるうえで現場からの指示はありましたか？
榊さんと話すとき、「相手が榊さんだということを忘れないでね」と言われたことがありすます。
●アフレコ現場の雰囲気はいかがでしたか？　また、なにかおもしろいエピソードなどあればお聞かせください。
アフレコ現場は女の子がいっぱいでとってもにぎやか。学校のような雰囲気の中でのアフレコでした。いちばん印象に残っているのはいつも「このお菓子がおいしいんだよ」って教えてもらって、おいしいお菓子を覚えて帰っていたことですね。
●ご自身で演じたキャラクター以外で、気になるキャラクターと、その理由をお聞かせください。
ちよ父。動いているちよ父を見たときは感激しました。私のバックには、ちよ父のキーホルダーがついているくらいちよ父の大ファンです。
●自分の演じたキャラクター以外で、演じてみたいキャラクターはいましたか？
いつも登場するネコちゃん。私はネコちゃんが大好きなのですがこの作品に登場するネコちゃんは声優さんが声をあてていないんです。できれば私が演じたかった〜という気持ちでいっぱいです。
●卒業までの高校3年間を演じてみて、キャラクターの成長が感じられるところはありましたか？
3年生になって出番は減ってしまったのですが、それでも3年生になったかおりんは、びっくりするくらい積極的に榊さんと接していて、大好きな人のために成長したんだなぁと実感しました。
●最終話までアフレコを終えた、いまの心境は？
学生時代に戻ったようにいろいろな季節を過ごすことができたことが本当にうれしかったです。
●ズバリ！　この作品の魅力とは？
個性的なキャラクター。何気ない日常とか。
●思い出に残っているシーンと、その理由を教えてください。
運動会でかおりんが大好きな榊さんといっしょにフォークダンスをするシーンです。大好きな榊さんといるときと、怖〜い木村先生といるときとの演技の差をつけるのにがんばりました。
●読者へのメッセージをお願いします。
ずっと原作のファンだったので、こうしてアニメに出演することができてうれしく思います。またいつか続編などがはじまるといいなと。これからもこの作品を応援してくださいね。

監督×シリーズ構成

錦織博×大河内一楼

気持ちがいい作品と言われて、今回いちばんうれしかったです。

「一緒に悩んでくれるスタッフが欲しかった」という錦織監督。それに応えた大河内とスタッフの作品作りの秘密を大紹介します！

PROFILE

錦織博 『天使になるもんっ！』原案・監督。『機動天使エンジェリックレイヤー』監督。そのほか、多くの作品の絵コンテ等も手がける。

大河内一楼 『OVERMAN KING-GAINER』シリーズ構成。『機動天使エンジェリックレイヤー』シリーズ構成ほか、脚本を手がける。

試行錯誤の制作スタート

――まずは終わってみての感想をお願いします。

錦織（以下、錦）◆終わってみて、よかったなあと。大きいタイトルというのもありましたし、また原作が読む側でいろいろなとり方のできる漫画であり、すでにみなさんが自分の中でキャラクターを育てていたため、公共の場で見せるアニメとしてどういうふうに作っていくかという点に苦労しました。でも、終わってみてみんなに、ちよちゃんや大阪さんのキャラクターが広がっていたと言われて、素直によかったなと思います。

大河内（以下、大）◆自分が担当したシリーズ構成という仕事は、最初の方でほとんど終わっていたんです。きちんと原作を追う形にしようと決めて。ネタを26本3年分にわけて見やすいようにするというのが、今回の仕事でした。その後の脚本を書く仕事は、個々のライターの方にお任せして、うまくいったかなという感じです。

錦◆どう見せるかっていうのは、すごい紆余曲折があったよね。

大◆最初の4話で試行錯誤して、5話以降は割とすんなりいったかなと。

錦◆そう？（笑）。私はずっと紆余曲折していたという感じがあって、最終話でもどうしようかとかなり悩んでいたんです。この作品は、最初、毎日放送する帯番組ということで話をいただいていたんですよ。だから、5分枠で話の1本1本をインパクトがあっておもしろいものにしようと思っていました。一発ネタとかショートコントの見せ方にしようと思っていたんです。断片的な見せ方というか、ひとつのネタを活かしていく感じで。あとは、逆に余剰的な情報を見せるとか。全然関係ない絵が映ったり、別のシーンが映ったりっていう。1話に入っているちよちゃんの「作りましょ～♪」は、そのなごりですね。それで最初にシリーズ構成をまとめて、その段階でシナリオが何本かあったんだよね。確か4本ぐらい大河内君が書いてました。そのころは、昔放送されていた『ゲバゲバ90分』って番組みたいなイメージが頭の中にあって、5分ごとに1話を終わらせなくちゃいけないと思っていたんです。例えば、今日、智がおもしろいことをやったとしたら、見た人の中にそれがちゃんと残ってるのがいいと思っていたんです。でもそれから30分番組にしますって話がきて。その段階で「5分枠の帯放送をやめて普通の30分番組にします」って言ってくれればよかったんですけど、5分枠の帯もやります、帯番組を5本続けてつなげて30分番組もやりますっていう話になっちゃって（笑）。その時点でどうするか悩んだんですよ。30分で見てもらうときにコンセプトとして考えたのは、生徒たちが高校生活3年間を送るのは同じだけど、見ている人にも高校生活を共有してもらおうと。みんなといっしょに高

校生活を送っているようになればいいなって。そのようにつかみ方を変えていった部分はありますよね。最初の段階では、コーナー的に作るという話もあったために、現場はバタバタしてました。

大◆あと、最初のころは朝の番組になるかもしれないって言われてたんだよね。土曜の朝7時で子供向けに作るかもしれないとか、いろいろありました。

錦◆最終的に、ライターさんに何人か入っていただいた段階では、4コマまんがのひとつひとつのネタが独立しているんじゃなく、ひとつの場所で、例えば教室だったら教室の中で話題が変わっていくとか、同じ雰囲気の中でもいろんなことが起こるっていうのを意識してほしいと頼んで書いていただきました。またそうしたときに、原作のネタの順番を変えたりしてアニメなりの『あずまんが』を作ろうとしたんです。

大◆シチュエーションがいっしょなら、話として成り立つかなと思って。それもあって、ライターさんやスタッフで「みんなで高校生活を楽しく送っていこう」というのを狙いとして、作りはじめることにしました。

錦◆制作をはじめて、「大阪さんはこうだ」とか、「暦はこうだ」とかそれぞれがキャラクターを理解しはじめてきたり、好きになったりして、キャラクターに対する思い入れがでてきました。中盤ぐらいになると、そのムードや、各キャラクターごとの行動やセリフの整合性重視でシナリオを作っていたので、脚本担当の方に申し訳ないと思っていたんですが、そこから崩して逆に原作の方に戻していくプロセスが入ってきましたね。アニメのスタイルができてきたのは、原作のネタはいじらず、高校生活のムードを広げるようにしてからですね。ディテールや雰囲気をひろっていく方向に変えていったんです。文化祭が終わったあとの気持ちとか、休み時間とか、ネタまわりのムードや情景を広げていく。そうしたことで、アニメの『あずまんが大王』らしさが作れるようになったなと思います。そこに落ち着くまでは、脚本の作り方や演出の仕方で試行錯誤してました。

大◆前半の方はネタがぶつ切りっぽいけど、後半は連続したストーリーっぽくなりましたよね。原作も後半はそうなっていたので、アニメでもそれもアリだなって思って。それからはつかみやすくなりました。

錦◆じつは、最初から原作に沿うことを決めていたというわけではないんです。いちばん最初は、もうちょっと原作から離れていたんですよ。原作のネタは使うんだけど、見せ方は原作っぽくないというふうに。さりげない生活描写をアニメにすることは難しいんですよ。やったわりには見ている人に届かないことがすごく多いので。だから、この作品の持ち味でもある「さりげなく生活を書く」ということは、結構しんどい作業でした。そのため、最初の方は崩しやオーバーなアクションという記号的なものに頼ってしまっていたんです。そうしないと見ている人にその行動の意味が届かないんじゃないかっていう恐怖感があって、感情描写をハッキリしないと、と。そのうちキャラクターに対する理解ができてきたので、その辺を外し、最終回では、いままで頼らないでいた日常表現やキャラクターの反応っていう部分に重点を置いて演出しました。まあ、最後だし、って（笑）。最終回をよく見てもらうと、同じロングの中でもそれぞれが違うことをやってたりしてるんです。できあがったものを見たときに『あずまんが』ってこうかなと、素直に実感がもてました。

大◆それはアニメーターや演出がみんなキャラクターに対して理解がないとできないことなので、むしろ最後だからできたことでもあるんですけどね。

世界観とことばづかいのこだわり

——もし、この作品の放送が1年だったとした

ら、もっともっといろいろなことができたと思われますか？

錦◆そうですね。ただ『あずまんが』って、なんていうか……これをやったら『あずまんが』じゃなくなるっていうところが、ものすごく多いんです。例えば、予告も自分で書いていたんですが、こう言ったら『あずまんが』じゃなくなっちゃうよっていうセリフが結構あって、それも難しかったですね。だから演出も絵描きも脚本もキリキリしてやったんじゃないかな。雰囲気が保てているとしたら、逆に1年2年続くとしんどいですよ（笑）。

大◆おもしろいネタが思いついても、これをやったら『あずまんが』じゃないんじゃないか？　みたいなね。

錦◆『あずまんが』と違うことばを書いちゃうってことに対して恐れがありましたよね（笑）。

大◆普段使っていることばでも、『あずまんが』の世界にはないんじゃないかなってことばがあるじゃないですか。たとえばセクシャルな意味を内包したことばとかって、『あずまんが』にはないんです。そういうのを出さないようにするとか。

錦◆みんなで話し合ったときにあずま先生から言われたことがあって、「木村は変態じゃなくて、そういう表現をする人だ」と。ああいうキャラクターというのは、アニメのお話作りの中では表現しやすいのでエスカレートしちゃうんですよ。暴走しておもしろいということもありますが、木村は暴走していくようなキャラクターではないと言われてしまって。そこは意識して推し量ってやっていましたけど、止める理性が必要でしたね（笑）。そこのさじ加減もむずかしかったな。

――シリーズ構成をしていて、キャラクターのつかみづらいところはありましたか？

大◆『あずまんが』自体はずっと読んでいたので、なんとなくキャラクターはあるんだけど、それを放送でどう組み替えていくか戸惑いました。ギャグアニメにするわけにはいかないし。どんなテンションでいけばいいのかと。

錦◆人に見てもらうものを作るときにテンポ感は必要だと思うのですが、多くの支持がある漫画をテレビ化するということで、魅力的なキャラクターたちとなかよくなりたいとか、存在感が自然に伝わるように作ろうと思いました。自分は早いテンポの方が好きなんですが、ゆっくりでも気持ちが伝わるようにという作り方をしたつもりです。遅い展開とか、ゆっくりな描写から、その気持ちをさぐってもらったり、見ている側に、「自分の周りにもこんな子いるよね」って存在感が伝わればいいなと。それを動きとかで表現するのは、難しいんですけどね。また、その人々がいることを信じられるように、学校の描写や町並みの描写は、最初に考えていたものよりは地に足ついた感じにしたつもりです。リアルというわけじゃないですが、そこにないものはなるべく描かないことを意識してましたね。9話のとき、作画監督で入ってもらった橘君が、その辺に意欲的だったんです。自分で街へ出て写真を撮って、それをもとにしてレイアウトを描いたりして。彼が実在感ということに意欲的な表現をしてくれたので、それに触発されて公園やデパートなども、みんなが見て信じられる描写にしようという意識に変わっていきました。必ずしも情報量を多くするということではなく、その場所にキャラクターが本当にいるという感じがなるべく出せればいいなと思いました。

制作から声優まで 一致協力作品作り

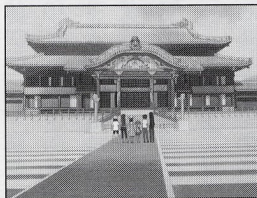
――声優さんたちが、自分の高校生活を思い出したとおっしゃっていましたが、制作のみなさんは学校生活の描写についてはどう思っていましたか？

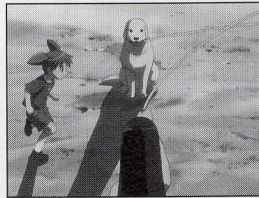
錦◆体育祭などは、はじまりから終わりまで進行がちゃんとあるので、原作ネタをつかうにしても流れが理解しやすかったです。一日の流れがハッキリしている行事っていうは、自然な感じで流れていけば、何も起こらなくてもいけるんじゃないかなと。

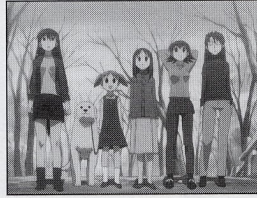
大◆26本で3年間の時間経過を表すというのはよかったよね。たとえば、1年生のときと3年生のときのちよちゃんは違っているとか。

錦◆そこを表現するために、原作ではキャラクターの呼び方を段々と変えていくことで、すごくうまく表現していましたよね。アニメもきちんと変える

監督の気になるシーン

本当は行かなくてもよかった沖縄

沖縄編を描くときには最低必要な分な資料は揃っていたんです。でも「見ないもの描くな」と言っていたので行きました（笑）。海まで潜れなかったけど。

みんなで縄跳びをしているところ

12話で縄跳びをしているシーンは誰もが「そうそう」って思える雰囲気が作れました。絵コンテの山川さんのがんばりでとてもいいシーンが生まれました。

本当にあると思わせる街の風景

9話の作画監督を担当した橘君がとても意欲的で、自分で街へ出て写真をとって、それをもとにレイアウトを描いていたんです。みんな触発されましたよね。

瞬間を決めておけばよかったんですけど、そこまでは気づかなかったな。

大◆シリーズ構成で決めてもよかったね。でも、なしくずし的に、もうこう呼んでてもいいじゃないかって感じで進めちゃいました。

錦◆いま思うと、そろそろいいかなって変えていくのもあまり根拠がなかったな、と。アフレコのときに変えたときも多かったし。

大◆そろそろ、こう呼んでもいいころだよねっていう共通意識があって。

錦◆役者さんがそういう呼び方をしたときに、違和感があったら変えどきだって（笑）。それぞれのキャストだったり、音響の鶴岡さんとかが、そういうことをみんな考えていてくれました。なかよくした感じをアフレコに出してくれたり、逆に固かったのを柔らかくしてくれたりだとか。脚本きっちりじゃなくて、その場その場でやっていったことも多かったよね。

大◆アニメはみんなで作っているから。合意で呼び方も変わっていったし。それでも、困ったこともあったよね。原作で呼びかけないキャラクターがいて。たとえば榊さんは神楽のことを何て呼ぶんだろうとか。

錦◆呼んだときに、そこはかとない違和感が出る（笑）。

大◆なんて呼んでいいかわからないけど、一応脚本には書いておいて、演出の人が見て、現場で監督と役者さん、シリーズ構成などがもう一度チェックして、「おかしいんじゃない?」って意見が出なければそのまま使いました。

錦◆その辺が簡単にできないのが『あずまんが』のすごいところであり、難しいところでした。「へーちょ」の入れ方とかね（笑）。じつは、大阪さんが花粉症だっていう下りが入れずらかったんです。最初の時点で入れると引きずりそうな感じもあって。それに花粉症って1日じゃ治らないじゃないですか（笑）。春っぽいエピソードのときに入れてしまうと、その後もずっとくしゃみをしていないとおかしくなってしまう。見てくれてた人の中には、ここでやるはずだ、とか思ってくれてた人もいるしね。

大◆またそこで、なぜやらないんだって怒られちゃうこともありますから。

錦◆そういう期待をされて見ていた方には、申し訳ないところでしたね。

大◆なんで大阪のみぞおちにパンチするのは、神楽じゃないんですか、とかね（笑）。

――視聴者から細かいツッコミって、ありましたか?

大◆意外なところのツッコミはありましたよ。ゆかり先生の誕生日が春休みから夏休みに移動してるとか（笑）。

錦◆原作がしっかり作ってあって細かいところまで考えられているので、なるべくその設定を意識したんですが、毎週楽しく見てもらうために変えた部分って意外と多いんです。逆におもしろいと思っていたネタでも、アニメには入れられなかったものもたくさんあって。そこは惜しいところです。

大◆結構使っていないネタってありますよね。

錦◆自分が好きなものでは、受験勉強中の暦のシュークリーム話（※原作4巻の「栄養不足」「新理論」のこと）をやりたかったんですよ。自分の中では何の疑問もなかったんですけど、最後の方は素直な流れを作ろうというのがあって、もう一回みんなで勉強するシーンが作れなかったんです。涙をのみました。ムリヤリ変えちゃえば入ったんでしょうけど……。

大◆あの辺の話は、あと2本ぐらいあったらねぇ……。シリーズ構成を考えていたときには、まだ原作の最終回が見えていなかったので、ちょっと心残りな部分もありますけど。沖縄編とかもわからなかったですからね、あのころ。

錦◆自分は、受験のときって、あまりよく覚えていないというか、断片的にいろんなことが起こる状況なので、短い中に詰めてやったほうがいいんじゃないかと思って。それで、それぞれの試験のエピソードを拾っていったら、

受験勉強をする話が拾えなくなってしまった。あと5本ぐらいあったらできたかも(笑)。沖縄編はね、行きましたよ。演出や作画に「見ないで景色を描くな」と厳命していたので(笑)。

大◆音楽まで沖縄編専用があったり。ぜいたくですよね(笑)。

錦◆さすがに、海に潜ることまではできなかったけど(笑)。

——表現しやすいキャラクターは、いましたか?

大◆いろいろなシーンで使いやすいのは、暦ですね。大阪さんが普通のこと言うのはつまらないし、ちゃんとやるとすると、何かをやらせなきゃいけないような気がして(笑)。

一緒に悩んでくれるスタッフと

——メインとなるキャラクターは6人いますが、脚本を書くときにキャラクターの描き方を均等にするなど、意識はされましたか?

大◆そういうことはしてないですね。たとえば大阪がしゃべっているからって、その場に彼女しかいないわけではなく、後ろにほかの5人がいて、それぞれが芝居をしている。セットであることに意味が見えているので。

錦◆ただ、木村とかおりんは行動がわかりやすいので描きやすかったかもしれません。インパクトのある描写をしやすい。キャラクターは、そのシーンでしゃべっていなくても、画面に映っていなくても、その場にいるっていう意識で作っていたんですけど、かおりんは前に出てきちゃうんですよ。放っておくと榊さんの方にどんどん寄って来る。その部分を画面に出してしまうと、かおりんばかりが目立ってしまうんですよね(笑)。

大◆かおりんって『あずまんが』のなかではベタな感じがして、結構目立つ存在なんだよね。

錦◆また榊さんが好きっていう表現をアニメ的な手法でやっていたので、ダイレクトに目立ってたのかも。でも、存在感はあるんだけど、置いてけぼりなキャラクターなんだよね(笑)。

——今回の作品は、いままで携わってきたメカものとは内容が違うじゃないですか。その辺で頭の切り替えが大変だというようなことはありましたか?

大◆別に意識したことはないですね。『あずまんが』は『あずまんが』だし。逆に似ている作品をやるほうがつらいかもしれませんね。

——この話が大河内さんのところへきたときはどう思いました?

大◆少し前に『機動天使エンジェリックレイヤー』っていう作品で錦織さんとごいっしょさせていただいたんですけど、「もう一回俺でいいんだ」って思いました(笑)。

——錦織さんが、シリーズ構成を大河内さんにお願いしたことには、どんな期待があったのでしょうか?

錦◆『あずまんが』をやるときに、緊密な脚本より、どうやったら魅力的なアニメになるんだろうってことを探っていかなきゃいけないと思ったんです。文芸的にカッチリ作るというよりは、表現の仕方を探るという意味ですね。そこで、いっしょに悩んで歩み寄ってくれる人が必要だったんです。大河内さんならば、そういうことができると思って。簡単に答えが出せなくても、ジタバタできる人といっしょにやりたいなって思っていたこともあって。

大◆ジタバタしてたもんね(笑)。

錦◆分厚いリストを作るよりは、延々と話をしている方が多かったですね。どういうふうにしようという話がでたときも、漫画どおりにしよう。でも漫画どおりにやっても、どういう作品にするかが難しかった。そういうことをいっしょに考えられるスタッフが、自分には必要でした。キャラクターのリアクションにしても、絵コンテには描いていないところがたくさんあるけど、その見えないところまで演出や作画の人が拾って膨らませてくれる人。絵コンテにいなくても、ここにはこの人がいるはずだといって描いてくれる人。そういう人たちが集まってくれたお陰で、この作品はうまく膨らますことができたんです。最初に話をもらったときにはスタッフもいないですし、見当のつかないところもあった。とりあえず、話ができる人間を引っ張り込もうとは思ってたんですが、この作品が好きで自分から参加してくれる人が多かったですね。だから、作品を作るうえではキャラクターの性格などを浸透させる苦労はあまりなく、みんなで最初から、よりよくしようという感じで作業してもらえて、楽しくできました。26本豊かに作れてよかったです。

大◆準備期間がなかったわりに、結構いいスタートが切れましたしね。

——お気に入りのエピソードはありましたか?

大◆12話とか……。

錦◆12話のラストのお話で縄跳びをやるってことをスタッフみんなで話してまとめるんだけど、どういう空気でってところで……夕暮れで寒くなってとか、ことばで表現するには難しいところがあったんですよ。だけど、絵コンテを担当してくれた山川さんが、雰囲気をよくつかんでくれて、誰もが「そうそう」っていう雰囲気を作ってくれたんです。頼んだときはそこまでのつもりじゃなかったんだけど、思いがけずいいシーンになったものがたくさんありました。そういうところはとてもおもしろかったな。普遍性のある風景をたくさん作ることが課題でもあったので、スタッフの力で支えられました。美術もよかったし、とてもきれいに見せられましたし。

アルバム開くように作品を思い出して

——シナリオを書かれていて記憶に残っているセリフはありますか?

大◆榊さんが突然ひらめいたりしたときの、原作にはないセリフとか。アニメで、榊さんというキャラクターの表現を補強した感じ、のセリフかな。

錦◆セリフを足していくというよりは広げていく感じだったよね。

大◆改めて原作を見てみて「このセリフ、アニメにしかなかったんだ」って思ったセリフかな。そうそう、覚えているといえば、1話の予告編のセリフかな。あの内容は、次回予告じゃないよな～ってことで（笑）。

——5分のお話に、それぞれサブタイトルをつけたのはなぜですか？

大◆原作ファンの人たちが「今回このエピソードがあるんだ」って手がかりになるぐらいのことをやろうと思って僕がつけました。トータルで見るとその5分ははたしてそのタイトル通りの5分なのかと言われると、必ずしもそうじゃない場合もあるんだけど。「来週はなんとかがあるんだ」とか、「だから標準でビデオ撮ろう」とか、みんなが盛り上がれたらいいなっていう、インデックスぐらいの気持ちで。

錦◆サブタイトルは意図的に数字をつけてないし、サブタイトルをまとめて見たときに、いろんなことが起こっているっていうのが見えればいいなと。一本切り取って目立つよりは、思い出がそれぞれ並んでいる感じかな。高校3年間を描くのに、ひとつひとつのできごとの時間が決まっているというのは、いいこともありました。ただ、情感をたっぷり見せたいと思っても、1話約4分と時間が決められているので泣く泣く切った部分も。30分番組を1本作るよりも制約はありましたよ。音楽にしても、たっぷり聞かせてあげられなかったですし。だけど30分まとめて見たときにきれいに見れたのは、音響の鶴岡さんにうまく音楽を入れてもらったおかげです。一本一本、短い1話で見ても、30分まとめて見ても自然に見えるようにしてもらいました。

——30分番組で見ると、アイキャッチがいろいろな種類で、けっこう挿入されていましたよね。

錦◆自分としては同じキャラクターが何回でてきてもいいと思っていたんですけど、キャラクターデザインの加藤さんがこだわっていて「同じキャラは2度と使わん」みたいな（笑）。最後は大山君まででてました。

大◆ほとんど全員でたんじゃないかな。

錦◆普通、本編を作るだけでも大変なのに、加藤さんには楽しんでやってもらえました。「まだ、アイキャッチは変えないの？」とか（笑）。いま思えば、毎週変えてもよかったかな。

——そういえば、共学のわりに男子生徒があまりでてこなかったですよね。

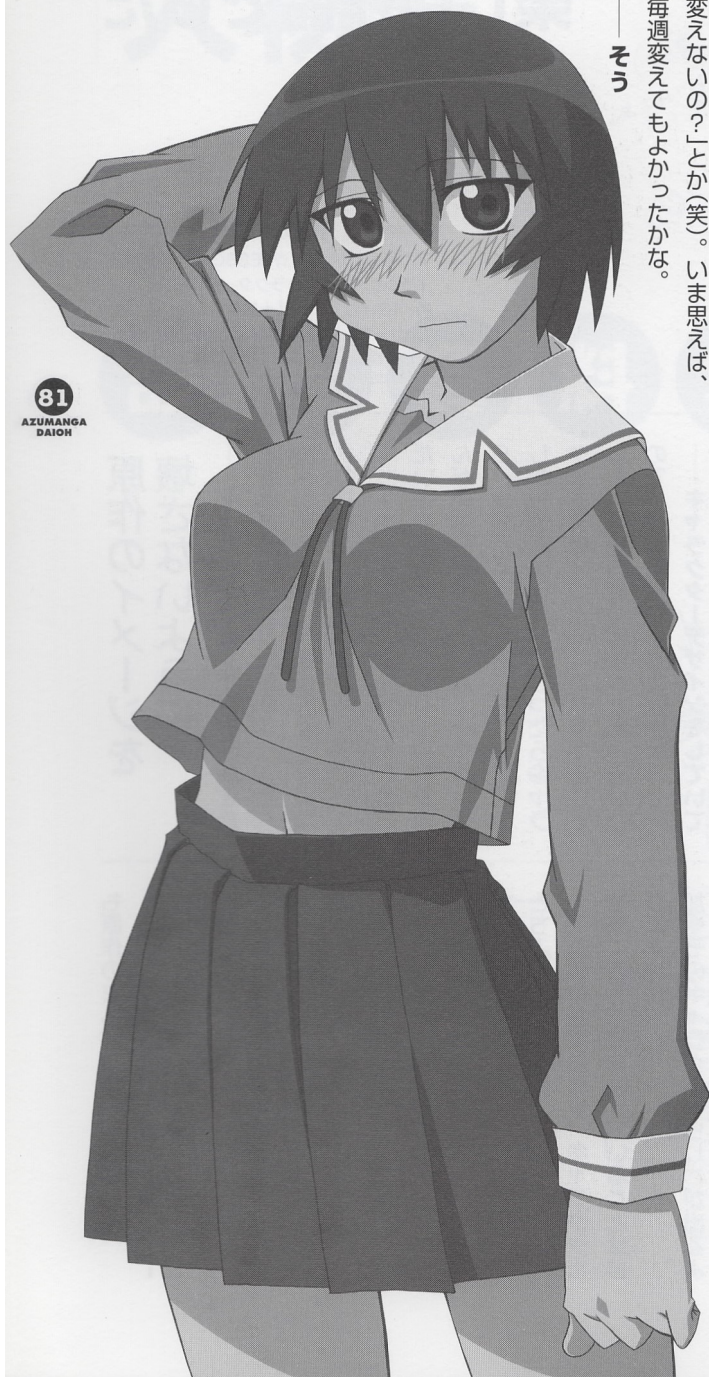
大◆変に出しちゃうよりは、カメラで撮っていないことにして……。

錦◆そこにいるんだけど、映してないっていうことにしました（笑）。

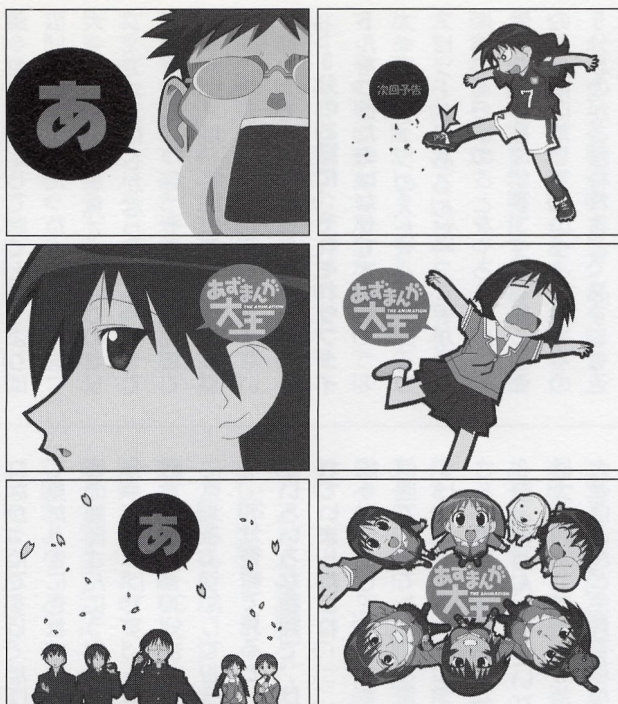
——最後にメッセージをお願いします。

錦◆僕としては、普段アニメを見ない人がたまたま見たときに、「こんなヤツいねーよ」とかならないよう、一人の女の子としてこういう人がいるって受け取ってもらえることを目指しました。まんがやアニメを普段見ていない人が、夜帰ったときに「気持ちがいいものを放送しているので、なんか見てます」って言っていた話を聞いて、とてもうれしかったですね。一人でも多くの人に作品を好きになってもらいたいですし、この作品がこの時間にチャンネルひねればみんなに会えるっていう感覚になってくれていたとしたらうれしいな。大阪さんやちよちゃんたちをおもしろく見てもらって、みんなそれぞれ自分の生き方を振り返るみたいなことになればいいなあ（笑）。

大◆自分の高校時代のアルバムを開くような感じでね。視聴者と『あずまんが』は同じ世界の中にはいないのに、この人たちと過ごした半年があって、いっしょに生きてきたというか。原作から好きな人は、もう3年間つき合ったわけですから、それも合わせて思い出を楽しんでくれるといいな。

——ありがとうございました。

キャラクターデザイン

加藤やすひさ

『あずまんが大王』楽しい作品でした

アイキャッチや次回予告

監督は同じキャラが何度出てきてもいいと思っていたそうだが、加藤さんは毎回変える勢いだったとか。最終回までの間にほぼ全員出揃ってしまったそうだ。ちなみに、榊さんの目にマヤーがいるのは気づいたかな？　じつはそんな仕掛けも隠されていた。

PROFILE

アニメの『HAPPY☆LESSON』や『メルティランサー』のキャラクターデザインをはじめ、『エイリアン9』『十兵衛ちゃん』『エクセル・サーガ』の作画監督などを務める。ほか、原画で参加したアニメ作品も数多くある。

原作のイメージを壊さないように

—キャラクターデザインの話がきたときはどう思いましたか？

加藤（以下、加）◆2年前の春、某アニメの打ち上げの飲み会の時、プロデューサーの松倉さんから「次は何かやりたい作品ある？」と聞かれ、「『あずまんが大王』がやりたいな〜」と答えたら、本当にそうなってしまいました。しかも原画の仕事かと思ったらキャラクターデザインとしてお仕事することに……。酒の席の冗談かと思っていたので、びっくりしました（笑）。

—キャラクターデザインをしていて楽しかったことはありますか？

加◆忠吉さんやヤママヤーを描いているとき、妙に楽しかったです。

—描きやすかったキャラクターとその理由を教えてください。

加◆大阪です。理由は……なんでしょう。好きなキャラクターだったからでしょうか？　でも、榊さんも好きなキャラクターだったのに描くのは苦労しました。う〜ん？

—好きなシーンとその理由を教えてください。

加◆確か5話だったと思いますが、大阪と某栗屋のおじいちゃんのやりとり（？）が好きでした。あの絶妙な間が……（笑）。

—各キャラクターの私服を描くとき参考にしたものはありますか？

加◆イメージを壊さないように、私服も原作のまんがを参考にしました。

—『あずまんが大王』のキャラクターをうまく描くコツは？

加◆とにかく原作とにらめっこ（笑）。

—できればこんな服を着せてみたかったというキャラクターはいますか？

加◆ヤママヤーにサンタさんの格好。

—できればこんなシーンを描いてみたかったというキャラクターのシチュエーションはありますか？

加◆忠吉さんとヤママヤーとかみねことちよ父の『人外魔境物語』……とか。

—この作品に限らず、キャラクターを描くうえで気を付けていることはありますか？

加◆そのキャラクターらしさが出るように……ですかね。

—キャラクターはいつもどこから描きますか？

加◆顔の輪郭からです。

—お気に入りのキャラクターとその理由は？

加◆榊さん、大阪、ヤママヤー、忠吉さん、ちよ父、です。理由は、見ていて飽きないから（笑）。

—『あずまんが大王』という作品について、加藤さん自身はどのような感想をお持ちですか？

加◆ほのぼのとして、楽しい作品。

—最後にファンの方へひとことお願いします。

加◆応援ありがとうございました。またどこかで見かけたらよろしくお願いします。

—ありがとうございました。

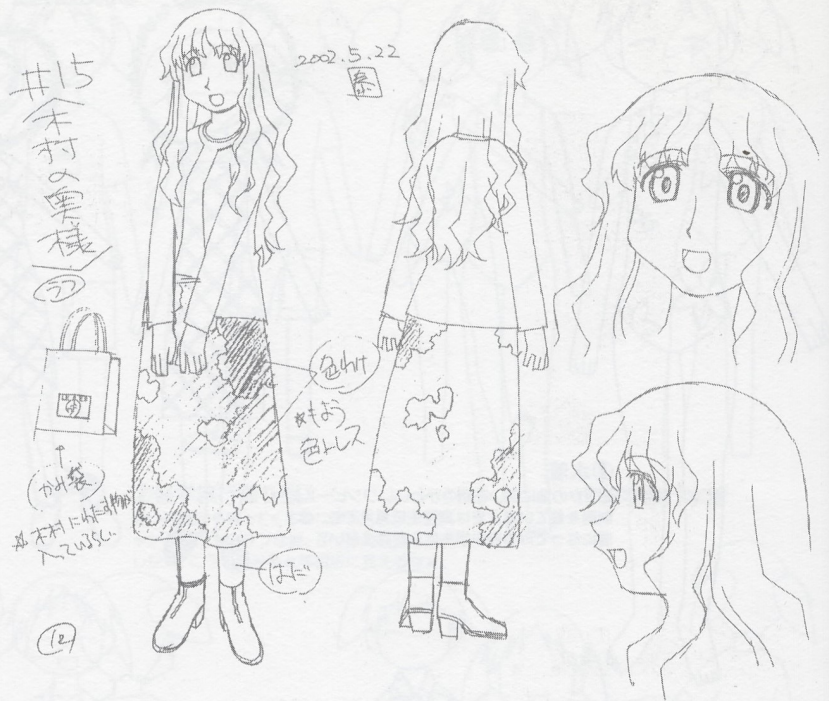
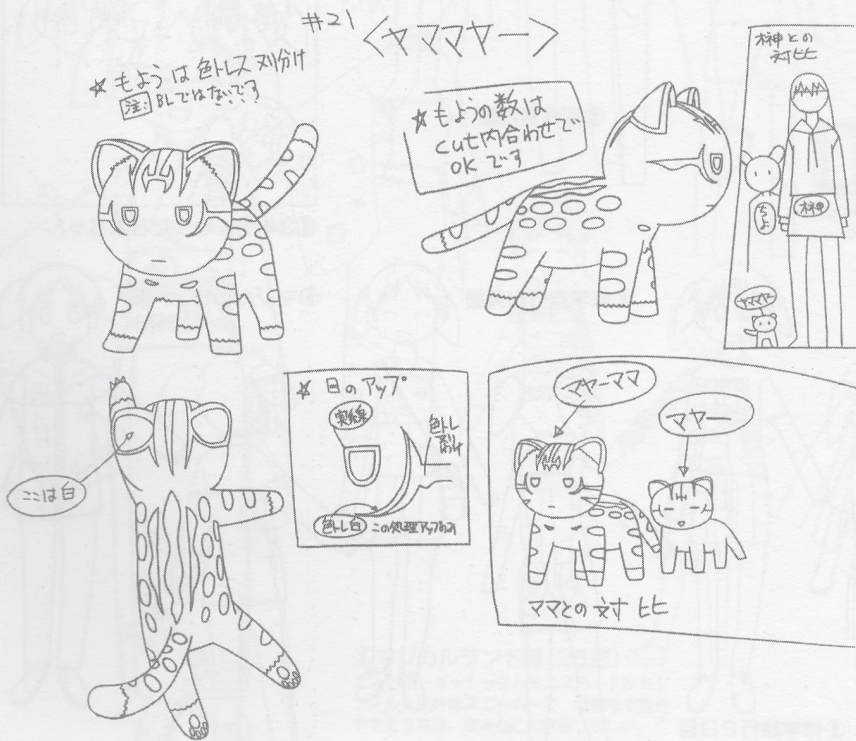
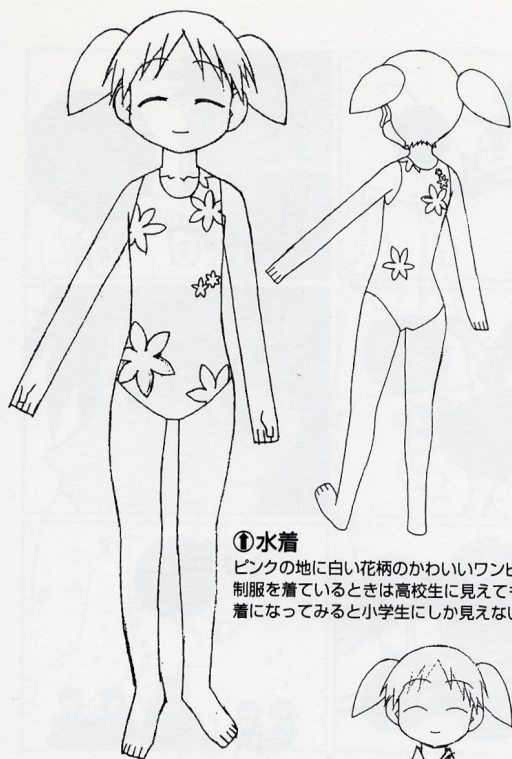
#15
木村の奥様
ラフ
2002.5.22
かみ袋
※木村に何か物が入っているらしい
色わけ
※もよう色トレス
はだ

人物編

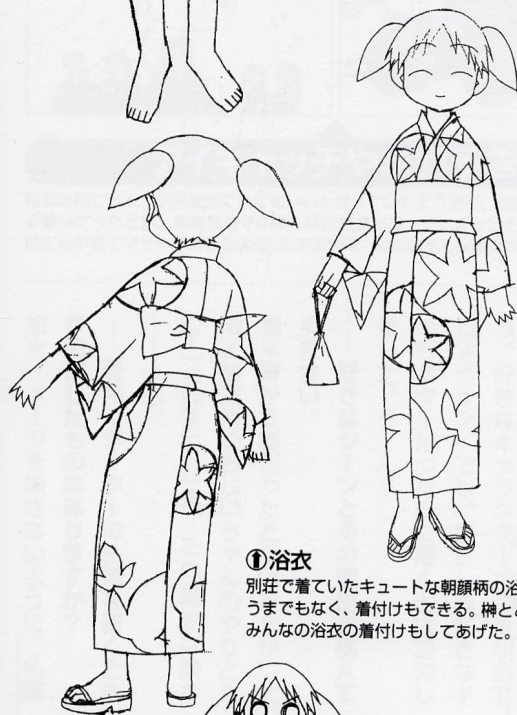
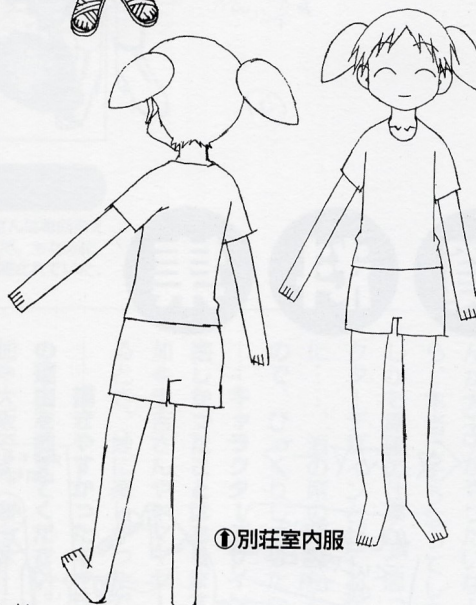
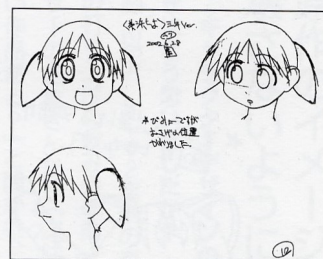
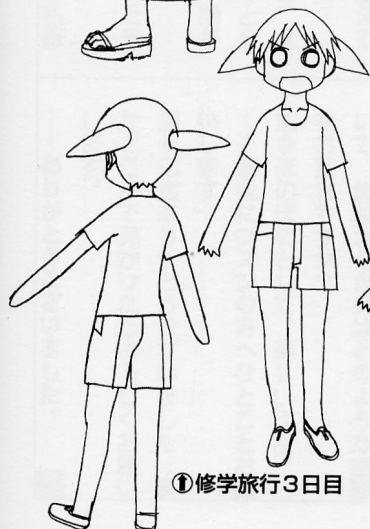
設定資料集

#21
<ヤママヤー>
※もようは色トレス塗り分け
注 BLではないです
※もようの数はcut内合わせでOKです
榊との対比
ちよ
榊
ここは白
※目のアップ
色トレ白
色トレ塗分け
マヤーママ
マヤー
ママとの対比

美浜ちよ

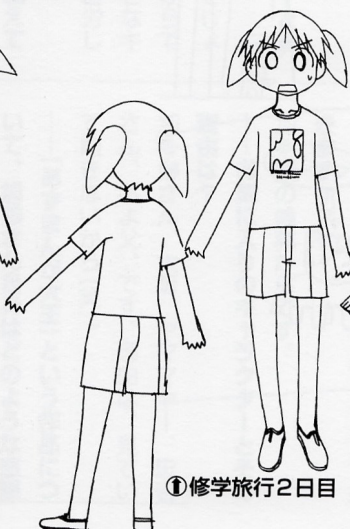
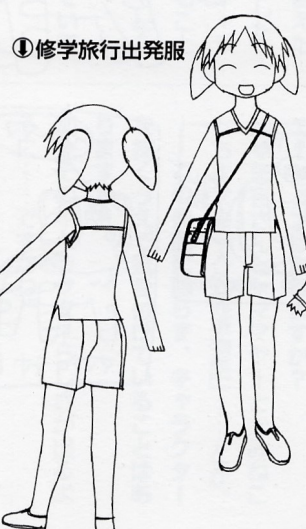
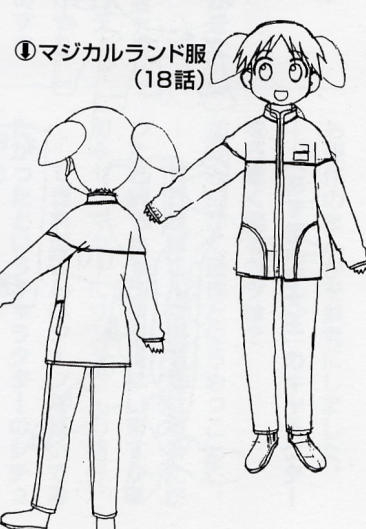
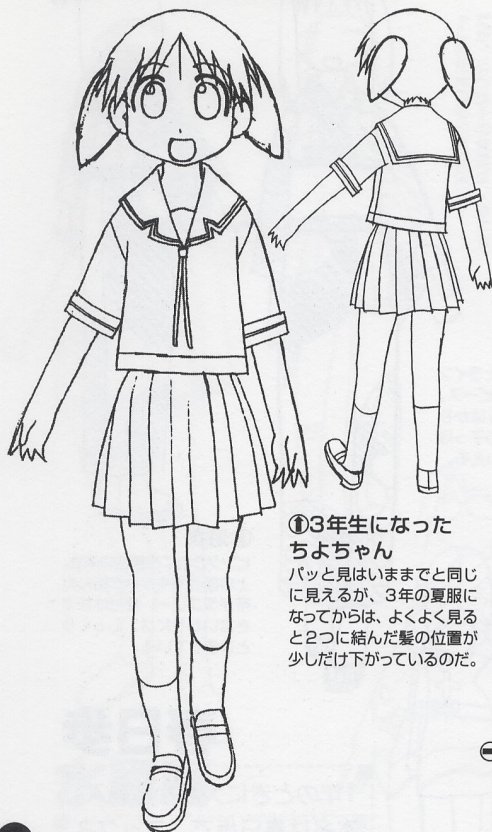
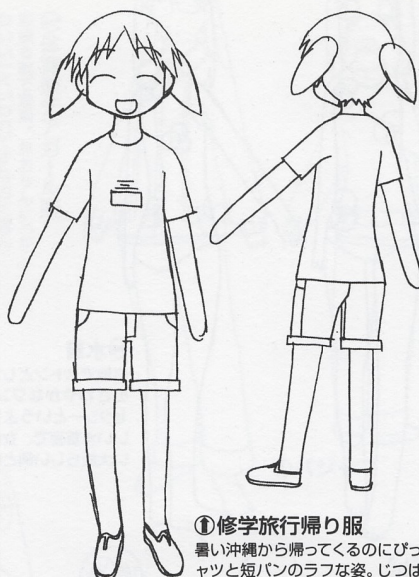
10歳にして、高校1年に編入してきた天才少女。家はお金持ちで、海の近くに別荘を持ち、毎年、その別荘へみんなで行くのが恒例だ。物知りで料理も得意。だけど、体育はちょっと苦手で、大阪といい勝負。家で忠吉さんという犬を飼っている。

⬆水着
ピンクの地に白い花柄のかわいいワンピース。制服を着ているときは高校生に見えても、水着になってみると小学生にしか見えない?

⬇別荘出発服

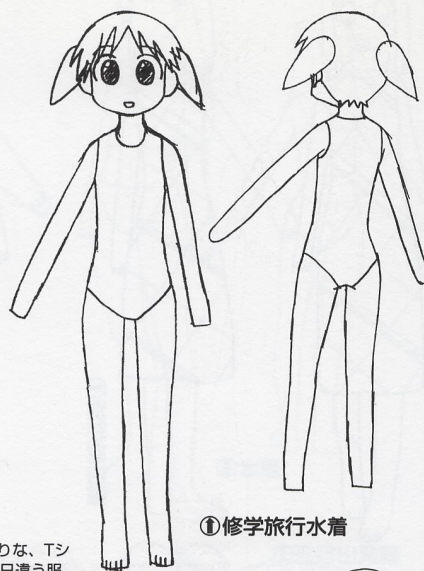
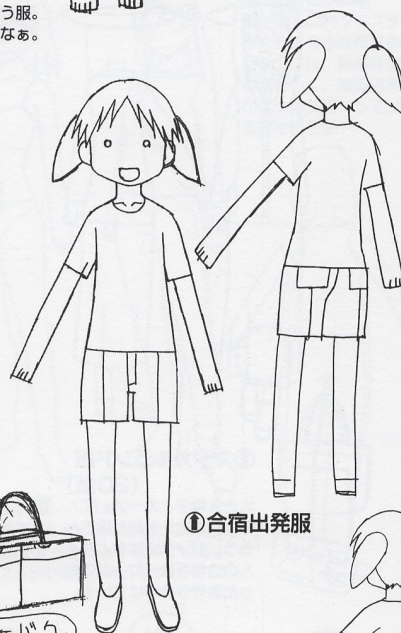
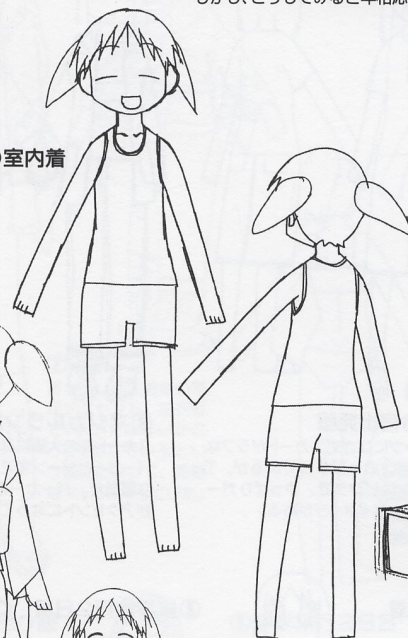
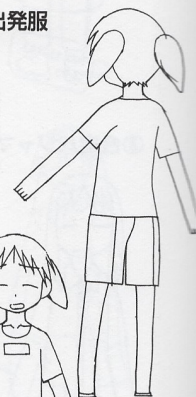
⬆私服

⬆浴衣
別荘で着ていたキュートな朝顔柄の浴衣。いうまでもなく、着付けもできる。榊とともに、みんなの浴衣の着付けもしてあげた。

⬆別荘室内服

⬆3年生になったちよちゃん

⬇修学旅行出発服

⬇マジカルランド服
(18話)

⬆修学旅行3日目

⬆修学旅行2日目

⬆3年生になったちよちゃん
パッと見はいままでと同じに見えるが、3年の夏服になってからは、よくよく見ると2つに結んだ髪の位置が少しだけ下がっているのだ。

⬆修学旅行帰り服
暑い沖縄から帰ってくるのにぴったりな、Tシャツと短パンのラフな姿。じつは毎日違う服。しかし、こうしてみると年相応に見えるなぁ。

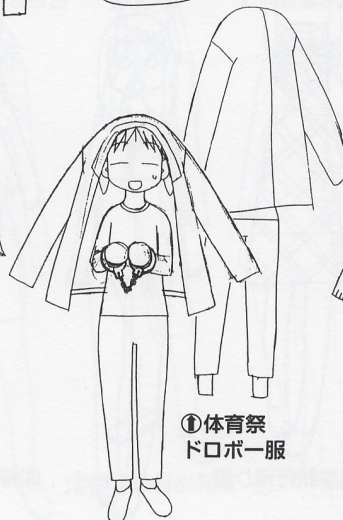
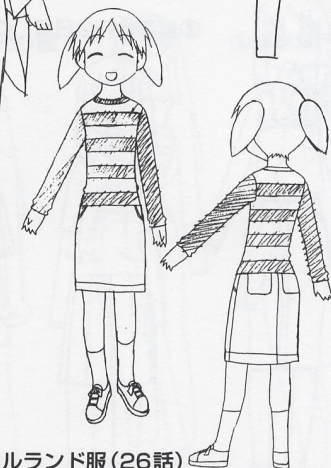
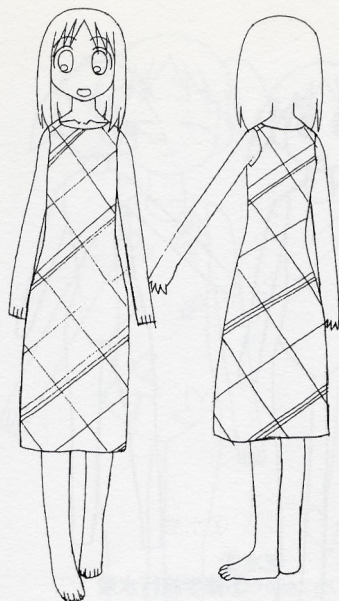
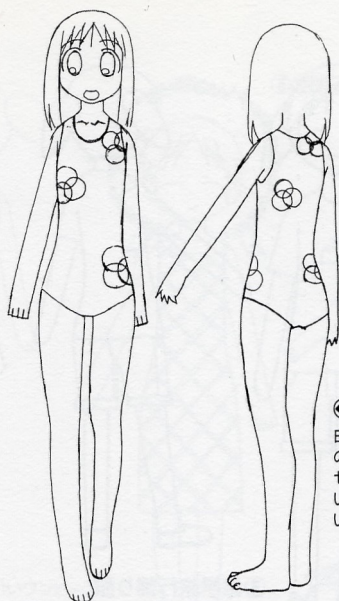
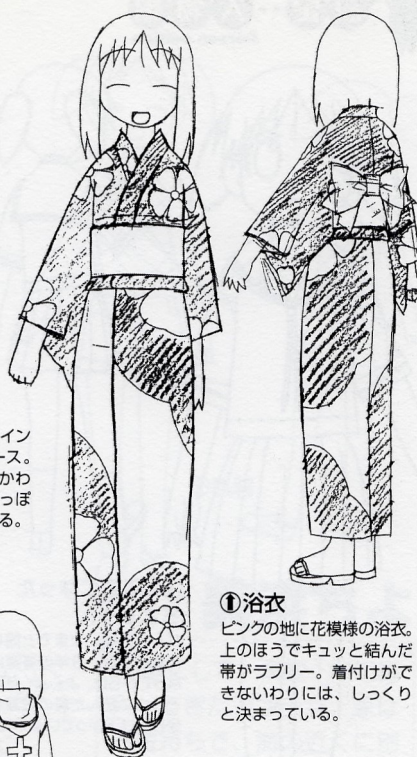
⬆修学旅行水着

➡室内着

⬇晴れ着
初詣に出かけたときの着物。さすがお金持ちのお嬢さんらしく(?)、正月は振り袖姿。やはり、着付けは自分でしたのだろうか?

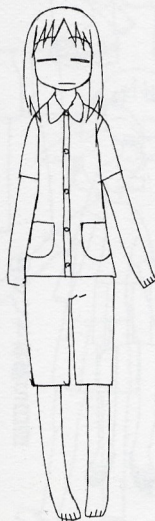
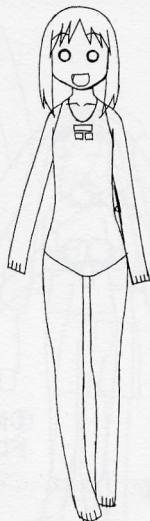
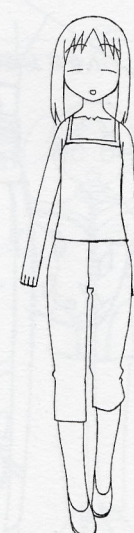
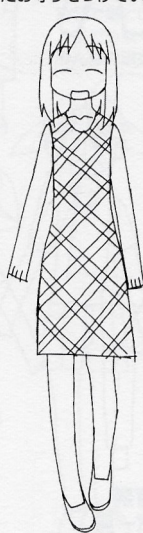
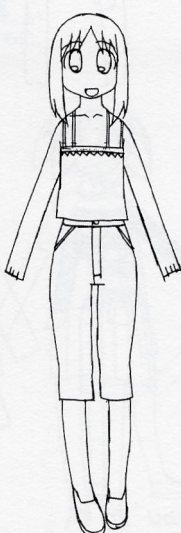
⬆合宿出発服

⬆マジカルランド服(26話)
太めのボーダーシャツとミニスカートがカジュアル。足許はスニーカーで、遊園地で動きやすそうな姿。普段もこんな感じらしい。

⬆体育祭ドロボー服

⬆ラジオ体操2日目

➡別荘室内服

⬅水着
白地でストンとしたラインのさわやかなワンピース。セクシーというよりはかわいい水着姿で、女の子っぽい大阪らしい柄といえる。

⬆浴衣
ピンクの地に花模様の浴衣。上のほうでキュッと結んだ帯がラブリー。着付けができないわりには、しっくりと決まっている。

春日歩

1年のときに大阪から転入。本名は春日歩で、ニックネームはそのまま「大阪」。勉強も体育も苦手だがクイズは得意。ちょっと違った思考の持ち主で、いつも突拍子のないことを言い出す。花粉症で「へーちょ」という変わったくしゃみをする。

たぶんちよにもらったお守り.

⬆マジカルランド服（20話）
大きな帽子とカーディガン、ロングスカートがお嬢さんふう。バッグにはちよちゃんの合格祈願パワーがこもったお守りをつけている。

⬆合宿出発服
Tシャツにひざ丈スカートがラフな印象だ。さっぱりしているが、Tシャツはピンクで、やっぱりガーリッシュなイメージがある。

⬆マジカルランド服（18話）
スカート派の大阪にはめずらしく、パーカーとジーンズでボーイッシュな服装だ。パーカーの後ろの模様がアクセントになっている。

⬇合宿パジャマ

⬇修学旅行水着

⬇修学旅行2日目

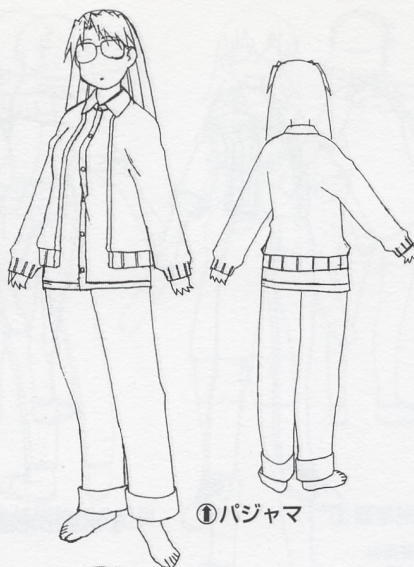
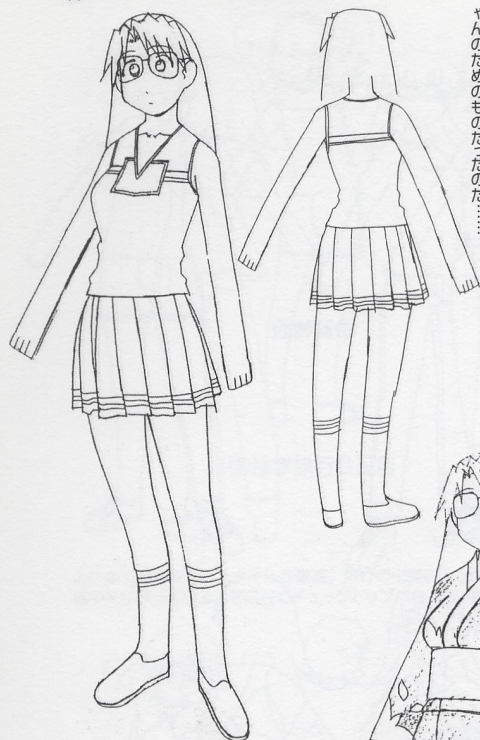
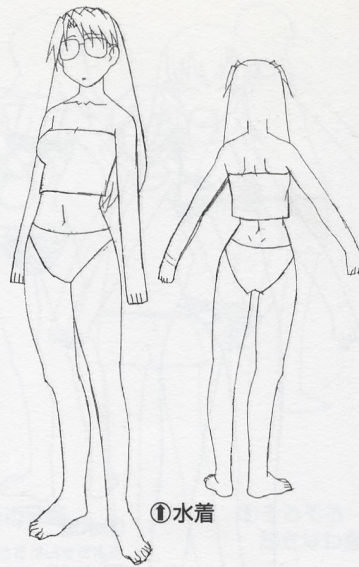
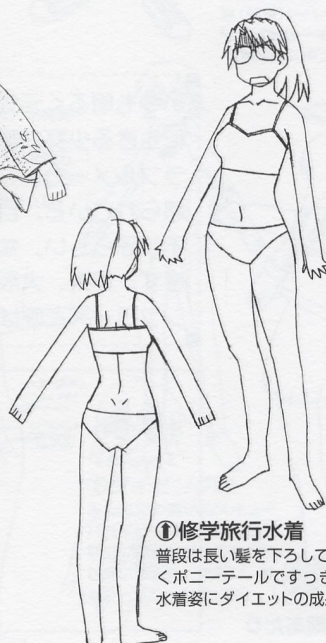
⬇別荘出発服

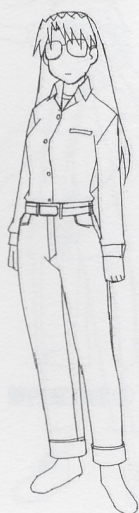
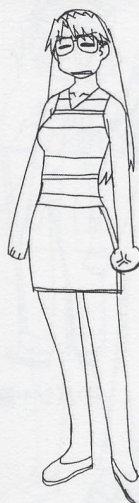
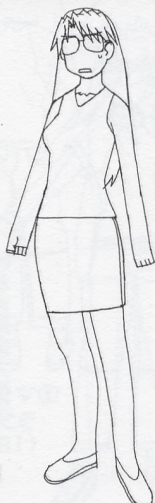
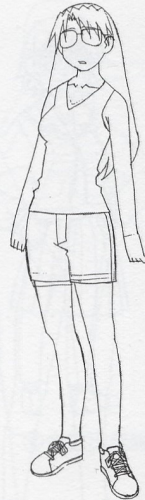
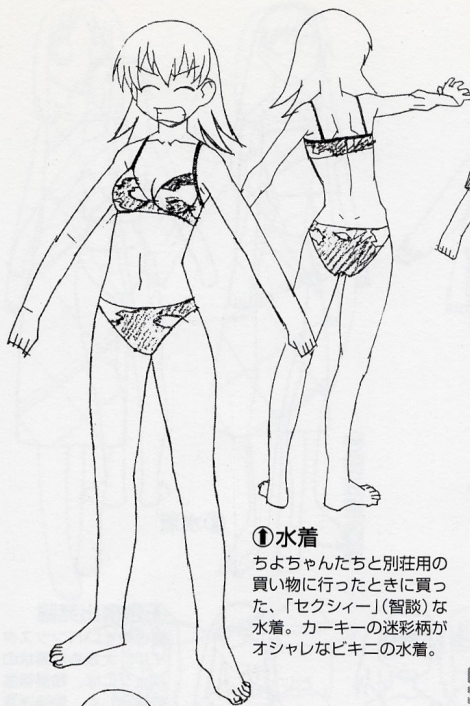
⬆修学旅行帰り服

⬆修学旅行3日目

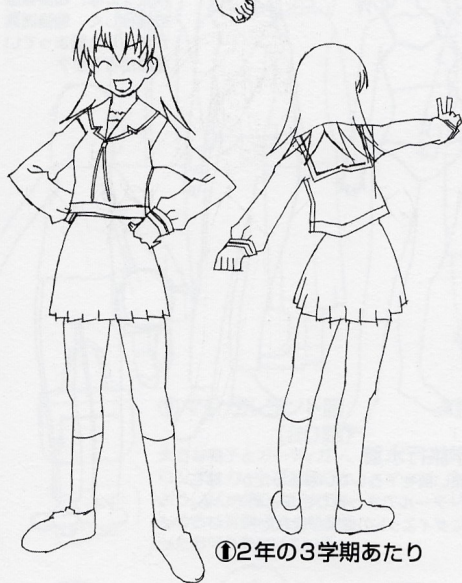
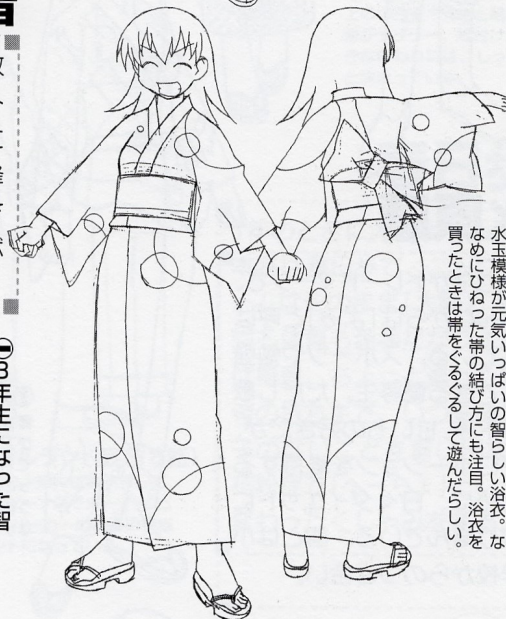
⬆修学旅行出発服

⬆私服

設定‥人物編
Person edition
体育祭チアガール服
応援合戦で着用。かおりんに「かわいい」といわれてすなおに喜んだが、じつはその賞賛は、ちよちゃんのためのものだったのだ……。
パジャマ
水着
合宿出発服
動きやすいパンツスタイル。大きめな筒状のバッグには、勉強等生の暦らしく、勉強道具がぎっしり詰まっているのだろうか？
水原暦
メガネがトレードマークで、みんなからは「よみ」と呼ばれている。スポーツや勉強もできる優等生。ただし歌は下手。甘いもの好きだが、プロポーションを維持するために、日々ダイエットに取り組んでいる。智とは小学校からのつき合い。
87
AZUMANGA DAIOH
浴衣
青っぽい地に黄色の帯がアクセント。浴衣姿で「よいではないかごっこ」をしているという智にたいして、冷静なツッコミをしていた。
修学旅行水着
普段は長い髪を下ろしているよみだが、珍しくポニーテールですっきりとまとめている。水着姿にダイエットの成果が現れた？
冬室内着
修学旅行帰り服
修学旅行２日目
別荘室内服
合宿室内着
修学旅行３日目
修学旅行出発服
別荘出発服

滝野智

いつも明るく元気で、自由奔放に生きる少女。後先考えないトラブルメーカーで、いつも暦に怒られている。目指す女性は峰不二子らしい。勉強はあまりできず、神楽、大阪と合わせてボンクラーズと呼ばれることも。

⬆水着
ちよちゃんたちと別荘用の買い物に行ったときに買った、「セクシィー」（智談）な水着。カーキーの迷彩柄がオシャレなビキニの水着。

⬆別荘出発服

⬆買物服

⬅浴衣
水玉模様が元気いっぱいの智らしい浴衣。ななめにひねった帯の結び方にも注目。浴衣を買ったときは帯をぐるぐるして遊んだらしい。

⬆2年の3学期あたり

⬅3年生になった智

⬆3年生になった智

⬆マジカルランド服（18話）

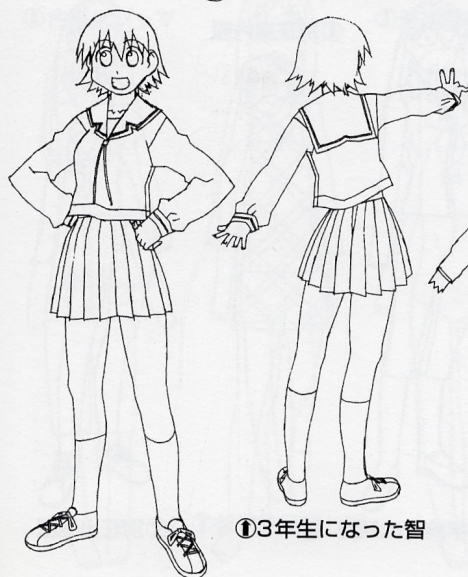
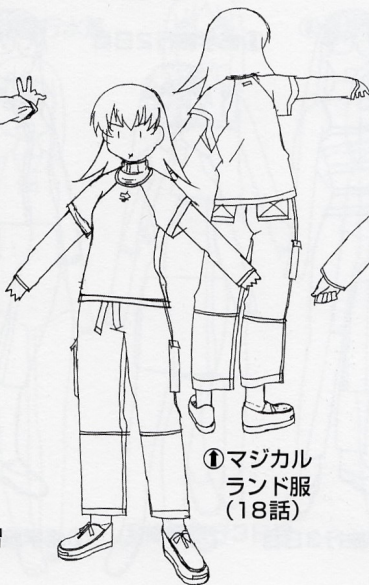
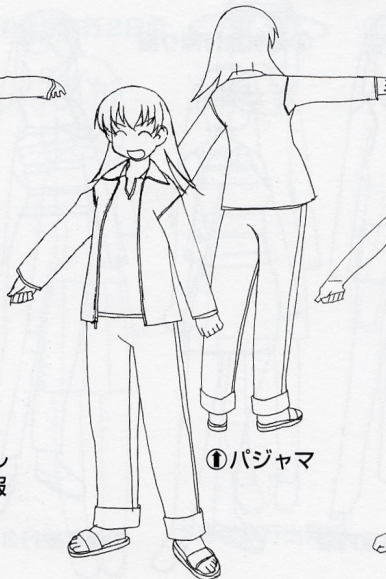
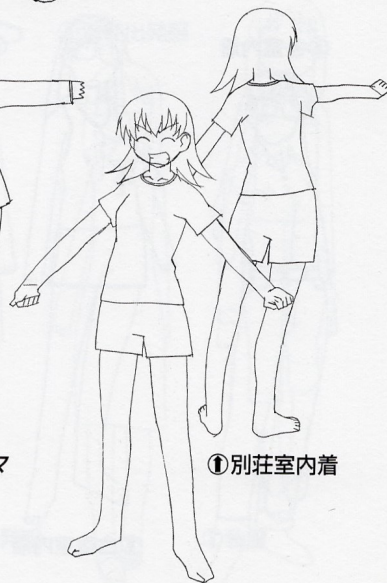
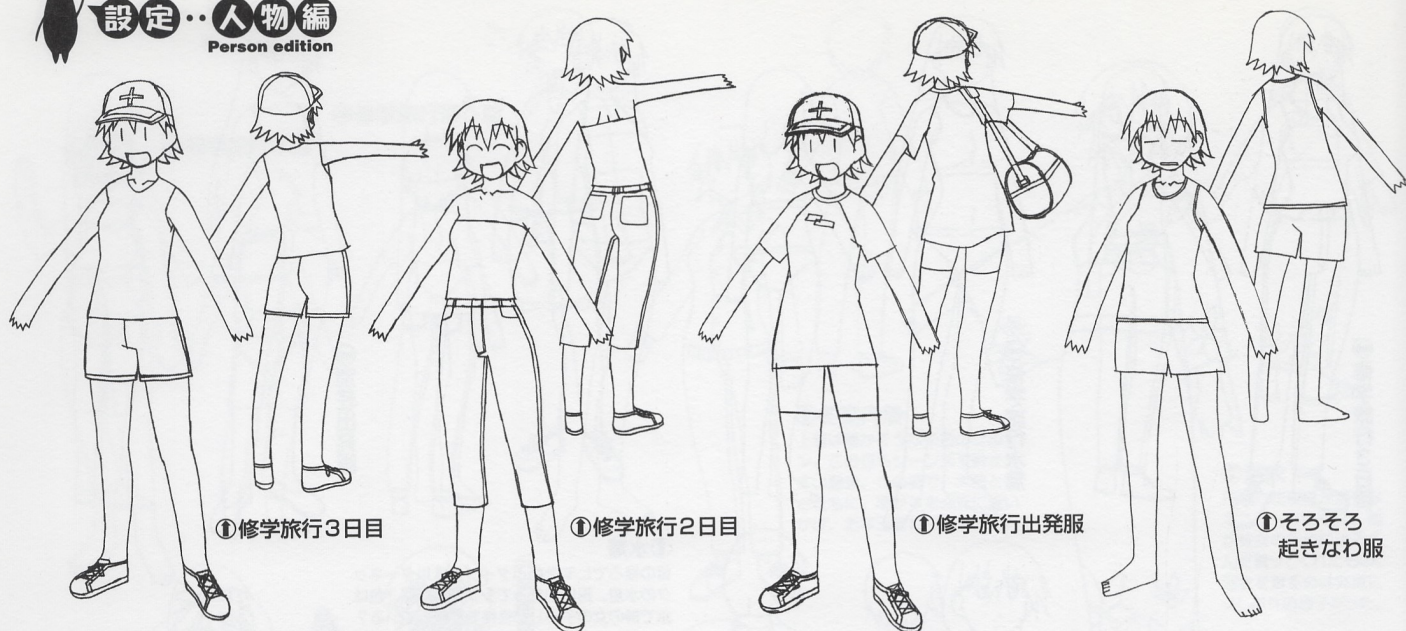
⬆パジャマ

⬆別荘室内着

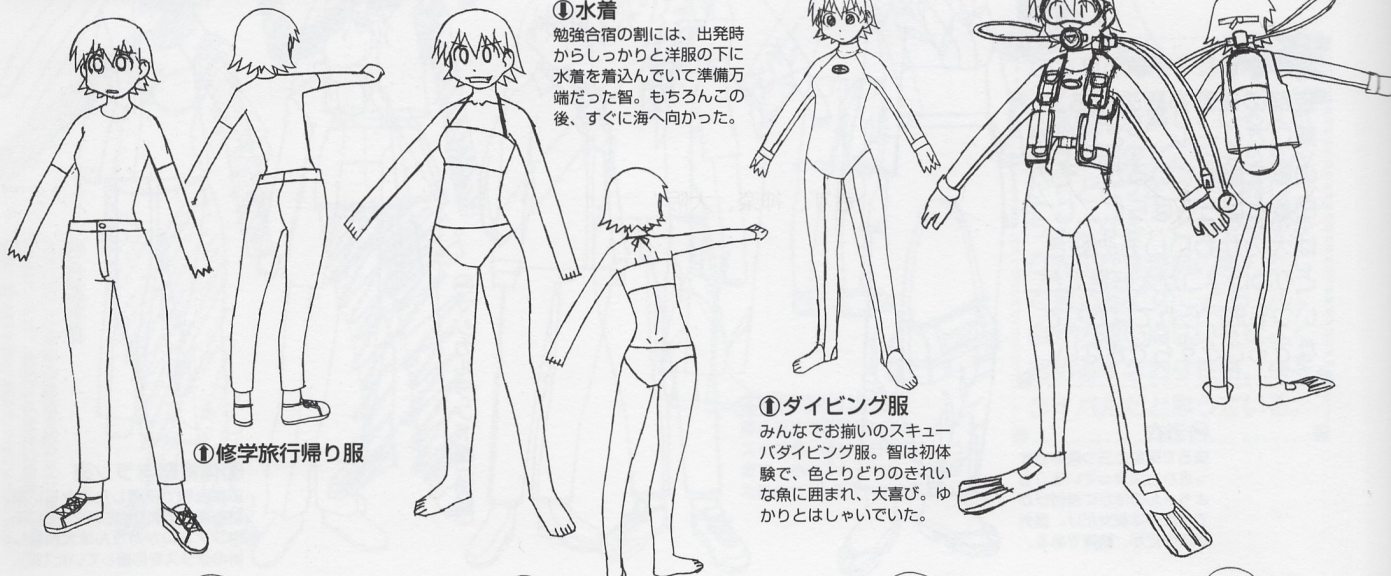
⬆修学旅行3日目

⬆修学旅行2日目

⬆修学旅行出発服

⬆そろそろ起きなわ服

とにかく動きやすいスタイルを重視。旅行の出発日と3日目は同じ帽子をかぶっている。2日目のチューブトップが色っぽい感じだ。

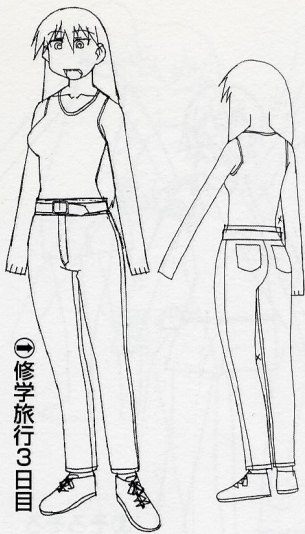
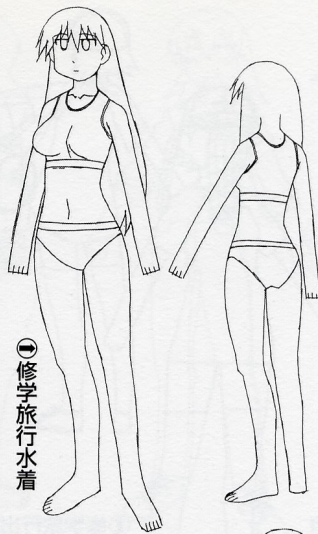
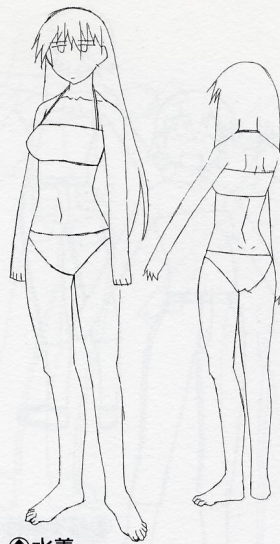
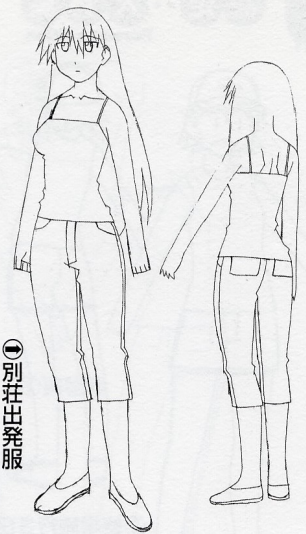
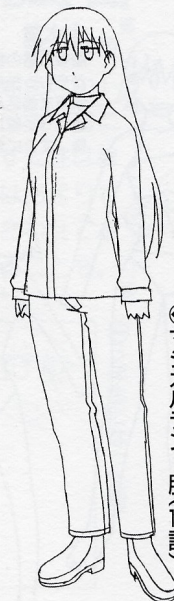
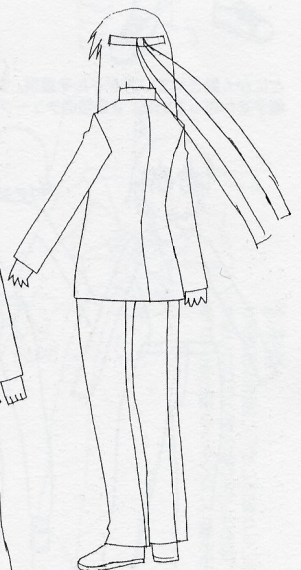
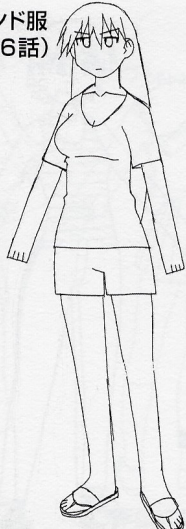
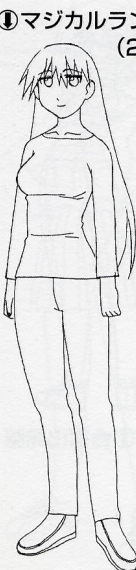
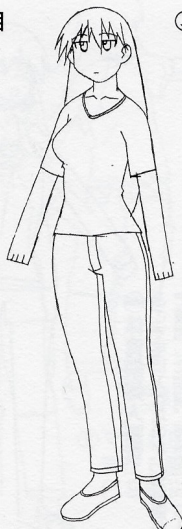
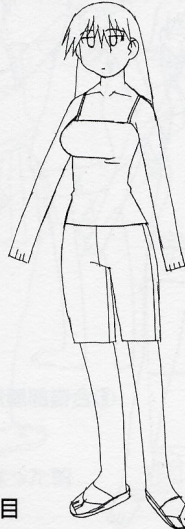
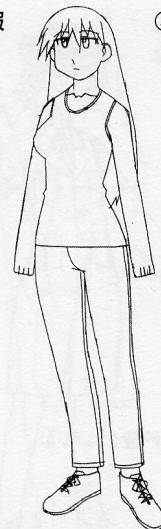
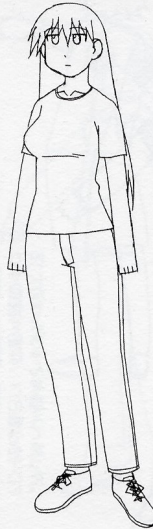
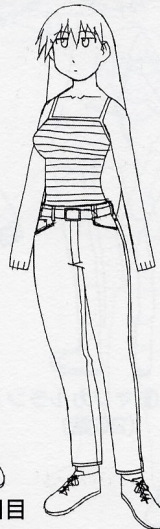
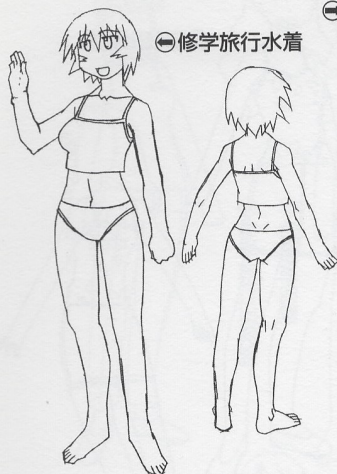
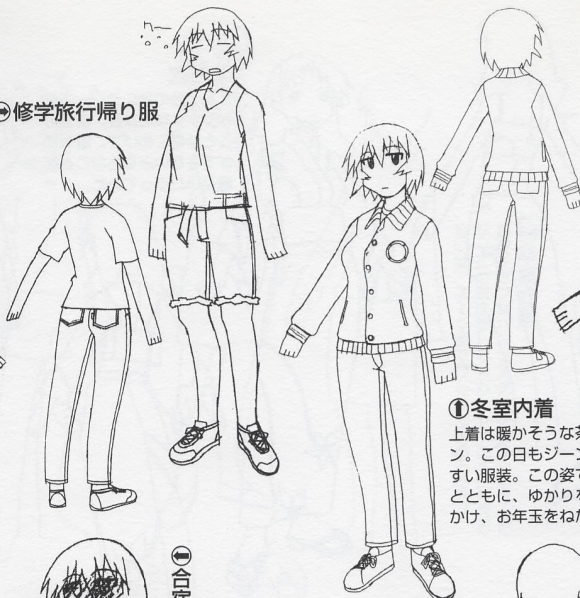
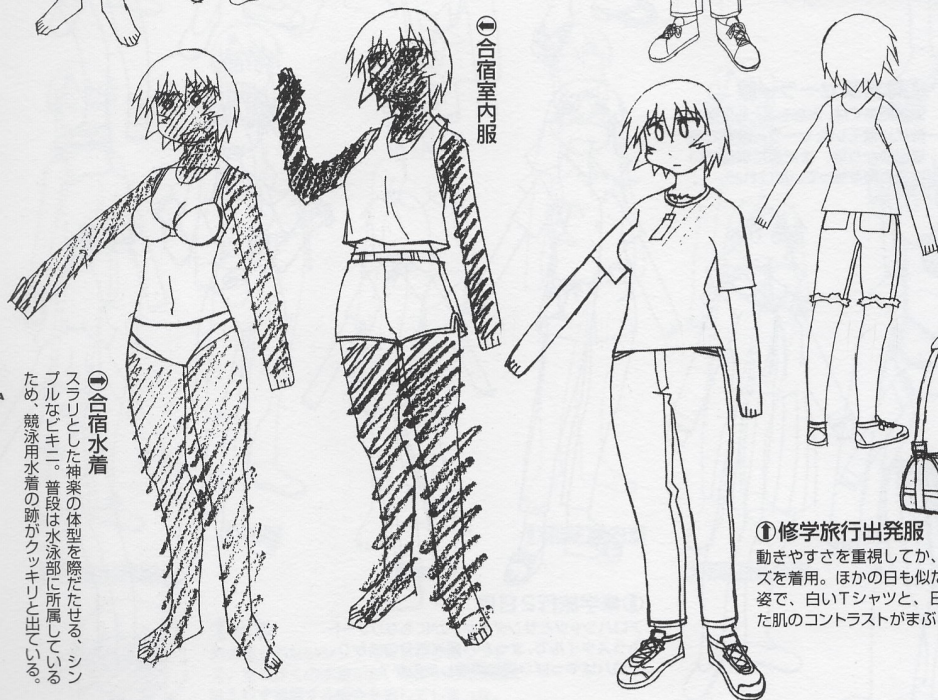
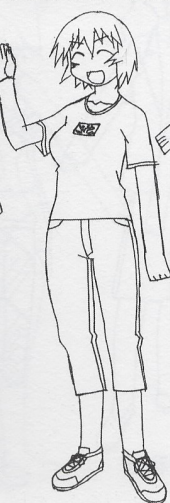
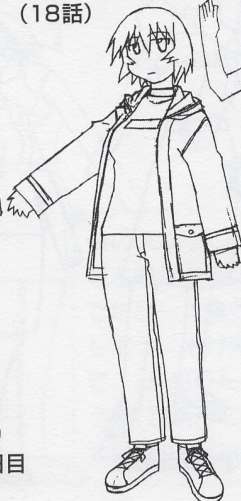
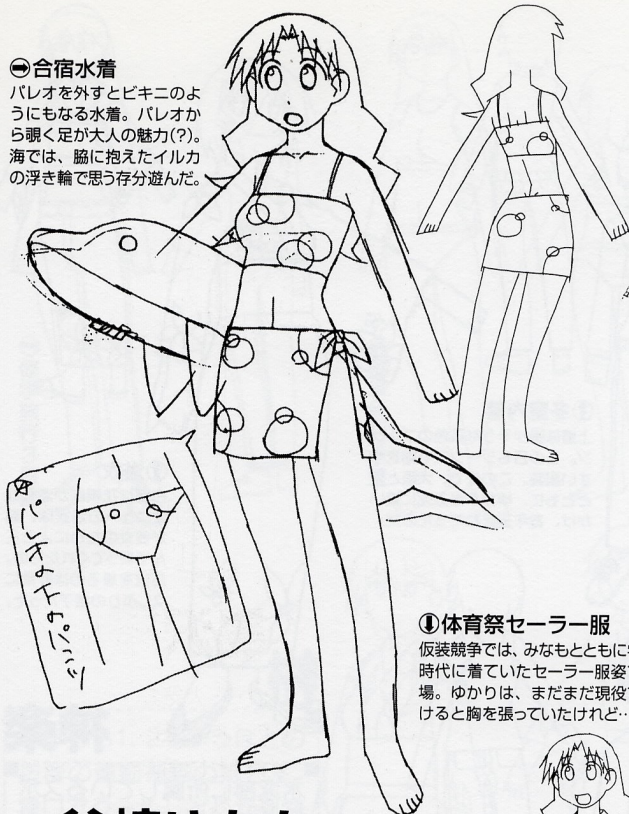
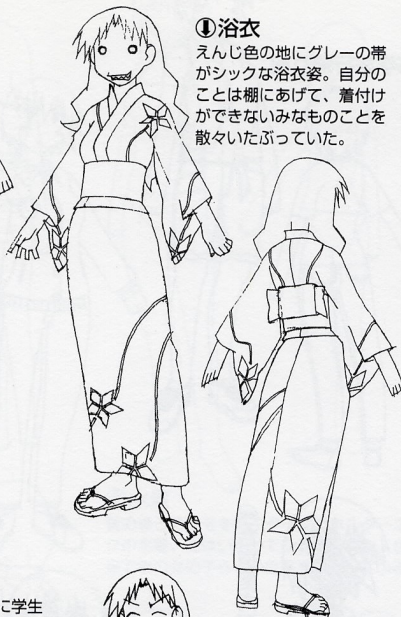
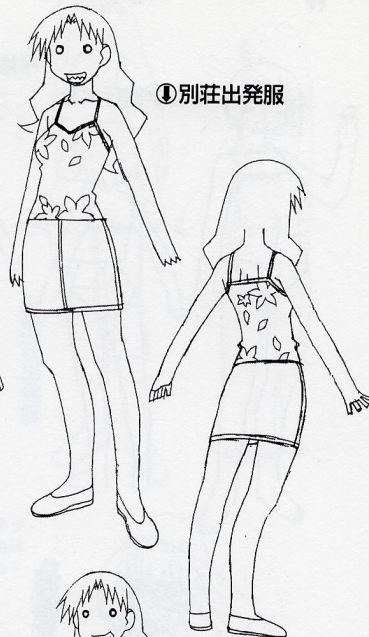
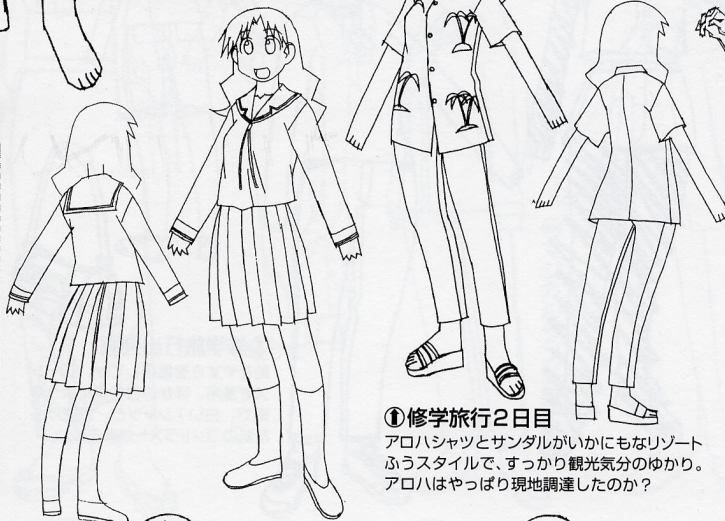
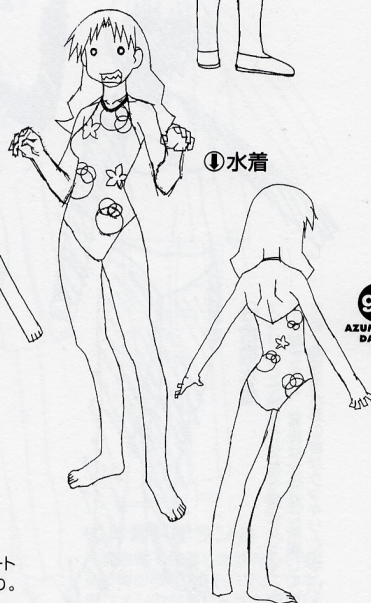
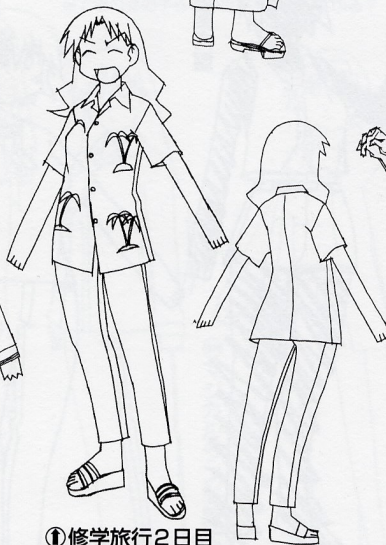
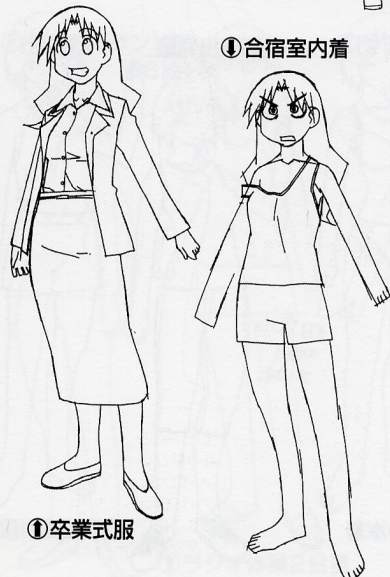
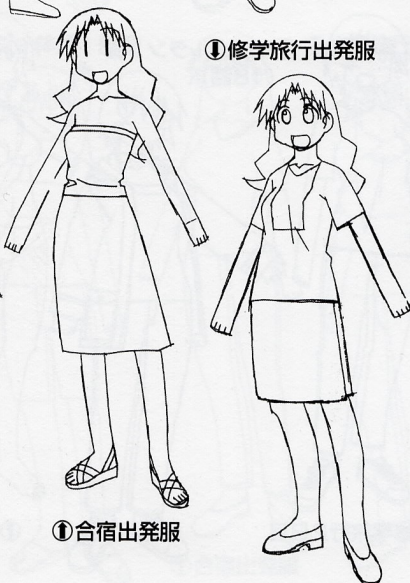
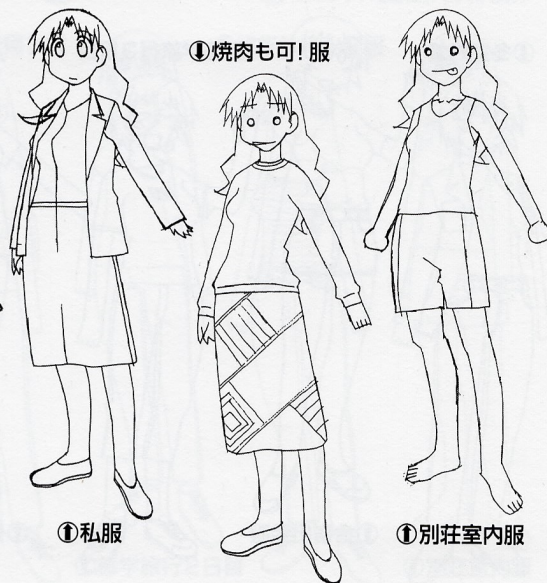
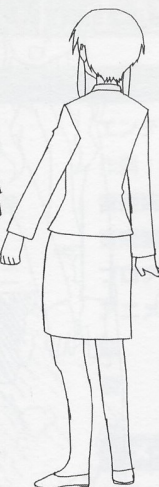
⬇水着
勉強合宿の割には、出発時からしっかりと洋服の下に水着を着込んでいて準備万端だった智。もちろんこの後、すぐに海へ向かった。

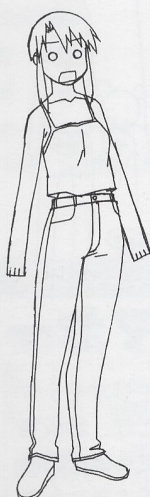
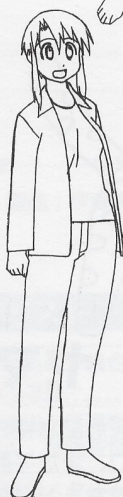
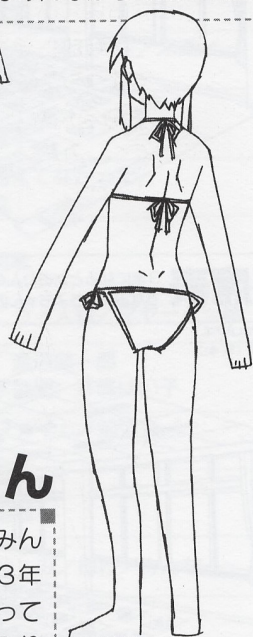
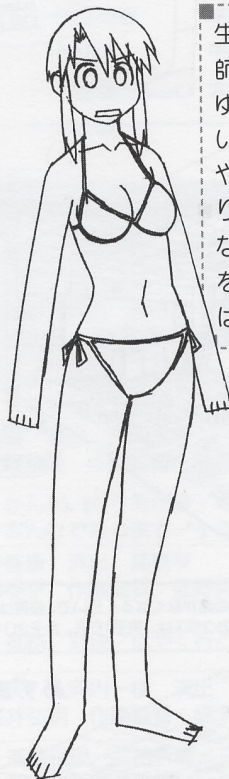
⬆修学旅行帰り服

⬆ダイビング服
みんなでお揃いのスキューバダイビング服。智は初体験で、色とりどりのきれいな魚に囲まれ、大喜び。ゆかりとはしゃいでいた。

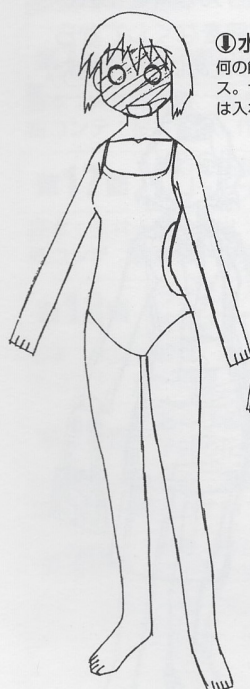
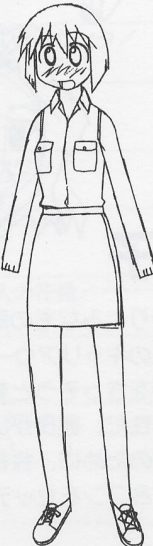
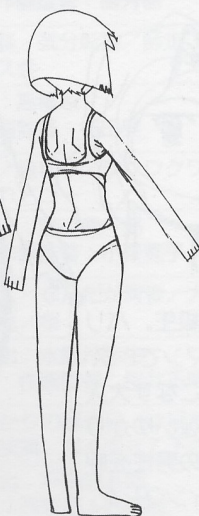
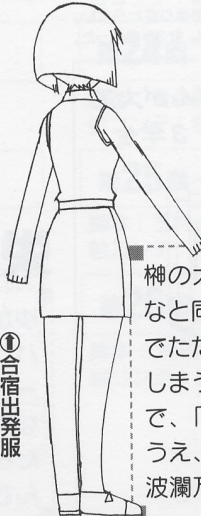
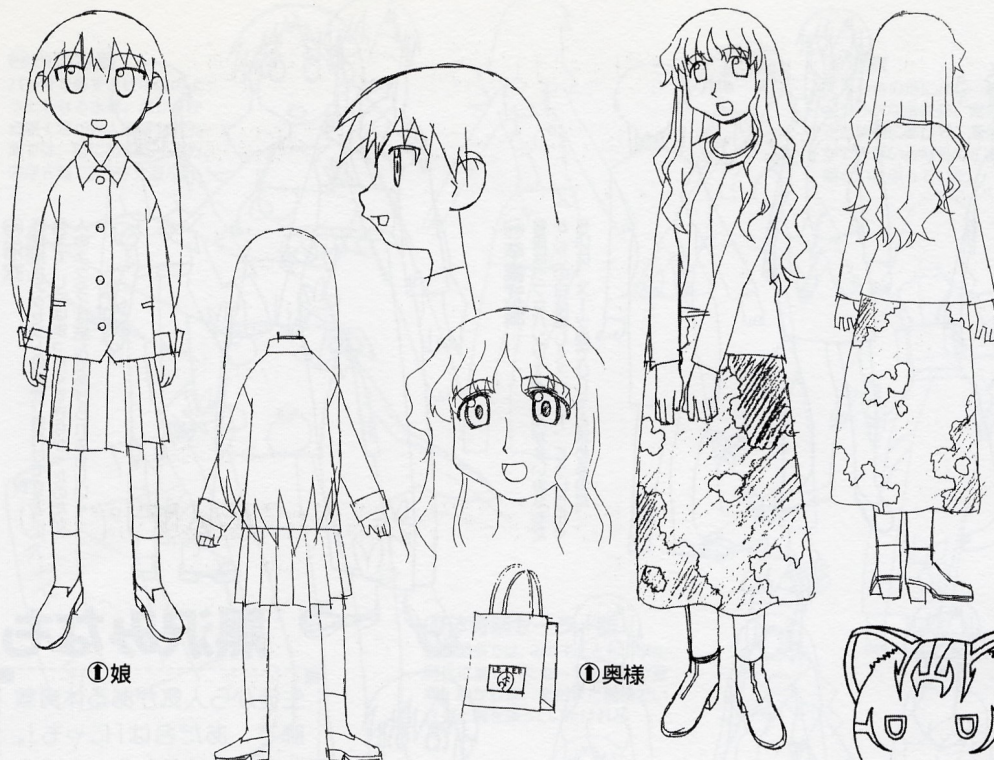
⬆マジカルランド服（26話）

⬅体育祭婦人警官
どこで手に入れたのか、仮装競争で着用した制服。将来ICPO入りを目指す智は、この姿で犯人に扮したちよちゃんを抱えて走った。

⬆合宿部屋着

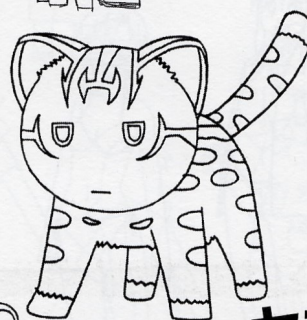
⬆合宿出発服

修学旅行3日目
修学旅行水着
別荘出発服
水着
首の後ろでヒモを結ぶタイプのホルターネックの水着。形はいたってシンプルだが、色は赤で榊の女の子らしい性格を反映している？
榊
学年でも1、2を争うほどの抜群の運動神経の持ち主。無口でクール。どこか孤独の影を秘めているが、その印象とはうらはらに、じつは大のかわいいもの好き。とりわけネコが大好きだが、いつも逃げられてばかりで、なでることすらできない。
マジカルランド服（18話）
浴衣
後ろで束ねた三つ編みがすっきりと決まっている。ちよちゃんのほかに着付けができたのは彼女だけ。意外なようだが、納得である。
体育祭学ラン姿
応援合戦で披露した凛々しい姿。詰め襟があまりにもハマっている。榊ファンのかおりんは大興奮し、榊のクラスを応援していた（笑）。
90
AZUMANGA DAIOH
マジカルランド服（26話）
ラジオ体操１日目
修学旅行帰り服
修学旅行出発服
ラジオ体操2日目
合宿出発服
修学旅行２日目
別荘室内服

設定‥人物編
Person edition
⇨修学旅行帰り服
⇦修学旅行水着
⇧冬室内着
上着は暖かそうな茶色のブルゾン。この日もジーンズで動きやすい服装。この姿で、大阪と智とともに、ゆかりを必死に追いかけ、お年玉をねだったのだ。
⇧浴衣
白地に花模様が清楚なオニューの浴衣は、親が彼女のためによろこんで買ってくれたもの。浴衣を着るのは非常に久しぶりの様子だった。
⇦合宿室内服
神楽
水泳部に所属しているスポーツ万能少女。ちよちゃんたちとは2年生から同じクラスになる。どうやらゆかり先生が体育祭の戦力として見込んでのことらしい。自分の悪い点はいさぎよく認めるすなおな性格。榊をライバルだと思っている。
⇨合宿水着
スラリとした神楽の体型を際だたせる、シンプルなビキニ。普段は水泳部に所属しているため、競泳用水着の跡がクッキリと出ている。
⇧修学旅行出発服
動きやすさを重視してか、ジーンズを着用。ほかの日も似たような姿で、白いTシャツと、日焼けした肌のコントラストがまぶしい。
⇩冬室内着
⇩修学旅行3日目
⇩マジカルランド服
（18話）
⇩別荘出発服
⇧合宿出発服
⇧修学旅行2日目
⇧水着
⇧別荘室内服
91
AZUMANGA
DAIOH

➡合宿水着
パレオを外すとビキニのようにもなる水着。パレオから覗く足が大人の魅力(?)。海では、脇に抱えたイルカの浮き輪で思う存分遊んだ。
⬇浴衣
えんじ色の地にグレーの帯がシックな浴衣姿。自分のことは棚にあげて、着付けができないみなものことを散々いたぶっていた。
⬇別荘出発服
⬇体育祭セーラー服
仮装競争では、みなもとともに学生時代に着ていたセーラー服姿で登場。ゆかりは、まだまだ現役でいけると胸を張っていたけれど……。
⬇水着
谷崎ゆかり
英語教師で、ちよちゃんたちのクラスの担任。自分に正直な性格は学生時代から変わっていないらしい。生徒にたいしては放任主義だが、体育祭ではクラスを挙げて優秀に情熱を燃やす。車の運転が荒く、みんなを恐怖に陥れたこともある。
⬆修学旅行2日目
アロハシャツとサンダルがいかにもなリゾートふうスタイルで、すっかり観光気分のゆかり。アロハはやっぱり現地調達したのか?
92
AZUMANGA DAIOH
⬇合宿室内着
⬇修学旅行出発服
⬇焼肉も可!服
⬆卒業式服
⬆合宿出発服
⬆私服
⬆別荘室内服

黒沢みなも

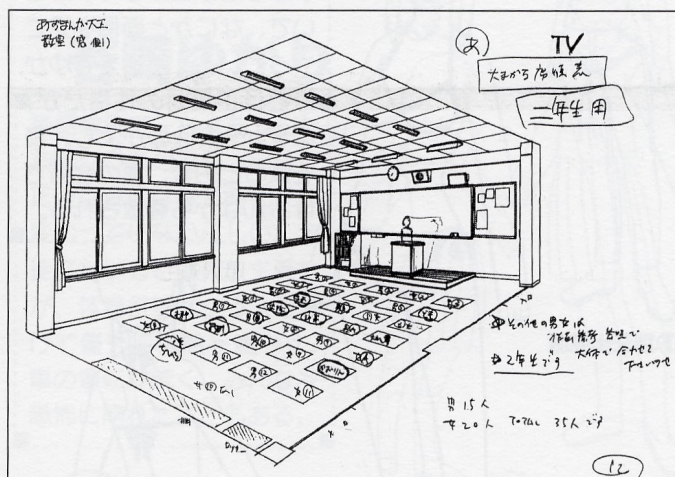
生徒から人気がある体育教師で、あだ名は「にゃも」。ゆかりとは昔からのつき合いで、なにかと面倒を見てやっている。常識人でゆかりとは正反対の性格だが、なぜか2人はなかよし。酒を飲むと豹変、夏の合宿ではみんなから尊敬される。

かおりん

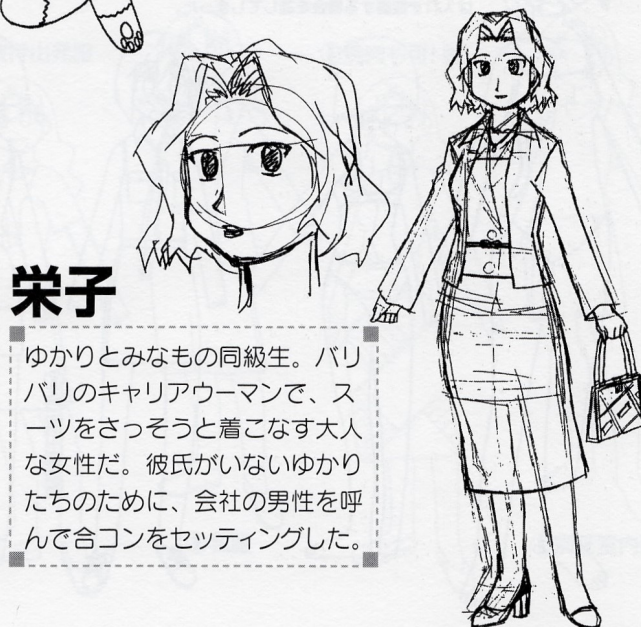
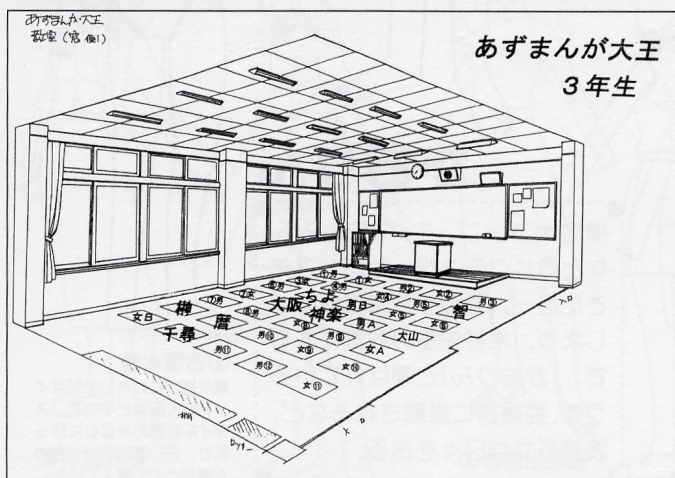
榊の大ファン。1、2年とみんなと同じクラスだったが、3年でただ一人違うクラスになってしまう。木村先生のお気に入りで、「かおりん」と呼ばれているうえ、委員長に推薦されるなど、波瀾万丈な日々を送る。

木村の奥様
木村の娘

美人でちょっと天然ボケな木村の奥様。彼の趣味を許すことのできる天使のような人。体育祭では、愛する旦那様のために「ラブワイフ弁当」を届けにきた。利発そうでかわいらしい娘は、間違いなく母親似だろう。

⬆娘

⬆奥様

ヤママヤー

特別天然記念物のイリオモテヤマネコ。まだ子供だが、野良猫たちを震え上がらせるほどの威力をもっている。ちよちゃんたちの修学旅行先で榊と出会い、交通事故で親をなくしてから、榊さんに会うためにやってきた。

座席表

3年になるとかおりんの席がなくなるくらいで、座席はあまり変わらない。ちなみに、ちよちゃんのクラスは、男子15名。女子20名。計35名だった。

栄子

ゆかりとみなもの同級生。バリバリのキャリアウーマンで、スーツをさっそうと着こなす大人な女性だ。彼氏がいないゆかりたちのために、会社の男性を呼んで合コンをセッティングした。

あずまんが大王 The Animationスタッフ&キャスト

メインスタッフ

原　　作……あずまきよひこ
（メディアワークス刊・月刊「コミック電撃大王」連載）
企　　画……佐藤辰男／真木太郎／大月俊倫
エグゼグティブプロデューサー……梅澤淳
プロデューサー……池田慎一／大澤信博／松倉友二
シリーズ構成……大河内一楼
キャラクターデザイン……加藤やすひさ
美術監督……柴田千佳子
色彩設計……店橋真弓
撮影監督……高瀬勝
編　　集……西山茂
音響監督……鶴岡陽太
音　　楽……栗原正己
演　　奏……栗コーダーポップスオーケストラ
オープニングテーマ……『空耳ケーキ』
作詞：畑亜貴　作・編曲：伊藤真澄　歌：Oranges & Lemons
エンディングテーマ……『Raspberry Heaven』
作詞：畑亜貴　作・編曲：上野洋子　歌：Oranges & Lemons
音楽協力……テレビ東京ミュージック
音楽製作……ランティス
プロデュース……GENCO
アニメーション制作……J.C.STAFF
監　　督……錦織博
製　　作……あずまんが製作委員会

メーンキャスト

美浜ちよ……金田朋子
春日歩……松岡由貴
滝野智……樋口智恵子
水原暦……田中理恵
榊……浅川悠
谷崎先生……平松晶子
黒沢先生……久川綾
神楽……桑島法子
かおりん……野川さくら
ちよ父……若本規夫
木村先生……石井康嗣
千尋……大前茜
大山……吉野裕行

各話スタッフリスト

第14回　おかいもの／集合／うみー！／捕獲作戦／大人の世界
脚本：玉井☆豪　演出：伊達巻子
絵コンテ：別所誠人　作画監督：加藤やすひさ

第15回　木村家の人々／みたみた？／未確認奥さん／ガチガチ／結果発表
脚本：大河内一楼　演出：高田耕一
絵コンテ：高田耕一　作画監督：古田誠、鈴木仁史

第16回　くみあわせ／降臨／かわいい／注文／宣伝効果
脚本：大久保智康　演出：三芳唯稀
絵コンテ：桜井弘明　作画監督：橘秀樹

第17回　大阪の怪談／気分転換／師走／すごいサンタ／クリスマス会
脚本：玉井☆豪　演出：高橋順
絵コンテ：錦織博　作画監督：植田実

第18回　うきよみ／裏切り／ワクワクワクワク／仲間はずれ／ゴー
脚本：大久保智康　演出：渡辺健一郎
絵コンテ：山川吉樹　作画監督：小栗寛子

第19回　あくび名人／なんだか青春／大人の花見／子供の花見／桜
脚本：五月はじめ　演出：水無月弥生
絵コンテ：渡辺カケル　作画監督：桜井正明

第20回　別離／ゆかりの誕生日／はばたけちよ／こども大統領／強く生きて下さい
脚本：大河内一楼　演出：戸張節五郎
絵コンテ：別所誠人　作画監督：古田誠

第21回　期待／いてもたっても／海の藻屑／夢の島／山にすむネコ
脚本：大久保智康　演出：高田耕一
絵コンテ：佐藤竜雄　作画監督：橘秀樹

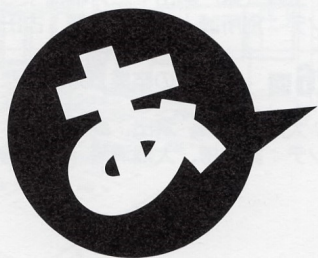
第22回　ナイスですよ／だまされた／黒沢先生／未遂／まだ終わってない
脚本：玉井☆豪　演出：大畑清隆
絵コンテ：大畑清隆　作画監督：晶貴孝二

第23回　かんだ／もりあげ役／考えてなかった／みんなで走ります／一丸
脚本：大久保智康　演出：高橋亨
絵コンテ：高橋亨　作画監督：佐野英敏

第24回　進路／対決／はやく行こう／人望／マヤーと一緒
脚本：吉永亜矢、大河内一楼　演出：渡辺健一郎
絵コンテ：桜井弘明　作画監督：橋本英樹、井嶋けい子

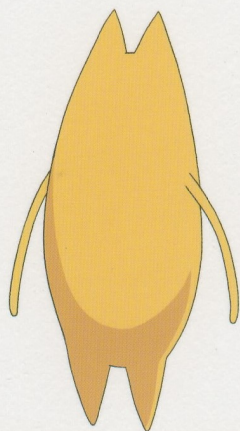
第25回　進路相談／合格祈願／ファイト／勉強会／智と大阪運命の日
脚本：玉井☆豪　演出：三芳唯稀
絵コンテ：別所誠人　作画監督：古田誠

第26回　初めての卒業／万感／悲しみ／母校／みんな
脚本：大河内一楼　演出：高橋亨
絵コンテ：錦織博、大畑清隆　作画監督：橘秀樹

初出

Dセレクション
あずまんが大王The Animation
ビジュアルブック②
発行　2002年12月30日　初版発行

編集……………………電撃アニマガ編集部
監修協力………………GENCO／J.C.STAFF／電撃大王編集部
デザイン………………カバー&4C：田村宏（海月デザイン）
1C：奥野良子（株式会社ウァン）
構成・執筆……………斎木美香・羽柴平（二葉堂）
梅澤鈴代（スタジオあむ）
瀬戸智美
渡辺砂織
カバーイラスト………小澤郁
スペシャルサンクス…J.C.STAFF／キングレコード／ランティス／
アニメージュ編集部／アニメディア編集部／
Newtype編集部／Megamiマガジン編集部／
鈴木誠二（エスウッド）

発行者…………………佐藤辰男
発行所…………………株式会社メディアワークス
〒101-8305　東京都千代田区神田駿河台1-8
TEL 03-5281-5217（編集）
発売元…………………株式会社角川書店
〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
TEL 03-3238-8605（営業）
印刷所…………………大日本印刷株式会社

Printed in Japan
ISBN4-8402-2290-8 C0076

CHIYO CHICHI
rear view

VISUAL BOOK 2
あずまんが大王
THE ANIMATION

ISBN4-8402-2290-8

C0076 ¥1500E

発行／メディアワークス
定価：本体1,500円
※消費税が別に加算されます